2020 年

**理学療法科　（1 学年）**

## 2020 年度　シラバス目次


| 科目名 | 項 |
|---|---|
| 情報科学 | 2 |
| 心理学 | 4 |
| 英語 | 6 |
| コミュニケーション論 | 9 |
| 統計学 | 13 |
| 保健体育 | 15 |
| レクリエーション論 | 17 |
| 社会学 | 21 |
| 解剖学Ⅰ | 24 |
| 解剖学Ⅱ | 30 |
| 体表解剖演習 | 34 |
| 生理学Ⅰ | 38 |
| 生理学Ⅱ | 44 |
| 運動学演習Ⅰ | 50 |
| 人間発達学 | 58 |
| 解剖演習 | 64 |
| 公衆衛生学 | 67 |
| 病理学 | 69 |
| 内科学 | 71 |
| 栄養学 | 73 |

| 科目名 | 項 |
|---|---|
| 救急救命学 | 76 |
| リハビリテーション学 | 82 |
| 総合医療学 | 85 |
| 理学療法概論 | 88 |
| 理学療法評価学 | 92 |
| 理学療法評価演習Ⅰ | 95 |
| 物理療法学 | 99 |
| 日常生活活動学演習Ⅰ | 102 |
| 生活環境学 | 105 |
| 臨床実習Ⅰ | 109 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 情報科学 |
| 担当者 | 新井　隆裕 |
| 単位数（時間数） | 2 単位　30 時間 |
| 学習方法 | 講義（演習） |
| 教科書・参考書 | 30 時間でマスター　Office2019（Windows10 対応）／実教出版株式会社<br>インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版／実教出版株式会社<br>SNS における個人情報取り扱いガイドブック／一般社団法人日本看護学校協議会共済会 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 情報科学の初学者にも理解できるように、具体例を用いながら情報科学の基礎知識について概説する。 現在、情報通信、情報メディア技術の発展に伴いコンピュータは身の回りのさまざまなところに組み込まれ、利用されている。このコンピュータの原理や歴史、インターネットの仕組み、コンピュータセキュリティといった情報に関する科学・技術的事項の習得を目指す。 また現在医療は ICT 化が進み、保健・医療・福祉のさまざまな場所で利用されている。そのため、コンピュータの基本的な操作とリテラシーについて基本の知識を学ぶ。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 情報の役割とコンピュータを利用した情報活用の重要性について理解する。<br>情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルについて理解する。 | 情報の役割に関心を持ち、具体例を挙げて考えることができる。<br>情報化が社会に与える影響に関心を持ち、モラルなどに基づいた行動ができる。<br>また、問題点について説明ができる。 | 新井 隆裕 |
| 2 | 前期 | 情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。 | 情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察できる。また、個人が身につけるべき方策や様々な問題点などについて理解し説明できる。 | 新井 隆裕 |
| 3 | 前期 | 電子メールの利用方法について理解する。 | キーボードでのタイピングができる。<br>メールサーバの仕組みを理解し設定ができる。<br>電子メールのマナーなどについて興味を持ち、適切に利用できる。<br>また危険性などについて理解しメールの送信ができる。 | 新井 隆裕 |
| 4 | 前期 | 情報通信ネットワークの概要と、インターネットの様々な利用方法やその効果について理解する。 | 情報通信ネットワークに興味を持ち、活用方法を考察できる。また、仕組みや活用例を説明できる。<br>検索・収集にインターネットを利用することに興味を持ち、効率的な検索ができる。<br>また、情報の価値や正確性について説明できる。 | 新井 隆裕 |
| 5 | 前期 | | | |
| 6 | 前期 | ワープロソフトウェア①<br>ワープロの利用に関する知識と技術を習得し、文書の構成、構成 | ワープロを利用した基本文書の作成に興味を持ち、様々な文書を適切に選択できる。<br>また、ワープロの基本的な機能を利用して | 新井 隆裕 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 要素の配置、文書作成の要領について理解するとともに、基本的な文書作成に関する知識と技術について理解する。 | 様々な文書が作成でき、ワープロの機能などを説明できる。 | |
| 7 | 前期 | ワープロソフトウェア②<br>ワープロの多様な機能を利用して、表を含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。 | 文書の作成に積極的に取り組み、必要に応じて様々な機能を選択できる。また、罫線表を含む文書作成ができ、罫線の機能などを説明できる。 | 新井 隆裕 |
| 8 | 前期 | ワープロソフトウェア③<br>ワープロの多様な機能を利用して、図形や写真などを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。 | 文書の作成に積極的に取り組み、必要に応じて様々な機能を選択でき文章に画像を挿入することができる。 | 新井 隆裕 |
| 9 | 前期 | 表計算ソフトウェア①<br>表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作について理解する。 | 演習に積極的に取り組み、適切な表の作成や基本操作ができ、特徴などを説明できる。 | 新井 隆裕 |
| 10 | 前期 | 表計算ソフトウェア②<br>関数を利用して有用な情報を導き出すための技法を理解する。 | 演習に積極的に取り組み、適切な関数を選択した表を作成し、関数の機能などを説明できる。 | 新井 隆裕 |
| 11 | 前期 | 表計算ソフトウェア③<br>グラフを用いて表のデータをわかりやすく表現できるようにするため、グラフの基礎知識や作成方法について理解する。 | 様々なグラフを積極的に活用し、適切なグラフが選択できる。また、目的に応じた形で作成し、特徴などを説明できる。 | 新井 隆裕 |
| 12 | 前期 | ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱ①<br>プレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解する。 | 効果的なプレゼンテーションの仕方について興味を持ち、プレゼンテーションの適切な実施や評価ができる。また、プレゼンテーションの準備などの流れの概要を説明できる。 | 新井 隆裕 |
| 13 | 前期 | ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱ②<br>プレゼンテーション資料を構成するスライドを作成するために必要な基本的な操作方法を理解する。 | 文字の入力ができる。<br>スライドのデザイン設定ができる。<br>新しいスライドが作成できる。 | 新井 隆裕 |
| 14 | 前期 | | イラストの挿入ができる。<br>オブジェクトの操作ができる。<br>スライドショーを実行できる。 | 新井 隆裕 |
| 15 | 前期 | 情報の表現と伝達を理解する | アナログとディジタルの違いを理解し説明することができる。 | 新井 隆裕 |
| 成績評価方法 | | 期末考査と演習点を平均し評価点とする。 | | |
| 準備学習など | | 講義サイト http://www.tokai-med.ac.jp/it/ を細目に確認して下さい。<br>欠席した場合、当日に行った演習内容を終えて次回の講義に出席してください。 | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　１学年 |
| 科目名 | 心理学 |
| 担当者 | 椎野　智子 |
| 単位数（時間数） | ２単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 教科書：なし<br>参考書：ベーシック心理学　二宮克美編　医歯薬出版　2016 年 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 心理学とは、人の心の働きや行動を科学的に解明しようとする学問であり、認知・発達・社会・臨床などさまざまな領域から成り立っている。本講義では、心理学の全体像を概観すると同時に、心理学理論のうち、基本的で重要と思われるものを中心に学ぶことを目的とする。さらにカウンセリング技法を習得することにより、自己と他者への理解を深め、信頼関係の形成に役立つカウンセリング技術を身につける。スクールカウンセラー経験を有する教員が、その経験を活かして授業を担当す |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「心理学とは」<br>一般目標<br>①心理学の概要を学ぶ | 「心理学とは」<br>到達目標<br>①心理学の概要について説明できる | 椎野　智子 |
| 2 | 前期 | 「知覚・学習・記憶」<br>一般目標<br>①知覚について理解する<br>②学習について理解する<br>③記憶について理解する | 「知覚・学習・記憶」<br>到達目標<br>①知覚について説明できる<br>②学習について説明できる<br>③記憶について説明できる | 椎野　智子 |
| 3 | 前期 | 「動機づけ・感情」<br>一般目標<br>①動機づけについて理解する<br>②感情について理解する | 「動機づけ・感情」<br>到達目標<br>①動機づけについて説明できる<br>②感情について説明できる | 椎野　智子 |
| 4 | 前期 | 「パーソナリティ」<br>一般目標<br>①パーソナリティについて理解する | 「パーソナリティ」<br>到達目標<br>①パーソナリティについて説明できる | 椎野　智子 |
| 5 | 前期 | 「発達」<br>一般目標<br>①発達について理解する | 「発達」<br>到達目標<br>①発達について説明できる | 椎野　智子 |
| 6 | 前期 | 「人間関係・集団」<br>一般目標<br>①人間関係について理解する<br>②集団について理解する | 「人間関係・集団」<br>到達目標<br>①人間関係について説明できる<br>②集団について説明できる | 椎野　智子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7 | 前期 | 「意識と無意識」<br>一般目標<br>①意識と無意識について理解する | 「意識と無意識」<br>到達目標<br>①意識と無意識について説明できる | 椎野　智子 |
| 8 | 前期 | 「心理アセスメント（1）」<br>一般目標<br>①面接法について理解する<br>②知能検査について理解する | 「心理アセスメント（1）」<br>到達目標<br>①面接法について説明できる<br>②知能検査について説明できる | 椎野　智子 |
| 9 | 前期 | 「心理アセスメント（2）」<br>一般目標<br>①質問紙法について理解する<br>②投映法について理解する | 「心理アセスメント（2）」<br>到達目標<br>①質問紙法について説明できる<br>②投映法について説明できる | 椎野　智子 |
| 10 | 前期 | 「臨床心理面接（1）」<br>一般目標<br>①カウンセリングについて理解する<br>②心理療法について理解する | 「臨床心理面接（1）」<br>到達目標<br>①カウンセリングについて説明できる<br>②心理療法について説明できる | 椎野　智子 |
| 11 | 前期 | 「臨床心理面接（2）」<br>一般目標<br>①その他の心理療法について理解する | 「臨床心理面接（2）」<br>到達目標<br>①その他の心理療法について説明できる | 椎野　智子 |
| 12 | 前期 | 「臨床心理面接（3）」<br>一般目標<br>①集団心理療法について理解する | 「臨床心理面接（3）」<br>到達目標<br>①集団心理療法について説明できる | 椎野　智子 |
| 13 | 前期 | 「カウンセリング技法（1）」<br>一般目標<br>①カウンセリングの基本的態度について理解する<br>②傾聴について理解する | 「カウンセリング技法（1）」<br>到達目標<br>①カウンセリングの基本的態度について説明できる<br>②傾聴について説明できる | 椎野　智子 |
| 14 | 前期 | 「カウンセリング技法（2）」<br>一般目標<br>①くり返し・言い換えについて理解する<br>②質問について理解する | 「カウンセリング技法（2）」<br>到達目標<br>①くり返し・言い換えについて説明できる<br>②質問について説明できる | 椎野　智子 |
| 15 | 前期 | 「まとめ」<br>一般目標<br>①講義で学んだ内容について振り返り、対人援助を行う際の留意点を理解する | 「まとめ」<br>到達目標<br>①対人援助を行う際の留意点について説明できる | 椎野　智子 |
| 方法 | | 筆記試験 | | |
| 成績評価 | | 科目試験（60%）、授業内小レポート（40%） | | |
| 準備学習など | | 講義中に小レポートを実施し、習熟度を確認する。 | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 英語 |
| 担当者 | 平林挙 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 日常生活に必要な水準の身体、医療に関する英語を学習する。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「授業概要」<br>一般目標<br>授業内容、目標を認知する。 | 「授業の概要、学力の把握」<br>到達目標<br>当該期の授業の内容、評価方法等を知り、それに伴う授業への事前準備、参加姿勢等の認識を得る、また学期開始時の英語力を試験等を通じて出力できる。 | 平林挙 |
| 2 | 前期 | 「医療現場における英会話(1)、医学用語の語構成(1)、病院各科に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>病院各科に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(1)、医学用語の語構成(1)、病院各科に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>病院各科に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 3 | 前期 | 「医療現場における英会話(2)、医学用語の語構成(2)」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。 | 「医療現場における英会話(1)、医学用語の語構成(2)」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。 | 平林挙 |
| 4 | 前期 | 「医療現場における英会話(3)、医学用語の語構成(3)、頭部に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>頭部に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(3)、医学用語の語構成(3)、頭部に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>頭部に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 前期 | 「医療現場における英会話(4)、医学用語の語構成(4)、人体に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>人体に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(4)、医学用語の語構成(4)、人体に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>人体のおおまかな部分に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 6 | 前期 | 「医療現場における英会話(5)、医学用語の語構成(5)、臓器に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>主要な臓器に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(5)、医学用語の語構成(5)、臓器に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>主要な臓器に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 7 | 前期 | 「医療現場における英会話(6)、医学用語の語構成(6)、病院各科の人員に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>病院各科の人員に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(6)、医学用語の語構成(6)、病院各科の人員に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>病院各科の人員に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 8 | 前期 | 「中間試験」<br>一般目標<br>前の授業までで学んだことを試験を通じて適切に出力する。 | 「中間試験」<br>到達目標<br>前の授業までで学んだことを試験を通じて適切に出力できる。 | 平林挙 |
| 9 | 前期 | 「医療現場における英会話(7)、医学用語の語構成(7)、病院職員に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>病院職員に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(7)、医学用語の語構成(7)、病院職員に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>病院職員に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 10 | 前期 | 「医療現場における英会話(8)、医学用語の語構成(8)、症状に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>症状に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(8)、医学用語の語構成(8)、症状に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>症状に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11 | 前期 | 「医療現場における英会話(9)、医学用語の語構成(9)、痛みに関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>痛みに関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(9)、医学用語の語構成(9)、痛みに関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>痛みに関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 12 | 前期 | 「医療現場における英会話(10)、医学用語の語構成(10)、薬に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>薬に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(10)、医学用語の語構成(10)、薬に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>薬に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 13 | 前期 | 「医療現場における英会話(11)、医学用語の語構成(11)、薬に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>薬に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(11)、医学用語の語構成(11)、薬に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>薬に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 14 | 前期 | 「医療現場における英会話(12)、医学用語の語構成(12)、薬に関する英単語」<br>一般目標<br>医療現場における英会話を体験、理解する。<br>医学用語の語構成を理解する。<br>医療器具に関する英単語を理解する。 | 「医療現場における英会話(12)、医学用語の語構成(12)、医療器具に関する英単語を学ぶ」<br>到達目標<br>医療現場での英会話に参加できる。<br>医学用語、英語全般の語構成に関して説明できる。<br>医療器具に関する英単語を、綴ることができる。 | 平林挙 |
| 15 | 前期 | 「試験前まとめ」<br>一般目標<br>当該期の授業を通じて学習してきたことを振り返り、試験に必要な学力の習得ができているかを確認し、必要であれば試験に向けて学習する。 | 「授業内容の振り返り、試験に向けた対策等を考える」<br>到達目標<br>授業の内容を振り返り、それらについて説明することができる。<br>試験内容を把握し、自己の学力を認識し、必要であれば対策することができる。 | 平林挙 |
| 成績評価方法 | | 科目試験（100%）<br>平常点、中間試験(科目試験の点数に加算する) | | |
| 準備学習など | | 復習に努めること。 | | |
| 留意事項 | | | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | コミュニケーション論 |
| 担当者 | 三宅わか子 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義・グループワーク |
| 教科書・参考書 | 会話例とワークで学ぶ　理学療法コミュニケーション論　三宅わか子 他（編集）医歯薬出版株式会社　2018年 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| コミュニケーション論では社会人基礎力として必要なコミュニケーションスキルを身につけ，保健・医療・福祉分野で多職種と連携を取りながら，医療専門職として質の担保された理学療法の提供ができるための素地を身につけるために、講義およびグループワークを活用しながら学ぶよう構成する．本講義の前半はコミュニケーションを学ぶ目的および基礎的な知識を学習し，後半は養成校から臨床実習，卒後の臨床現場を想定した会話例を用いて具体的な状況をイメージしたうえで，いくつかのワークを通じてより良いコミュニケーションとは何かを自ら考えることを目的とする。本講義は理学療法士として病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし授業を行う |

| 回（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「コミュニケーションを学ぶ意義・目的」<br>一般目標<br>①コミュニケーションの基本的知識を学ぶ<br>②社会人・医療専門職として身につけたいコミュニケーションスキルの概要を理解する | 「医療専門職に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ」<br>到達目標<br>①医療専門職に必要とされる能力を説明できる<br>②学生を取りまくコミュニケーションの現状を説明できる<br>③人間発達におけるコミュニケーションの獲得について説明できる<br>④社会で求められる理学療法士像を理解できる | 三宅わか子 |
| 2 | 前期 | 「社会で働くために必要な能力」<br>一般目標<br>①社会人基礎力について学ぶ<br>②自己評価と能力の育成について理解する<br>③就職基礎能力について理解する | 「社会人基礎力を身につける」<br>到達目標<br>①社会人基礎力を説明できる<br>②医療専門職のコンピテンシーを説明できる<br>③学生から社会人への移行に必要な要素について説明できる | 三宅わか子 |
| 3 | 前期 | 「伝える・伝わるコミュニケーション」<br>一般目標<br>①コミュニケーション定義・必要性について理解する<br>②コミュニケーションの 3 つのカテゴリーについて理解する | 「手法としてのコミュニケーションスキルを身につける」<br>到達目標<br>①コミュニケーションスキルの必要性を説明できる<br>②3つのカテゴリーを説明できる | 三宅わか子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ③４つのコミュニケーションスキルについて理解する | ③コミュニケーションスキルの自己基盤づくりができる<br>④傾聴，見る，承認，伝えるスキルを説明できる | |
| 4 | 前期 | 「コミュニケーションのタイプ<br>一般目標<br>①コミュニケーションの取り方の違いを理解する<br>②コミュニケーションタイプについて理解する | 「コミュニケーションのタイプと取り方を活用する」<br>到達目標<br>①自分の性格特性を知ることができる<br>②世代間の特徴を知ることができる<br>③コミュニケーションの取り方の違いを説明できる | 三宅わか子 |
| 5 | 前期 | 「コミュニケーションにおける解決と解消」<br>一般目標<br>①解決型のコミュニケーションを理解する<br>②解消型のコミュニケーションを理解する<br>③５Ｗ２Ｈを理解する | 「解決型と解消型のコミュニケーションを身につける」<br>到達目標<br>①各種会話の傾向を説明できる<br>②論理的な話し方を身につける<br>③情緒的コミュニケーションを身につける<br>④問題解決力を身につける<br>⑤５Ｗ２Ｈを説明できる | 三宅わか子 |
| 6 | 前期 | 「養成校でのコミュニケーション」<br>一般目標<br>①学生時代に身につけたい基本を理解する<br>②コミュニケーションの手順化と応用について説明できる | 「学生時代に身につけたいコミュニケーションを学修する」<br>到達目標<br>①学内での関係性づくりについて説明できる<br>②良好なコミュニケーションについて説明できる<br>③行動目標を立てられる<br>④コミュニケーションの手順化について説明できる<br>⑤対外的なコミュニケーションについて説明できる<br>⑥社会人・医療専門職として必要な能力を身につける | 三宅わか子 |
| 7 | 前期 | 「臨床実習で求められるコミュニケーション」<br>一般目標<br>①目上の人とのコミュニケーションを理解する<br>②臨床実習での対人コミュニケーションを理解する | 「臨床実習で必要な対人コミュニケーション」<br>到達目標<br>①目上の人から意見を聴く力を説明できる<br>②学生と指導者の関係を説明できる.<br>③学生と対象者の関係を説明できる<br>④学生と他職種職員の関係を説明できる | 三宅わか子 |
| 8 | 前期 | 「就職活動から入職までに身につけたいコミュニケーション<br>一般目標<br>①就職活動で求められる人材について理解する<br>②職種間でのコミュニケーションを理解する | 「理学療法士として入職までに学ぶコミュニケーション」<br>到達目標<br>①就職活動で求められる能力について説明できる<br>②施設見学を想定した場面で適切な会話ができる | 三宅わか子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ③カンファレンスでの会話を体験する | ③面接時のコミュニケーションを説明できる<br>④就職基礎能力について説明できる | |
| 9 | 前期 | 「対人コミュニケーション～人を育てるコミュニケーション～」<br>一般目標<br>①対人コミュニケーションの構図を理解する<br>②良好な関係性の成立について説明できる<br>③人材育成サイクル、PDCA サイクルを理解する | 「対人コミュニケーションの構図と人材育成」<br>到達目標<br>①対人コミュニケーションの構図を説明できる<br>②コンテキストとメッセージを説明できる<br>③ノイズを把握できる<br>④良好な人間関係を説明できる<br>⑤人材育成サイクルを説明できる<br>⑥PDCA サイクルを説明できる<br>⑦ロールプレイで実践できる | 三宅わか子 |
| 10 | 前期 | 「医療安全のためのコミュニケーション」<br>一般目標<br>①医療安全におけるコミュニケーションを理解する<br>②症例提示により分析・考察を理解する<br>③医療現場での報告・連絡・相談を理解する | 「医療安全におけるコミュニケーションスキル」<br>到達目標<br>①チームステップスについて説明できる<br>②状況の伝え方について説明できる<br>③SBAR について説明できる<br>④指示の受け方について説明できる<br>⑤医療現場での報告・連絡・相談について説明できる | 三宅わか子 |
| 11 | 前期 | 「クレーム対応のコミュニケーション」<br>一般目標<br>クレームについて理解する | 「クレーム対応のコミュニケーションスキル」<br>到達目標<br>①クレームについて説明できる<br>②ケーススタディ<br>分析・考察・報告・振返り | 三宅わか子 |
| 12 | 前期 | 「ミーテイングでのコミュニケーション」<br>一般目標<br>ミーテイングにおけるコミュニケーションについて理解を深め、発言の仕方を理解する | 「ミーテイングでのコミュニケーションスキル」<br>到達目標<br>①コンテキストとコンテンツの関係を説明できる<br>②発言の仕方を説明できる<br>③振返り | 三宅わか子 |
| 13 | 前期 | 「メンタルヘルスとコミュニケーション」<br>一般目標<br>①メンタルヘルスを理解する<br>②ストレスチェックを理解する<br>③人間関係の意識を理解する<br>④コミュニケーションによる影響を理解する | 「メンタルヘルスとコミュニケーションスキル」<br>到達目標<br>①メンタルヘルスを説明できる<br>②ストレスとメンタルヘルスの関係を説明できる<br>③ストレスチェックを実践できる<br>④ストレスの対策について説明できる<br>⑤コミュニケーションの影響について説明できる | 三宅わか子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 前期 | 「場面に応じたコミュニケーションの展開　症例１」<br>一般目標<br>①模擬場面設定においてコミュニケーションを実演する<br>②実演内容を評価する<br>③対応について企画を体験する<br>④報告書を提出する<br>⑤振返りを行う | 「場面に応じたコミュニケーションスキル症例１」<br>一般目標<br>①模擬場面設定において適切なコミュニケーションを予測できる<br>②実演内容を客観的に評価できる<br>③対応について企画を立案できる<br>④報告書を作成し提出することができる<br>⑤振返りの中でスキルアップにつながる提案ができる | 三宅わか子 |
| 15 | 前期 | 「場面に応じたコミュニケーションの展開　症例 2」<br>一般目標<br>①模擬場面設定においてコミュニケーションを実演する<br>②実演内容を評価する<br>③対応について企画を体験する<br>④報告書を提出する<br>⑤振返りを行う（報告書の修正） | 「場面に応じたコミュニケーションの展開症例 2」<br>一般目標<br>①模擬場面設定においてコミュニケーションを実演する<br>②実演内容を評価する<br>③対応について企画を体験する<br>④報告書を提出する<br>⑤振返りの中でスキルアップにつながる提案ができる | 三宅わか子 |
| 成績評価方法 | | 科目試験（60%）課題提出（20%）グループワーク（15%）出席率（5%）<br>上記の評価割合の総合点で 60 点以上を合格とする | | |
| 準備学習など | | 講義形式，グループワーク形式，報告書作成と様々な講義形態を展開する予定である。事前学習として各章を事前に読み、内容を確認する。講義では補足説明、グループワークでは情報交換・共有・感情の共感する場面設定を行うため自発的な授業への参加を希望する | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 統計学 |
| 担当者 | 大岩照宜 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 臨床現場で定量的な分析に用いられるデータの統計処理の基礎の他、サンプル同士の比較を行う検定を学ぶ。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 統計の目的とサンプル代表値<br>度数と尺度が理解できる | 統計学を学ぶことによって，何が分かり、何ができるかを述べることができる。 | |
| 2 | 前期 | 正規分布とデータのばらつきが理解できる | データのばらつきと正規分布について述べることができる。 | |
| 3 | 前期 | データの平均値と分散、標準偏差が理解できる | データの平均値、分散及び標準偏差について述べることができる。 | |
| 4 | 前期 | データの最確値と誤差が理解できる | データの最確値と誤差について述べることができる。 | |
| 5 | 前期 | 2つの変量の相関関係が理解できる | 2つの変量の相関関係について述べることができる。 | |
| 6 | 前期 | 相関の強さと相関係数の関係が理解できる | 相関の強さと相関係数の関係について述べることができる。 | |
| 7 | 前期 | 仮説検定の目的と意義が理解できる | 仮説検定の目的と意義について述べることができる。 | |
| 8 | 前期 | 母集団とサンプル平均値の検定が理解できる | 母集団とサンプル平均値の検定を述べることができる。 | |
| 9 | 前期 | ２つのサンプル平均値の検定が理解できる | 独立した２つ群を比較するためにサンプル平均値の検定を述べることができる。 | |
| 10 | 前期 | サイズの小さな２つのサンプル平均値の検定が理解できる | サンプルサイズの小さな群を比較する場合の平均値の検定を述べることができる。 | |
| 11 | 前期 | ２つのサンプルの比率の検定が理解できる | アンケート結果の比較のためサンプルの比率の検定を述べることができる。 | |
| 12 | 前期 | $\chi$2乗検定が理解できる | $\chi$2乗検定を用いた2つの変量の独立性について述べることができる。 | |
| 13 | 前期 | 臨床検査の性格を決める感度・特異度が理解できる | 感度･特異度について述べることができる。 | |
| 14 | 前期 | 臨床検査の性格を決めるリスク比とオッズ比が理解できる | リスク比やオッズ比について述べることができる。 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15 | 前期 | まとめと試験 | | |
| 成績評価方法 | | 定期試験を実施し評価する。 | | |
| 準備学習など | | 中学校・高等学校の数学で学んだ統計の基礎を確認しておきたい。 | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科 1 学年 |
| 科目名 | 保健体育 |
| 担当者 | 本山遼 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義および実習 |
| 教科書・参考書 | なし |

| 授業概要と目的 |
|---|
| スポーツの歴史やルールを通してフェアプレイの大切さを育成し、またさまざまな運動を通して運動の楽しさを味わい、体力の向上を目指し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する能力を育成する。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2 | 後期<br>後期 | ・ガイダンス<br>授業の流れや成績評価についての説明を理解する。<br>・バスケットボール<br>歴史やルール、ボールの扱い方やシュート等の基本的な技術を十分に身につける。 | ・実技の内容や講義の内容を把握し、最終試験に向けての対策をとる。<br>・基本的な技術の反復練習を重視するとともに、バスケットボールの楽しさを理解し、積極的にプレーに参加できる様にする。 | 本山遼 |
| 3<br>4 | 後期<br>後期 | バドミントン<br>歴史やルール、サーブ、レシーブ、スパイクの基本的な技術を十分に身につける。 | シャトルが生み出す独特の飛行とスピードの変化や勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい、グループにおける自分の役割を果たせる様にする。 | 本山遼 |
| 5<br>6 | 後期<br>後期 | バレーボール<br>歴史やルール、スパイク、トス、レシーブの基本的な技術を十分に身につける。 | 瞬時に適切な判断に対応した正確な動きができる。また、瞬発力や敏捷性などバランスのとれた体力づくりを行う。 | 本山遼 |
| 7<br>8 | 後期<br>後期 | フットサル<br>歴史やルール、パス、トラップ、シュートの基本的な技術を十分に身につける。 | ボールを扱う楽しさや喜びを味わえる様に協力しながら進んでゲームをしようとする。 | 本山遼 |
| 9<br>10 | 後期<br>後期 | バスケットボール<br>歴史やルール、ボールの扱い方やシュート等の基本的な技術を十分に身につける。 | 基本的な技術の反復練習を重視するとともに、バスケットボールの楽しさを理解し、積極的にプレーに参加できる様にする。 | 本山遼 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11<br>12 | 後期<br>後期 | バドミントン<br>歴史やルール、サーブ、レシーブ、スパイクの基本的な技術を十分に身につける。 | シャトルが生み出す独特の飛行とスピードの変化や勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい、グループにおける自分の役割を果たせる様にする。 | 本山遼 |
| 13<br>14 | 後期<br>後期 | バレーボール<br>歴史やルール、スパイク、トス、レシーブの基本的な技術を十分に身につける。 | 瞬時に適切な判断に対応した正確な動きができる。また、瞬発力や敏捷性などバランスのとれた体力づくりを行う。 | 本山遼 |
| 15 | 後期 | 最終試験<br>配布するプリントの復習を行う. | スポーツにおける知識を総復習できる様にする。 | 本山遼 |
| 成績評価方法 | | 出席点（60 点）＋授業態度（15 点）＋科目試験（25 点）<br>出席点（60 点）＝1 回の授業（4 点）×15 回<br>授業態度（15 点）＝授業中の態度(状況に応じて加点)<br>科目試験（25 点）＝100 点満点 / 4 | | |
| 準備学習など | | 普段から軽い運動やストレッチングを行うことが望ましい。<br>不得意な種目については、事前練習を積極的に行って授業に臨むこと。<br>インターネットなどでスポーツのルールについて事前に覚えておいくと、授業を楽しむことができる. | | |
| 留意事項 | | 怪我等で運動やスポーツができない場合は、あらかじめ申告しておく. | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | レクリエーション論 |
| 担当者 | 熱尾　有加 |
| 単位数（時間数） | 2単位　(30時間) |
| 学習方法 | 講義・グループワーク |
| 教科書・参考書 | 配布資料にて授業・グループワークを行っていく |

| 授業概要と目的 |
|---|
| ・レクリエーション時における身体活動の変化、機能回復の仕組みについて理解を深める。<br>・レクリエーションは日常生活場面や機能回復訓練においても有用であり、疾患の知識や臨床医学をしっかりと把握しておく必要があり専門性が求められる。<br>・特にレクリエーションを行う上で疾患と、そのリスクを把握しておく必要がある為、幅広い知識が求められる。<br>・障害というものをしっかりと把握し、身体機能評価だけでなく、社会的な面からもその障害がどのようにレクリエーションや身体活動と関わっていくのかを理解する。<br>・なお、理学療法士として、臨床現場においてレクリエーションの実践経験がある専任教員が授業を担当する。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「レクリエーションを施行する上での基礎知識」<br>一般目標<br>・身体機能を理解する<br>・運動時の身体活動レベルを理解する<br>・レクリエーションの進め方を学ぶ | 「レクリエーションにおける身体の活動、機能向上を理解できるようになる」<br>到達目標<br>・精神的、心理的、身体的を全人的に捉えることができるようになる<br>・健康寿命、生活習慣病とは何かを説明できるようになる<br>・医療人としてコミュニケーションをとることができるようになる | 熱尾　有加 |
| 2 | 前期 | 「循環器疾患患者を対象としたレクリエーション①」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で特徴的な疾患のポイントを理解する | 「循環器疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・血液、造血器疾患の特徴を説明できるようになる<br>・大動脈解離について特徴を説明できるようになる | 熱尾　有加 |
| 3 | 前期 | 「循環器疾患患者を対象としたレクリエーション②」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で心臓疾患の特徴とポイントを理解する | 「心臓疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・狭心症についての特徴を説明できるようになる<br>・急性心筋梗塞についての特徴を説明できるようになる<br>・不整脈についての特徴を説明できるようになる | 熱尾　有加 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 前期 | 「呼吸器疾患患者を対象としたレクリエーション①」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で呼吸器疾患の特徴とポイントを理解する | 「呼吸器疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点①」<br>到達目標<br>・肺炎、間質性肺炎についての特徴を説明できるようになる<br>・気管支喘息についての特徴を説明できるようになる<br>・肺癌についての特徴を説明できるようになる | 熱尾　有加 |
| 5 | 前期 | 「呼吸器疾患患者を対象としたレクリエーション②」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で COPD の特徴とポイントを理解する | 「呼吸器疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点②」<br>到達目標<br>・慢性閉塞性肺疾患についての特徴を説明できるようになる<br>・肺気腫についての特徴を説明できるようになる | 熱尾　有加 |
| 6 | 前期 | 「消化器疾患患者を対象としたレクリエーション」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で消化器疾患の特徴とポイントを理解する | 「消化器疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・胃癌についての特徴を説明できるようになる<br>・ウイルス性肝炎、肝硬変についての特徴を説明できるようになる<br>・大腸癌についての特徴を説明できるようになる | 熱尾　有加 |
| 7 | 前期 | 「内分泌・代謝疾患患者を対象としたレクリエーション」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で内分泌・代謝疾患の特徴とポイントを理解する | 「内分泌・代謝疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・糖尿病についての特徴を説明できるようになる<br>・腎不全についての特徴を説明できるようになる | 熱尾　有加 |
| 8 | 前期 | 「脳疾患、神経疾患患者を対象としたレクリエーション①」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で脳疾患、神経疾患の特徴とポイントを理解する | 「脳疾患、神経疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・パーキンソン病についての特徴を説明できるようになる<br>・小脳変性症についての特徴を説明できるようになる<br>・アルツハイマー病について特徴を説明できるようになる | 熱尾　有加 |
| 9 | 前期 | 「脳疾患患者を対象としたレクリエーション②」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で脳疾患の特徴とポイントを理解する。 | 「脳疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・脳卒中についての特徴を説明できるようになる。<br>・高次脳機能障害の主な症状を理解する | 熱尾　有加 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 前期 | 「老年期の障害を対象としたレクリエーション」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で老年期の障害の特徴とポイントを理解する。 | 「老年期の障害を呈した患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・加齢に伴う身体的変化についての特徴を説明できるようになる。<br>・高齢者とのコミュニケーションスキルについて理解し、実践できる。<br>・高齢者に特徴的な症状、疾患について特徴を説明できるようになる。 | 熱尾　有加 |
| 11 | 前期 | 「小児疾患患者を対象としたレクリエーション」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で小児疾患の特徴とポイントを理解する。 | 「小児疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・子供の成長・発達過程を知ることの重要性を理解し、説明できる。<br>・乳児期、幼児期、学童期、思春期の子供の身体的成長・機能的発達・心理社会的発達の特徴を説明できるようになる。 | 熱尾　有加 |
| 12 | 前期 | 「整形外科疾患患者を対象としたレクリエーション①」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で整形外科疾患の特徴とポイントを理解する。 | 「整形外科疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・骨粗鬆症についての特徴を説明できるようになる。<br>・大腿骨近位部骨折についての特徴を説明できるようになる。<br>・変形性関節症についての特徴を説明できるようになる。<br>・椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症についての特徴を説明できるようになる。 | 熱尾　有加 |
| 13 | 前期 | 「整形外科疾患患者を対象としたレクリエーション②」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で整形外科疾患の特徴とポイントを理解する。 | 「整形外科疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・廃用症候群についての特徴を説明できる。<br>・関節リウマチについての特徴を説明できる。 | 熱尾　有加 |
| 14 | 前期 | 「精神疾患患者を対象としたレクリエーション」<br>一般目標<br>・レクリエーションを行う上で精神疾患の特徴とポイントを理解する。 | 「精神疾患患者がレクリエーションを施行する時の注意点」<br>到達目標<br>・統合失調症についての特徴を説明できる。<br>・うつ病、抑うつ状態についての特徴を説明できる。<br>・認知症についての特徴を説明できる。 | 熱尾　有加 |
| 15 | 前期 | 「実際のレクリエーション」<br>一般目標<br>・疾患や環境に考慮したレクリエーションを考案する。 | 「実際の現場を想定したレクリエーションを考案する」<br>到達目標<br>・各疾患における特徴と注意点を考慮したレクリエーションを考案できる。 | 熱尾　有加 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | ・科目試験(100 点)<br>・出席状況<br>・授業態度 |
| 準備学習など | ・次回の授業に対する予習<br>・授業後の復習 |
| 留意事項 | 特になし |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・１学年 |
| 科目名 | 社会学 |
| 担当者 | 山口　宏 |
| 単位数（時間数） | ２単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義と１回のみグループワーク |
| 教科書・参考書 | 教科書は使用せず、参考書は毎回の授業で紹介する。 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| リハビリ業務で様々な世代・背景の人々と接していくなかで、その人々の人生の社会的な背景を深く理解できるようにする。また家族・貧困・差別などいろいろな社会問題を考えることによって、医療・福祉が置かれた現代社会の大きな見取り図を認識できるようにする。さらに毎回の授業内での記述を通して、自らの考えを素早く展開し、まとめる力を身につける。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「社会学ガイダンス」<br>社会学がどういうものか、概略を知る。 | 「常識を疑う視角を感じ取る」<br>・昔の出来事・事件をいくつか見ていくなかで、価値観の違いを具体的に記述できるようにする。<br>「現代のつながりのかたちをとらえる」<br>・これから具体的テーマを考えていくための予備知識として、地域のつながりを作る新たな取り組みを挙げられるようにする。 | 山口宏 |
| 2 | 前期 | 「戦後社会・文化史①」<br>終戦から高度成長期の時代変化を押さえる。 | 「終戦時の日常の社会状況を知る」<br>・映像も通して終戦後の諸側面を見ることで、生活を具体的に記述できるようにする。<br>「高度成長期の生活と流行を知る」<br>・集団就職とは何かを語れるようにし、現在の高齢層が生きてきた時代の流行を複数挙げられるようにする。 | 山口宏 |
| 3 | 前期 | 「戦後社会・文化史②」<br>1960 年代のカウンターカルチャーを知る。 | 「戦後の社会運動の流れを理解する」<br>・学生運動とその暴力的変質をたどることを通して、現在との違いを感じ、具体的に記述できるようにする。 | 山口宏 |
| 4 | 前期 | 「戦後社会・文化史③」<br>1970 年代の感覚変化と、豊かさのなかで現われる社会問題を知る。 | 「1970 年代の感覚変化を知る」<br>・若者文化の流行を通して、1960 年代との違いと現在との違いをともに記述できるようにする。<br>「豊かさの背景にある社会問題を知る」<br>・公害問題における地域社会の複雑な対立関係を、説明できるようにする。 | 山口宏 |
| 5 | 前期 | 「戦後社会・文化史④」<br>1980 年代の光と影を押さえる。 | 「バブル経済の仕組みと影を考える」<br>・1980 年代の狂騒とともに、バブル経済の盛衰を見ることで、バブルの仕組みとマイ | 山口宏 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | ナス面について説明できるようにする。 | |
| 6 | 前期 | 「戦後社会・文化史⑤」<br>1990 年代から現在への流れを理解する。 | 「1990 年代の心理主義を理解する」<br>・心理の専門家や心をめぐるテーマが前景に出てくる社会変化を理解し、自分なりの意見が書けるようにする。<br>「コミュニケーションの敏感さを考える」<br>・ほめる研修など、現在のコミュニケーションの特徴をとらえ、自分なりの意見が書けるようにする。 | 山口宏 |
| 7 | 前期 | 「家族をめぐる諸問題」<br>家族の歴史的変化と現在の課題を理解する。 | 「戦後家族の変化を理解する」<br>・グラフデータを読み込んで、それを言葉で表現できるようにする。<br>「現代家族の課題を理解する」<br>・虐待や孤立などさまざまな状況を踏まえて、多様なつながりの可能性を具体的に述べられるようにする。 | 山口宏 |
| 8 | 前期 | 「貧困と社会的排除」<br>貧困の多面性を理解する。 | 「貧困の多様な側面を理解する」<br>・貧困が健康やコミュニケーションなど様々な面に関わってくることを理解し、自分なりの見解を表現できるようにする。<br>・それに対する様々な取り組みを紹介し、その可能性について意見を表現できるようにする。 | 山口宏 |
| 9 | 前期 | 「宗教と社会」<br>世界宗教の特徴と、近年の日本での問題を理解する。 | 「世界的宗教の特質を概観する」<br>・医療現場などで多様な宗教の人に触れることを想定しながら、諸宗教の特質を表現できるようにする。<br>「近年の日本社会と宗教」<br>・オウムの問題など取り上げながら、新宗教に惹かれる心性を理解し、具体的な対応策も自分なりに述べられるようにする。 | 山口宏 |
| 10 | 前期 | 「民主主義の危うさと可能性」<br>強力な指導者を求める危うさと、民主主義の活性化の可能性を考える。 | 「独裁的指導者を招く心性を理解する」<br>・ナチスを生んだ背景や、社会心理実験的な映像も使いつつ、強い指導者に従いたくなる心的機制を理解し、意見を述べられるようにする。<br>「民主主義の可能性」<br>・政治への関心をいかに高め、声を届けられるか、諸事例を見ながら考え、医療・福祉職とも重ねて意見を述べられるようにする。 | 山口宏 |
| 11 | 前期 | 「差別のとらえ方」<br>日常のイメージから差別を考える。 | 「日常で作られるイメージから考える」<br>・高齢者や障害者をめぐって、いつの間にかどういうイメージが作られ、押しつけられやすいかを考え直し、表現できるようにする。 | 山口宏 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 「複数の問題の絡まり合いを考える」<br>・複数の要因が重なった場合の差別問題の難しさを理解し、具体的に記述できるようにする。 | |
| 12 | 前期 | 「優生思想の問題」<br>優生思想の歴史と、現在にもつながる問題を考える。 | 「優生思想の歴史を理解する」<br>・戦争と障害者といったテーマも含めながら、過去の優生思想の実践を押さえ、整理して記述できるようにする。<br>「現在の優生思想と生命倫理を考える」<br>・健康や社会的コストの論理を推し進めすぎる際の危うさを考え、意見を述べられるようにする。 | 山口宏 |
| 13 | 前期 | 「日本のなかの外国人」<br>外国人労働者と難民申請の現状を理解する。 | 「外国人労働者の現状を理解する」<br>・介護の現場でも多くなる外国人労働者の状況や、技能実習の問題など、現状についてまとめ、意見も述べられるようにする。<br>「難民受け入れの現状を理解する」<br>・難民受け入れの少なさについて、背景を理解した上で意見を述べられるようにする。 | 山口宏 |
| 14 | 前期 | 「グループワーク」 | ・これまで扱ったテーマを絡めながら、10個程度の問題に対して、話し合ってそれぞれ答えを発表する。 | 山口宏 |
| 15 | 2020.7.20 | 「まとめ」<br>これまでのテーマをつなげながら、振り返る。 | ・戦後文化史や家族、貧困問題などで、これまでの補足として話と映像を加え、全体的なまとめも含めた意見を述べられるようにする。 | 山口宏 |
| 成績評価方法 | | 授業態度（授業参加度）10 点<br>授業内での記述 90 点<br>合計 100 点 | | |
| 準備学習など | | 毎回のテーマをシラバスで確認しながら、意見が書きやすいよう関心をもって、テーマに関わる話題・問題など調べておいてください。 | | |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 解剖学Ⅰ |
| 担当者 | 桑原　裕子 |
| 単位数（時間数） | 4単位（60時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　医学書院<br>プロメテウス　解剖学コアアトラス　医学書院 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 医療を目指す者にとって必要な人体の構造(解剖学)を、肉眼レベルから微細な組織レベルまでの高度な知識を学び、人体の構造を３次元で理解できるように学ぶ．他教科の学習内容を理解する前提となる人体構造の基本的概念・事項を習得し，医療人として身に付ける人体の構造を理解することが目的である．医師として臨床経験のある者がその経験を活かし授業を行う。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | 「人体の概観、方向用語」<br>一般目標<br>①　解剖学用語を用いて、人体の概観を理解する。<br>②　解剖学において、３次元で用いる方向用語を理解する。 | 「人体の概観、方向用語」<br>到達目標<br>①　解剖学用語を用いて、人体の概要を説明できる。<br>②　方向用語を用いて、人体の部位を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 2 | 通年 | 「人体の構成：細胞から器官系まで」<br>一般目標<br>①　人体が細胞を基本単位とし、それが組織を形成し、器官となることを理解する。<br>②　複数の器官が機能的に連携して器官系を構成することを理解する。 | 「人体を構成する細胞・組織・器官・器官系」<br>到達目標<br>①　細胞の大きさや数、種類を説明できる。<br>②　組織の種類と人体での存在部位を説明できる。<br>③　器官系を構成を器官の名称を用いて説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 3 | 通年 | 「細胞の構造および上皮組織」<br>一般目標<br>①　細胞の微細構造を機能とともに理解する。<br>②　上皮組織の種類を構成する細胞をもとに理解する。 | 「細胞の微細構造および上皮組織の形態的特徴と機能との関連」<br>①　細胞の機能を理解する基礎とするために、微細構造を物質レベルから説明できる。<br>②　上皮組織を機能と関連づけて理解するために、上皮組織を構成する細胞や存在部位を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 4 | 通年 | 「支持組織、筋組織および神経組織」<br>一般目標<br>①　支持組織の種類を理解する。<br>②　筋組織の種類や特徴を理解する。 | 「支持組織、筋組織および神経組織の微細構造と種類」<br>到達目標<br>①　支持組織を構成する細胞や細胞間物質から体内の存在部位を説明で | 桑原　裕子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ③ 神経組織を構成する細胞の種類や機能を理解する。 | きる。<br>② 筋組織の種類を構成する細胞の微細構造の特徴を基に説明できる。<br>③ 神経組織を構成する細胞の種類を機能に関連付けて説明できる。 | |
| 5 | 通年 | 「循環器系総論：血管の構造および肺循環と体循環」<br>一般目標<br>① 血管の種類と構造について理解する。<br>② 肺循環の構成と機能を理解する。<br>③ 体循環の構成と機能を理解する。 | 「血管の種類と構造および肺循環と体循環の経路と意義」<br>到達目標<br>① 血管の種類を構造的特徴で説明できる。<br>② 肺循環の循環経路と意義を説明できる。<br>③ 肺循環の循環経路と意義を説明できる。<br>④ 体循環と肺循環の関連を解剖学的に説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 6 | 通年 | 「心臓の位置と構造」<br>一般目標<br>① 心臓の胸腔内での位置を理解する。<br>② 心臓に出入りする血管とともに心房、心室および弁の構造を理解する。 | 「心臓の位置と心臓と血管のつながり」<br>到達目標<br>① 心臓の胸腔内での位置を他臓器との関係で説明できる。<br>② 心臓の心房や心室へ出入りする血管を関連付けて説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 7 | 通年 | 「心臓の内腔および弁の構造」<br>一般目標<br>① 心房と心室の位置を理解する。<br>② 心房と心室の壁および弁の構造を理解する。<br>③ 心臓を支配する神経と分布する血管を理解する。 | 「心臓の心房・心室および弁の構造」<br>到達目標<br>① 心臓の心房と心室を血液循環に基づいて説明できる。<br>② 弁の名称と構造を説明できる。<br>③ 心臓の刺激伝導系について説明できる。<br>④ 心臓に分布する血管の名前と走行を説明できる。<br>⑤ 心臓を支配する神経を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 8 | 通年 | 「動脈幹と頭頸部の動脈系」<br>一般目標<br>① 主な幹動脈を順に理解する。<br>② 大動脈弓から頭頸部に分布する血管を理解する。 | 「動脈幹と頭頸部の動脈系」<br>到達目標<br>① 動脈幹を体循環経路の関連で説明できる。<br>② 頸部から顔面に分布する血管を大動脈弓から順に説明できる。<br>③ 脳に分布する血管を脳領域と共に説明できる。 | 桑原　裕子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 通年 | 「上肢および下肢に分布する動脈系」<br>一般目標<br>① 上肢と下肢の血管系を理解する。<br>② 脈拍を触知できる血管を理解する。 | 「上肢および下肢に分布する動脈系」<br>到達目標<br>① 主な上肢の動脈系を鎖骨下動脈より末梢に順に説明できる。<br>② 主な下肢の動脈系を外腸骨動脈より順に説明できる。<br>③ 脈拍を触知できる血管を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 10 | 通年 | 「内臓や体壁に分布する動脈系」<br>一般目標<br>① 胸大動脈より胸腔内臓器と胸壁へ分布する血管を理解する。<br>② 腹大動脈より消化器系、泌尿器系および腹壁に分布する血管系を理解する。 | 「内臓や体壁に分布する動脈系」<br>到達目標<br>① 胸大動脈より胸腔内臓器に分布する血管を説明できる。<br>② 腹大動脈より消化器系へ分布する血管を臓器ごとに説明できる。<br>③ 腹大動脈より泌尿器系へ分布する血管を臓器ごとに説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 11 | 通年 | 「静脈系の特徴および静脈系固有の血管」<br>一般目標<br>① 機能に関連して、動脈と静脈の構造の違いを理解する。<br>② 動脈に伴行しない皮静脈を理解する。 | 「静脈系の特徴および静脈系固有の血管」<br>到達目標<br>① 静脈と動脈の構造的違いを説明できる。<br>② 上肢・下肢および胸腹壁の皮静脈を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 12 | 通年 | 「静脈系固有の血管系の構成」<br>一般目標<br>① 硬膜静脈洞の構成を理解する。<br>② 門脈系の構成を理解する。 | 「静脈系固有の血管系の構成」<br>到達目標<br>① 硬膜静脈洞の構成を説明できる。<br>② 門脈系の構成と側副路を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 13 | 通年 | 「リンパ系の構造と分布」<br>一般目標<br>① 主なリンパ管を理解する。<br>② 主なリンパ性器官の種類と名前および構造を理解する。 | 「リンパ系の構造と分布」<br>到達目標<br>① 主なリンパ管の名前と分布部位を説明できる。<br>② 主なリンパ性器官の種類と構造を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 14 | 通年 | 「胎児の血液循環系」<br>一般目標<br>① 胎児特有の血管系について理解する。<br>② 出生後の遺存物を理解する。<br>③ 胎盤の構造を理解する。 | 「胎児の血液循環系」<br>到達目標<br>① 胎児期の循環経路を説明できる。<br>② 出生後の遺存物を説明できる。<br>③ 胎盤の構造を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 15 | 通年 | 「解剖学Ⅱ前半のまとめ」<br>① 細胞、組織から循環器系の構造についてまとめる。 | 「解剖学Ⅱ前半の復習」<br>① 細胞、組織から循環器系の構造についての確認のために中間試験を受ける。 | 桑原　裕子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 16 | 通年 | 「消化管の構造と構成」<br>一般目標<br>① 口腔から直腸までの位置を理解する。<br>② 口腔から直腸までの構造を理解する。 | 「消化管の腹膜との関係と機能と関連した構造」<br>到達目標<br>① 口腔から直腸までの流れを腹膜との関係で説明できる。<br>② 口腔から直腸までの構造を消化機能と関連付けて説明できる。 | |
| 17 | 通年 | 「消化腺の種類と構造」<br>一般目標<br>① 唾液腺の種類と位置を理解する。<br>② 肝臓の位置と構造を理解する。<br>③ 膵臓の位置と構造を理解する。 | 「消化腺の構造」<br>到達目標<br>① 大唾液腺の種類と位置を説明できる。<br>② 肝臓の位置と構成を関連する脈管系とともに説明できる。<br>③ 膵臓の腹膜との関連で位置を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 18 | 通年 | 「鼻腔から咽頭までの構造」<br>一般目標<br>① 鼻腔の構造を理解する。<br>② 咽頭の構造を理解する。 | 「鼻腔から咽頭までの構造」<br>到達目標<br>① 鼻腔の構造を目、耳および副鼻腔との関連で説明できる。<br>② 咽頭を口腔及び鼻腔と喉頭の関連で説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 19 | 通年 | 「喉頭から肺までの構造」<br>一般目標<br>① 喉頭の構造を理解する。<br>② 気管の構造を理解する。<br>③ 肺の構造を理解する。 | 「喉頭から肺までの構造」<br>到達目標<br>① 喉頭を構成する軟骨を説明できる。<br>② 声帯の構造を説明できる。<br>③ 気管、気管支、細気管支、呼吸細気管支の構造を説明できる。<br>④ 左右肺の違いを葉の構成で説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 20 | 通年 | 「腎臓の位置と構造」<br>一般目標<br>① 左右の腎臓の位置を理解する。<br>② 腎臓の微細構造を理解する。 | 「腎臓の位置と構造」<br>到達目標<br>① 左右の腎臓の位置を説明できる。<br>② 腎臓の皮質と髄質の構造を説明できる。<br>③ 尿の生成に関する腎単位を説明できる。<br>④ 腎盂の構造を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 21 | 通年 | 「尿管、膀胱、尿道の構造」<br>一般目標<br>① 尿管の位置と構造を理解する。<br>② 膀胱の位置と構造を理解する。<br>③ 尿道の位置と構造を理解する。 | 「尿管、膀胱、尿道の構造」<br>到達目標<br>① 尿管の位置と腎臓や膀胱との連絡を構造的に説明できる。<br>② 骨盤腔内での膀胱の位置を男女差で説明できる。<br>③ 膀胱三角を説明できる。<br>④ 尿道の位置や長さの男女差を説明できる。 | 桑原　裕子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 22 | 通年 | 「男性の生殖器の位置と構造」<br>一般目標<br>① 精巣の位置と構造を理解する。<br>② 精巣上体、精嚢、前立腺の位置と構造を理解する。<br>③ 精路を理解する。<br>④ 陰茎の構造を理解する。 | 「男性の生殖器の位置と構造」<br>到達目標<br>① 精子形成の場である精細管と男性ホルモン産生細胞を説明できる。<br>② 精巣上体、精嚢、前立腺の位置と構造を説明できる。<br>③ 精路を順に説明できる。<br>④ 陰茎の構造を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 23 | 通年 | 「女性の生殖器の位置と構造」<br>一般目標<br>① 卵巣の位置と構造を理解する。<br>② 子宮および卵管の位置と構造を理解する。<br>③ 膣および外陰部の構造を理解する。 | 「女性の生殖器の位置と構造」<br>到達目標<br>① 卵巣の位置、構造および支持組織を説明できる。<br>② 子宮および卵管の骨盤内の位置と構造を説明できる。<br>③ 外陰部の構造を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 24 | 通年 | 「下垂体、甲状腺、上皮小体の位置と構造」<br>一般目標<br>① 下垂体の位置と発生に起因する構造を理解する。<br>② 甲状腺の位置と構造を理解する。<br>③ 上皮小体の位置と構造を理解する。 | 「下垂体、甲状腺、上皮小体の位置と構造」<br>到達目標<br>① 下垂体の位置と発生に起因する構造を説明できる。<br>② 甲状腺の位置と甲状腺沪胞や傍濾胞細胞を説明できる。<br>③ 上皮小体の位置と構造を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 25 | 通年 | 「膵臓、副腎、松果体の位置と構造」<br>一般目標<br>① 膵臓のランゲルハンス島の構造を理解する。<br>② 副腎の位置と発生学に由来する構造を理解する。<br>③ 松果体の位置を理解する。 | 「膵臓、副腎、松果体の位置と構造」<br>到達目標<br>① 膵臓の内分泌であるランゲルハンス島の構造を説明できる。<br>② 副腎の位置と発生学的構造を説明できる。<br>③ 松果体の位置を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 26 | 通年 | 「皮膚、目の位置と構造」<br>一般目標<br>① 皮膚の三層構造を理解する。<br>② 目の構造を理解する。 | 「皮膚、目の位置と構造」<br>到達目標<br>① 皮膚の三層構造および感覚器を説明できる。<br>② 目の構造を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 27 | 通年 | 「耳、嗅上皮の位置と構造」<br>一般目標<br>① 耳の構造を理解する。<br>② 嗅覚に関係する嗅上皮の位置と構造を理解する。 | 「耳、嗅上皮の位置と構造」<br>到達目標<br>① 外耳、中耳、内耳の構造を説明できる。<br>② 嗅上皮の位置と構造を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 28 | 通年 | 「胚子の発生」<br>一般目標<br>① 受精卵から週令ごとの胚子の発生を理解する。 | 「胚子の発生」<br>到達目標<br>① 受精卵から週令ごとの胚子を説明できる。 | 桑原　裕子 |
| 29 | 通年 | 「器官の発生」<br>一般目標<br>① 循環器系、消化器系、呼吸器系、 | 「器官の発生」<br>到達目標<br>① 循環器系、消化器系、呼吸器系、筋 | 桑原　裕子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 筋系、神経系の発生を理解する。 | 系、神経系の発生を説明できる。 | |
| 30 | 通年 | 「解剖学Ⅱ後半のまとめ」<br>一般目標<br>① 解剖学Ⅱ後半の定期試験を行う。 | 「解剖学Ⅱ後半の復習」<br>到達目標<br>① 解剖学Ⅱ後半の定期試験を受験する。 | 桑原 裕子 |
| 成績評価方法 | | ① 解剖学はまめな復習による理解が欠かせないので、単元ごとの復習として**小テスト**を行い、60%の点数に満たないものはレポートの提出を課する。<br>② 評価は単元ごとに行う小テスト(30%)と定期試験(70%)で行う。<br>③ **定期試験**を行い、中間試験と合わせて評価する。(60%以上の評価が得られなければ進級不可となる) | | |
| 準備学習など | | 準備学習より復習を習慣づけること、特に小テストの内容をしっかり理解すること。<br>プロメテウスの解剖学は授業には必要ないが、自宅学習に大いに利用してほしい。<br>授業で理解できないところは積極的に質問してほしい。<br>講義中の居眠り・おしゃべりは欠席とする。 | | |
| | | | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 解剖学Ⅱ |
| 担当者 | 清島　大資・石田　和人 |
| 単位数（時間数） | 4単位（60時間） |
| 学習方法 | 講義・標本見学 |
| 教科書・参考書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版　野村嶬（編集）医学書院　2015年 、プロメテウス解剖学コアアトラス　第3版　坂井建雄（監訳）医学書院　2019年 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 医療を目指す者にとっては、人体の構造と機能に関して高度かつ正確な知識が必要とされる。すべての学習の前提となる人体構造の基本的概念・事項を習得し、人体の全体像をつかむ。医師として臨床経験のある者がその経験を活かし授業を行う。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「骨学総論」<br>一般目標<br>骨の形態と基本構造について理解する。 | 「骨学総論」<br>到達目標<br>骨の形態と基本構造について説明できる。 | 清島　大資 |
| 2 | 前期 | 「骨学総論」<br>一般目標<br>骨の発生と成長について理解する。 | 「骨学総論」<br>到達目標<br>骨の発生と成長について説明できる。 | 清島　大資 |
| 3 | 前期 | 「骨学各論」<br>一般目標<br>頭蓋ついて理解する。 | 「骨学各論」<br>到達目標<br>頭蓋について説明できる。 | 清島　大資 |
| 4 | 前期 | 「骨学各論」<br>一般目標<br>脊柱について理解する。 | 「骨学各論」<br>到達目標<br>脊柱について説明できる。 | 清島　大資 |
| 5 | 前期 | 「骨学各論」<br>一般目標<br>胸郭について理解する。 | 「骨学各論」<br>到達目標<br>胸郭について説明できる。 | 清島　大資 |
| 6 | 前期 | 「骨学各論」<br>一般目標<br>上肢の骨について理解する。 | 「骨学各論」<br>到達目標<br>上肢の骨について説明できる。 | 清島　大資 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7 | 前期 | 「骨学各論」<br>一般目標<br>下肢の骨について理解する。 | 「骨学各論」<br>到達目標<br>下肢の骨について説明できる。 | 清島　大資 |
| 8 | 前期 | 「関節靭帯総論」<br>一般目標<br>骨の連結の正常な構造と機能について総論的に理解する。 | 「関節靭帯総論」<br>到達目標<br>骨の連結の正常な構造と機能について総論的に説明できる。 | 清島　大資 |
| 9 | 前期 | 「関節靭帯各論」<br>一般目標<br>頭蓋、脊柱、胸郭の連結について理解する。 | 「関節靭帯各論」<br>到達目標<br>頭蓋、脊柱、胸郭の連結について説明できる。 | 清島　大資 |
| 10 | 前期 | 「関節靭帯各論」<br>一般目標<br>上肢、下肢の連結について理解する。 | 「関節靭帯各論」<br>到達目標<br>上肢、下肢の連結について説明できる。 | 清島　大資 |
| 11 | 前期 | 「筋学総論」<br>一般目標<br>筋組織の種類と特徴について理解する。 | 「筋学総論」<br>到達目標<br>筋組織の種類と特徴について説明できる。 | 清島　大資 |
| 12 | 前期 | 「筋学総論」<br>一般目標<br>骨格筋の形態と構造について理解する。 | 「筋学総論」<br>到達目標<br>骨格筋の形態と構造について説明できる。 | 清島　大資 |
| 13 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>上肢の筋について理解する。 | 「筋学各論」<br>到達目標<br>上肢の筋について説明できる。 | 清島　大資 |
| 14 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>下肢の筋について理解する①。 | 「筋学各論」<br>到達目標<br>下肢の筋について説明できる①。 | 清島　大資 |
| 15 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>下肢の筋について理解する②。 | 「筋学各論」<br>到達目標<br>下肢の筋について説明できる②。 | 清島　大資 |
| 16 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>体幹の筋について理解する。 | 「筋学各論」<br>到達目標<br>体幹の筋について説明できる。 | 清島　大資 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 17 | 前期 | 「標本観察」<br>一般目標<br>解剖体を使用した標本観察の重要性について理解する。 | 「標本観察」<br>到達目標<br>解剖体を使用した標本観察の重要性について説明できる。 | 清島　大資 |
| 18 | 未定 | 「標本観察」<br>一般目標<br>解剖体の標本観察を行い、人体の構造について理解する。 | 「標本観察」<br>到達目標<br>解剖体の標本観察を行い、人体の構造について説明できる。 | 清島　大資 |
| 19 | 前期 | 「神経系総論」<br>一般目標<br>神経系の構成、発生学について理解する | 「神経系総論」<br>到達目標<br>①　神経系の構成について説明できる<br>②　ニューロン、シナプスの構造を説明できる<br>③　神経系の発生学を説明できる | 石田　和人 |
| 20 | 前期 | 「脊髄および上行路・下行路」<br>一般目標<br>脊髄およびその上行路、下行路を理解する | 「脊髄および上行路・下行路」<br>到達目標<br>①　脊髄の構造を説明できる<br>②　錐体路および錐体外路を説明できる<br>③　体性感覚の上行路を説明できる | 石田　和人 |
| 21 | 前期 | 「脳幹」<br>一般目標<br>脳幹の構造と機能を理解する | 「脳幹」<br>到達目標<br>①　脳幹の構造を説明できる<br>②　脳幹における主要な神経核を説明できる<br>③　脳幹の機能を説明できる | 石田　和人 |
| 22 | 前期 | 「小脳」<br>一般目標<br>小脳の構造と機能を理解する | 「小脳」<br>到達目標<br>①　小脳の構造を説明できる<br>②　小脳の機能を説明できる | 石田　和人 |
| 23 | 前期 | 「間脳と大脳辺縁系」<br>一般目標<br>脳幹および大脳辺縁系の構造と機能を理解する | 「間脳と大脳辺縁系」<br>到達目標<br>①　視床および視床下部の構造を説明できる<br>②　視床および視床下部の機能を説明できる<br>③　脳辺縁系の構成を理解し，その機能を説明できる | 石田　和人 |
| 24 | 前期 | 「大脳」<br>一般目標<br>大脳の構造と機能を理解する | 「大脳」<br>到達目標<br>①　大脳の構造を説明できる<br>②　大脳皮質の機能局在を説明できる<br>③　大脳基底核の構造と機能を説明できる<br>④　大脳髄質における神経線維連絡を説明できる | 石田　和人 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 25 | 前期 | 「上肢の末梢神経①」<br>一般目標<br>上肢体および上肢の末梢神経系を理解する | 「上肢の末梢神経①」<br>到達目標<br>① 頚神経叢、腕神経叢の構造を説明できる<br>② 上肢を支配する神経系の概要を説明できる | 石田　和人 |
| 26 | 前期 | 「上肢の末梢神経②」<br>一般目標<br>上肢体および上肢の末梢神経系を理解する | 「上肢の末梢神経②」<br>到達目標<br>① 上肢を支配する各神経の走行を説明できる<br>② 上肢を支配する神経の支配筋および支配領域を説明できる | 石田　和人 |
| 27 | 前期 | 「下肢の末梢神経①」<br>一般目標<br>下肢体および下肢の末梢神経系を理解する | 「下肢の末梢神経①」<br>到達目標<br>① 腰神経叢、仙骨神経叢の構造を説明できる<br>② 下肢を支配する神経系の概要を説明できる | 石田　和人 |
| 28 | 前期 | 「下肢の末梢神経②」<br>一般目標<br>下肢体および下肢の末梢神経系を理解する | 「下肢の末梢神経②」<br>到達目標<br>① 下肢を支配する各神経の走行を説明できる<br>② 下肢を支配する神経の支配筋および支配領域を説明できる | 石田　和人 |
| 29 | 前期 | 「脳神経」<br>一般目標<br>脳神経を理解する | 「脳神経」<br>到達目標<br>① 全ての脳神経の名称を説明できる<br>② 各脳神経の構造および機能を説明できる | 石田　和人 |
| 30 | 前期 | 「総括・復習」<br>一般目標<br>神経系に関する学習の総括を行う | 「総括・復習」<br>到達目標<br>① 中枢神経系の概要を復習する<br>② 末梢神経系の概要を復習する<br>③ 国家試験出題問題を参考に演習を行い、神経系の理解を深める | 石田　和人 |
| 成績評価方法 | | 小テストと科目試験を合算し、100%で評価する。 | | |
| 準備学習など | | 解剖学は器官系に分けて講義されるが、これらの器官系は互いに関連し合って機能し、生命活動に働いている。したがって学生は学習した事柄をばらばらに覚えるのではなく、自らがつなぎ合わせ、有機的に関連させて理解する努力を怠ってはならない。解剖学の学習では解剖学名を暗記しなくてはならないが、大切なことは人体の構造をその機能と関連させて理解することであり、解剖学名の暗記は必要最小限にとどめながら講義をする。 | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 体表解剖演習 |
| 担当者 | 吉安 敏彦 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（60 時間） |
| 学習方法 | 講義・実技 |
| 教科書・参考書 | 運動療法のための機能解剖学的触診技術 第 2 版　（監修）青木隆明　（執筆）林典雄<br>メジカルビュー社 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 体表解剖学は、解剖学、生理学および運動学の基礎医学を基に、講義にて筋・骨・神経等をイメージし、その後、実技において生体の体表より、これらを 3 次元的に視察、触察することを目的とする。病院での臨床経験のある理学療法士がその経験を生かして授業を行う。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「体表解剖学の基礎知識」<br>一般目標<br>●体表解剖学を理解する | 「体表解剖学の基礎知識」<br>到達目標<br>①体表解剖学の定義、目的を説明出来る<br>②骨・関節・筋－靭帯、動脈、神経の触察方法を説明できる。 | 吉安 敏彦 |
| 2 | 後期 | 「肩甲骨の体表解剖学」<br>一般目標<br>●肩甲骨の機能解剖学を理解する | 「肩甲骨の触察について」<br>到達目標<br>①肩甲骨の各名称を説明できる<br>②肩甲骨を触察できる | 吉安 敏彦 |
| 3 | 後期 | 「上腕骨近位部の体表解剖学」<br>一般目標<br>●上腕骨近位部の機能解剖学を理解する | 「上腕骨近位部の触察について」<br>到達目標<br>①上腕骨近位部の各名称を説明できる<br>②上腕骨近位部を触察できる | 吉安 敏彦 |
| 4 | 後期 | 「鎖骨の体表解剖学」<br>一般目標<br>●鎖骨と胸鎖関節､肩鎖関節の機能解剖学を理解する | 「鎖骨の触察」<br>到達目標<br>①鎖骨の各名称を説明できる<br>②胸鎖関節、肩鎖関節を触察できる | 吉安 敏彦 |
| 5 | 後期 | 「肩関節複合体の体表解剖学」<br>一般目標<br>●肩関節複合体の機能解剖学を理解する | 「肩関節複合体の触察」<br>到達目標<br>①肩関節複合体を説明できる<br>②肩関節複合体を触察できる | 吉安 敏彦 |
| 6 | 後期 | 「ローテーターカフの体表解剖学」<br>一般目標<br>●ローテーターカフの機能解剖学を理解する<br>●フォースカップルを理解する<br>●肩甲上腕リズムを理解する | 「ローテーターカフの触察」<br>到達目標<br>①ローテーターカフを説明できる<br>②フォースカップルを説明できる<br>③肩甲上腕リズムを説明できる | 吉安 敏彦 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7 | 後期 | 「肘関節骨格の体表解剖学」<br>一般目標<br>●肘関節骨格の機能解剖学を理解する | 「肘関節骨格の体表解剖学」<br>到達目標<br>①肘関節骨格の体表解剖学を説明できる<br>②肘関節の各関節を体表より説明できる<br>③肘関節の各関節を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 8 | 後期 | 「肘関節屈曲筋と伸展筋の体表解剖学」<br>一般目標<br>●肘関節屈曲筋と伸展筋の機能解剖学を理解する | 「肘関節屈曲筋と伸展筋の体表解剖学」<br>到達目標<br>①肘関節骨格の体表解剖学を説明できる<br>②肘関節の各関節を体表より説明できる<br>③肘関節の各関節を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 9 | 後期 | 「上腕骨内･外側上顆エリアの筋の体表解剖学」<br>一般目標<br>●上腕骨内･外側上顆エリアの筋の機能解剖学を理解する | 「上腕骨内･外側上顆エリアの筋の体表解剖学」<br>到達目標<br>①上腕骨内･外側上顆エリアの筋の配列を体表より説明できる<br>②上腕骨内･外側上顆エリアの筋の配列を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 10 | 後期 | 「前腕部および遠位橈尺関節の体表解剖学」<br>一般目標<br>●前腕部および遠位橈尺関節の機能解剖学を理解する | 「前腕部および遠位橈尺関節の体表解剖学」<br>到達目標<br>①前腕部および遠位橈尺関節を体表より説明できる<br>②前腕部および遠位橈尺関節を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 11 | 後期 | 「手関節骨格の体表解剖学」<br>一般目標<br>●手関節の骨格の機能解剖学を理解する | 「手関節骨格の体表解剖学」<br>到達目標<br>①手関節の骨格を体表より説明できる<br>②手関節の骨格を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 12 | 後期 | 「手関節掌屈筋および背屈筋の体表解剖学」<br>一般目標<br>●手関節掌屈筋､背屈筋の機能解剖学を理解する | 「手関節掌屈筋および背屈筋の体表解剖学」<br>到達目標<br>①手関節の掌屈筋､背屈筋を体表より説明できる<br>②手関節の掌屈筋､背屈筋を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 13 | 後期 | 「母指球筋と小指球筋の体表解剖学」<br>一般目標<br>●母指球筋と小指球筋の機能解剖学を理解する | 「母指球筋と小指球筋の体表解剖学」<br>到達目標<br>①母指球筋と小指球筋を体表より説明できる<br>②母指球筋と小指球筋を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 14 | 後期 | 「手指の骨格と筋の体表解剖学」<br>一般目標<br>●手指の骨格と筋の機能解剖学を理解する | 「手指の骨格と筋の体表解剖学」<br>到達目標<br>①手指の骨格と筋を体表より説明できる<br>②手指の骨格と筋を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15 | 後期 | 「上肢の体表解剖学の総括」<br>一般目標<br>●上肢の機能解剖学の要約を理解する | 「上肢の体表解剖学の総括」<br>到達目標<br>①上肢の機能解剖学の要約を説明できる | 吉安 敏彦 |
| 16 | 後期 | 「脊柱の体表解剖学」<br>一般目標<br>●頚椎、胸椎、腰椎の骨格の特徴を理解する<br>●脊柱起立筋を理解する | 「脊柱の体表解剖学」<br>到達目標<br>①頚椎、胸椎、腰椎の骨格を体表より触察できる<br>②脊柱起立筋を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 17 | 後期 | 「骨盤の骨格の体表解剖学」<br>一般目標<br>●骨盤の機能解剖学を理解する | 「骨盤の体表解剖学」<br>到達目標<br>①骨盤の機能解剖学を説明できる<br>②骨盤を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 18 | 後期 | 「股関節の前方から内側の体表解剖学」<br>一般目標<br>●股関節の前方から内側の機能解剖学を理解する | 「股関節の前方から内側の体表解剖学」<br>到達目標<br>①股関節の前方から内側を体表より説明できる<br>②股関節の前方から内側を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 19 | 後期 | 「股関節の外側の体表解剖学」<br>一般目標<br>●股関節の外側の機能解剖学を理解する | 「股関節の外側の体表解剖学」<br>到達目標<br>①股関節の外側を体表より説明できる<br>②股関節の外側を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 20 | 後期 | 「股関節の後方の体表解剖学」<br>一般目標<br>●股関節の後方の機能解剖学を理解する | 「股関節の後方の体表解剖学」<br>到達目標<br>①股関節の後方を体表より説明できる<br>②股関節の後方を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 21 | 後期 | 「膝関節の骨格の体表解剖学」<br>一般目標<br>●膝関節の骨格の機能解剖学を理解する | 「膝関節の骨格の体表解剖学」<br>到達目標<br>①膝関節の骨格を体表より説明できる<br>②膝関節の骨格を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 22 | 後期 | 「膝関節伸展機構の体表解剖学」<br>一般目標<br>●膝関節伸展機構の機能解剖学を理解する | 「膝関節伸展機構の体表解剖学」<br>到達目標<br>①膝関節伸展機構を体表より説明できる<br>②膝関節伸展機構を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 23 | 後期 | 「ハムストリングスの体表解剖学」<br>一般目標<br>●ハムストリングスの機能解剖学を理解する | 「ハムストリングスの体表解剖学」<br>到達目標<br>①ハムストリングスを体表より説明できる<br>②ハムストリングスを体表より触察できる | 吉安 敏彦 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 24 | 後期 | 「下腿の骨格の体表解剖学」<br>一般目標<br>●下腿の骨格の機能解剖学を理解する | 「下腿の骨格の体表解剖学」<br>到達目標<br>①下腿の骨格を体表より説明できる<br>②下腿の骨格を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 25 | 後期 | 「下腿の筋群の体表解剖学」<br>一般目標<br>●下腿の筋群の機能解剖学を理解する | 「下腿の筋群の体表解剖学」<br>到達目標<br>①下腿の筋群を体表より説明できる<br>②下腿の筋群を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 26 | 後期 | 「足関節の骨格の体表解剖学」<br>一般目標<br>●足関節の骨格の機能解剖学を理解する | 「足関節の骨格の体表解剖学」<br>到達目標<br>①足関節の骨格を体表より説明できる<br>②足関節の骨格を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 27 | 後期 | 「足関節の筋の体表解剖学」<br>一般目標<br>●足関節の筋の機能解剖学を理解する | 「足関節の筋の体表解剖学」<br>到達目標<br>①足関節の筋を体表より説明できる<br>②足関節の筋を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 28 | 後期 | 「後足部の体表解剖学」<br>一般目標<br>●後足部の機能解剖学を理解する | 「後足部の体表解剖学」<br>到達目標<br>①後足部を体表より説明できる<br>②後足部を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 29 | 後期 | 「中足部から前足部の体表解剖学」<br>一般目標<br>●中足部から前足部の機能解剖学を理解する | 「中足部から前足部の体表解剖学」<br>到達目標<br>①中足部から前足部を体表より説明できる<br>②中足部から前足部を体表より触察できる | 吉安 敏彦 |
| 30 | 後期 | 「脊柱と下肢の体表解剖学の総括」<br>一般目標<br>●脊柱と下肢の機能解剖学の要約を理解する | 「脊柱と下肢の体表解剖学の総括」<br>到達目標<br>①脊柱と下肢を体表より系統的に説明できる<br>②脊柱と下肢を体表より系統的に触察できる | 吉安 敏彦 |
| 成績評価方法 | | 科目試験（100%） | | |
| 準備学習など | | 講義形式および実技形式で展開します<br>毎回、実技を行いますので動きやすい服装で受講して下さい | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 生理学 I |
| 担当者 | 坪井　秀夫 |
| 単位数（時間数） | 4単位（60時間） |
| 学習方法 | 講義・ディスカッション |
| 教科書・参考書 | 生理学テキスト　第7版　大地陸男（著）文光堂　2015年 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 歯科医師として臨床経験10年以上、研究者としての経験10年以上の教員が生理学を担当する。生理学は、人体の構造を深く学ぶ科目である解剖学と深くリンクし、人体の正常な機能を根本から深く学ぶ科目である。特に理学療法士にとっては最も重要な科目の一つとなる。　講義では基本的な人体各部の正常な生理学的機能をマスターするのは勿論、それらの各機能に深く関連する多くの疾患や症例またそれに対する治療等についても解説し、臨床的にも役立つような生理学的知識の習得を目的とする。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「生理学イントロダクション」<br>一般目標<br>① 理学療法士にとって生理学の重要性について学ぶ。<br>② 理学療法士を目指す上で生理学を学習する意義について学ぶ。<br>③ 本講義受講上の諸注意<br>（学習上の指針、試験等についての具体的説明） | 「生理学イントロダクション」<br>到達目標<br>① 理学療法士にとって生理学の重要性を説明できる。<br>② 理学療法士になるためにはなぜ生理学を学ばないといけないのか、その理由を説明できる。<br>③ 本科目受講上の約束事や諸注意が説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 2 | 前期 | 「生理学を学ぶ上での基本知識」<br>一般目標<br>① これから生理学を学習していく上でどうしても不可欠な生物学的基本知識・常識を学ぶ。<br>② これから生理学を学ぶ上でどうしても必要な解剖学的知識・常識を学ぶ。 | 「生理学を学ぶ上での基本知識」<br>到達目標<br>① これから生理学を学習していく上でどうしても不可欠な生物学的基本知識・常識が説明できる。<br>② これから生理学を学ぶ上でどうしても必要な解剖学的知識・常識が説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 3 | 前期 | 「細胞生理学（総論）」<br>一般目標<br>分子レベルにおける細胞の生理学的機能について総論的に学ぶ。 | 「細胞生理学（総論）」<br>到達目標<br>分子レベルにおける細胞の生理学的機能について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 4 | 前期 | 「細胞生理学（各論）」<br>一般目標<br>分子レベルにおける以下のオルガネラの生理学的機能について各論的に学ぶ。（液胞、小胞体、ゴルジ体、リボソーム等） | 「細胞生理学（各論）」<br>到達目標<br>分子レベルにおける以下のオルガネラの生理学的機能について各論的に説明できる。（液胞、小胞体、ゴルジ体、リボソーム等） | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 前期 | 「細胞生理学（各論）」<br>一般目標<br>分子レベルにおける以下のオルガネラの生理学的機能について各論的に学ぶ。（リソソーム、細胞膜、核等） | 「細胞生理学（各論）」<br>到達目標<br>分子レベルにおける以下の各オルガネラの生理学的機能について各論的に説明できる。（リソソーム、細胞膜、核等） | 坪井　秀夫 |
| 6 | 前期 | 「細胞生理学（各論）」<br>一般目標<br>分子レベルにおける以下のオルガネラの生理学的機能について各論的に学ぶ。（ミトコンドリア、細胞骨格等） | 「細胞生理学（各論）」<br>到達目標<br>分子レベルにおける以下のオルガネラの生理学的機能について各論的に説明できる。（ミトコンドリア、細胞骨格等） | 坪井　秀夫 |
| 7 | 前期 | 「物質代謝とエネルギー代謝」<br>一般目標<br>① 我々の生命活動を維持するために不可欠な物質代謝について総論的に学ぶ<br>② 物質代謝に伴って発生するエネルギー代謝について総論的に学ぶ。 | 「物質代謝とエネルギー代謝」<br>到達目標<br>① 我々の生命活動を維持するために不可欠な物質代謝について総論的に説明できる<br>② 物質代謝に伴って発生するエネルギー代謝について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 8 | 前期 | 「消化と吸収(総論)」<br>一般目標<br>① 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って消化器で行われる消化について総論的に学ぶ。<br>② 飲食物の消化分解後に消化器で行われる吸収について総論的に学ぶ。 | 「消化と吸収(総論)」<br>到達目標<br>① 我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って消化器で行われる消化について総論的に説明できる。<br>② 飲食物の消化分解後に消化器で行われる吸収について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 9 | 前期 | 「消化と吸収(各論)」<br>一般目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って以下の消化器で行われる消化について各論的に学ぶ。（歯・口腔） | 「消化と吸収(各論)」<br>到達目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って以下の消化器で行われる消化について総論的に説明できる。（歯・口腔） | 坪井　秀夫 |
| 10 | 前期 | 「消化と吸収(各論)」<br>一般目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って以下の消化器で行われる消化について各論的に学ぶ。（咽頭・食堂・胃） | 「消化と吸収(各論)」<br>到達目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って以下の消化器で行われる消化について各論的に説明できる。（咽頭・食堂・胃） | 坪井　秀夫 |
| 11 | 前期 | 「消化と吸収(各論)」<br>一般目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って以下の消化器で行われる消化について各論的に学ぶ。 | 「消化と吸収(各論)」<br>到達目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って以下の消化器で行われる消化について各論的に説明できる。（肝臓・膵臓） | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | （肝臓・膵臓） | | |
| 12 | 前期 | 「消化と吸収及び排泄(各論)」<br>一般目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って以下の消化器で行われる消化及び吸収さらに排泄について各論的に学ぶ。（小腸・大腸） | 「消化と吸収及び排泄(各論)」<br>到達目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである飲食物の摂取及びそれに伴って以下の消化器で行われる消化及び吸収さらに排泄について各論的に説明できる。（小腸・大腸） | 坪井　秀夫 |
| 13 | 前期 | 「呼吸とガス交換（総論）」<br>一般目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について総論的に学ぶ。 | 「呼吸とガス交換(総論)」」<br>到達目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 14 | 前期 | 「呼吸とガス交換（各論）」<br>一般目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について各論的に学ぶ。（気管支、肺胞、胸膜等） | 「呼吸とガス交換（各論）」<br>到達目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について各論的に説明できる。（気管支、肺胞、胸膜等） | 坪井　秀夫 |
| 15 | 前期 | 「前半まとめ」<br>一般目標<br>学期の中間期に際して前半期に学んだ内容の復習を行う。<br>前半期に学んだ内容全体から出題される中間小テストを行う。 | 「前半まとめ」<br>到達目標<br>学期の中間期に際して前半期に学んだ内容全体がおおよそ説明できる。<br>前半期に学んだ内容全体から出題される中間小テストで 60%以上得点できる。 | 坪井　秀夫 |
| 16 | 前期 | 「呼吸とガス交換（各論）」<br>一般目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について各論的に学ぶ。（肺活量、%肺活量、１秒率等） | 「呼吸とガス交換（各論）」<br>到達目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について各論的に説明できる。（肺活量、%肺活量、１秒率等） | 坪井　秀夫 |
| 17 | 前期 | 「呼吸とガス交換（各論）」<br>一般目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について各論的に学ぶ。（呼吸受容器と呼吸の神経調節、胸式呼吸、腹式呼吸等） | 「呼吸とガス交換（各論）」<br>到達目標<br>我々の生命維持の為の最も基本的な生理現象の一つである呼吸について各論的に説明できる。（呼吸受容器と呼吸の神経調節、胸式呼吸、腹式呼吸等） | 坪井　秀夫 |
| 18 | 前期 | 「腎機能と排泄(総論)」<br>一般目標<br>血液浄化や尿の生成、血圧の調節等、我々の生命維持に重要な働きを持つ腎機能について総論的に学ぶ。 | 「腎機能と排泄(総論)」<br>到達目標<br>血液浄化や尿の生成、血圧の調節等、我々の生命維持に重要な働きを持つ腎機能について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 19 | 前期 | 「腎機能と排泄(各論)」<br>一般目標<br>血液浄化や尿の生成、血圧の調節等、我々の生命維持に重要な働きを持つ下記の腎機能について各論的に学ぶ。(血液成分のろ過機構、再吸収機構等) | 「腎機能と排泄(各論)」<br>到達目標<br>血液浄化や尿の生成、血圧の調節等、我々の生命維持に重要な働きを持つ下記の腎機能について各論的に説明できる。(血液成分のろ過機構、再吸収機構等) | 坪井　秀夫 |
| 20 | 前期 | 「腎機能と排泄(各論)」<br>一般目標<br>血液浄化や尿の生成、血圧の調節等、我々の生命維持に重要な働きを持つ下記の腎機能について各論的に学ぶ。(レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系による血圧調節メカニズム等) | 「腎機能と排泄(各論)」<br>到達目標<br>血液浄化や尿の生成、血圧の調節等、我々の生命維持に重要な働きを持つ下記の腎機能について各論的に説明できる。(レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系による血圧調節メカニズム等) | 坪井　秀夫 |
| 21 | 前期 | 「腎機能と排泄(各論)」<br>一般目標<br>① 血液浄化や尿の生成、血圧の調節等、我々の生命維持に重要な働きを持つ下記の腎機能について各論的に学ぶ。(尿生成、体液量調節等)<br>② 我々の生命維持に重要な働きを持つ以下の排泄メカニズムについて各論的に学ぶ。(排尿、排便、発汗) | 「腎機能と排泄(各論)」<br>到達目標<br>① 血液浄化や尿の生成、血圧の調節等、我々の生命維持に重要な働きを持つ下記の腎機能について各論的に説明できる。(尿生成、体液量調節等)<br>② 我々の生命維持に重要な働きを持つ以下の排泄メカニズムについて各論的に説明できる。(排尿、排便、発汗) | 坪井　秀夫 |
| 22 | 前期 | 「血漿 PH の酸・塩基平衡メカニズム」<br>一般目標<br>血液の液体成分である血漿の PH 調節機構について過換気症候群や腎不全等の実際の症例を例に挙げて深く学ぶ。 | 「血漿 PH の酸・塩基平衡メカニズム」<br>一般目標<br>① 血液の液体成分である血漿の PH 調節機構について過換気症候群や腎不全等の実際の症例を例に挙げて説明できる。<br>② アシドーシス及びアルカローシスが原因別に説明できる。<br>③ アシドーシス・アルカローシス野代償メカニズムについて症例毎に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 23 | 前期 | 「内分泌ホルモン系(総論)」<br>一般目標<br>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている内分泌ホルモン系について総論的に学ぶ。 | 「内分泌ホルモン系(総論)」<br>到達目標<br>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている内分泌ホルモン系について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 24 | 前期 | 「内分泌ホルモン系(各論)」<br>一般目標<br>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている下記の内分泌ホルモン系について各 | 「内分泌ホルモン系(各論)」<br>到達目標<br>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている内分泌ホルモン系について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 論的に学ぶ。(副腎、甲状腺、上皮小体等) | (副腎、甲状腺、上皮小体等) | |
| 25 | 前期 | 「内分泌ホルモン系(各論)」<br>一般目標<br>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている下記の内分泌ホルモン系について各論的に学ぶ。(膵臓) | 「内分泌ホルモン系(各論)」<br>到達目標<br>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている下記の内分泌ホルモン系について総論的に説明できる。(膵臓) | 坪井　秀夫 |
| 26 | 前期 | 「内分泌ホルモン系(各論)」<br>一般目標<br>① 我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている下記の内分泌ホルモン系について各論的に学ぶ。(脳、腎臓、消化器、心臓、血管等からのホルモン)<br>② 自律神経系とホルモン・内分泌系の相互作用を学ぶ。<br>③ 内分泌攪乱物質のホルモン・内分泌系への影響について学ぶ。 | 「内分泌ホルモン系(各論)」<br>到達目標<br>① 我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている下記の内分泌ホルモン系について各論的に説明できる。(脳、腎臓、消化器、心臓、血管等からのホルモン)<br>② 自律神経系とホルモン・内分泌系の相互作用を説明できる。<br>③ 内分泌攪乱物質のホルモン・内分泌系への影響について説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 27 | 前期 | 「内分泌ホルモン系(各論)」<br>一般目標<br>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている下記の内分泌ホルモン系について各論的に学ぶ。(性ホルモン、ストレスとカテコールアミン等) | 「内分泌ホルモン系(各論)」<br>到達目標<br>我々の生命やホメオスタシスの維持に非常に重要な役目を果たしている下記の内分泌ホルモン系について各論的に説明できる。(性ホルモン、ストレスとカテコールアミン等) | 坪井　秀夫 |
| 28 | 前期 | 「骨の生理学(総論)」<br>一般目標<br>我々の体の構造を維持し、筋肉とともに関節を動かし身体運動を行い、造血、ミネラル代謝等重要な生理学的働きを持つ骨について総論的に学ぶ。 | 「骨の生理学(総論)」<br>到達目標<br>我々の体の構造を維持し、筋肉とともに関節を動かし身体運動を行い、造血、ミネラル代謝等重要な生理学的働きを持つ骨について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 29 | 前期 | 「骨の生理学(各論)」<br>一般目標<br>① 具体的な各部位の硬骨や軟骨の構造や機能を学び、各種硬骨と軟骨の生理学的存在意義についても学ぶ。<br>② 骨芽細胞と破骨細胞の働きについて学ぶ。<br>③ 骨吸収と血中カルシウム濃度調節機構について学ぶ。 | 「骨の生理学(各論)」<br>到達目標<br>① 具体的な各部位の硬骨や軟骨の構造や機能、各種硬骨と軟骨の生理学的存在意義についても説明できる。<br>② 骨芽細胞と破骨細胞の働きについて説明できる。<br>③ 骨吸収と血中カルシウム濃度調節機構について説明できる。 | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 30 | 前期 | 「筋肉の生理学(総論)」<br>一般目標<br>① 具体的な各部位の筋の構造や機能について学び、各種筋の生理学的存在意義について総論的に学ぶ。<br>② 筋種の違いによる筋の機能の違いを総論的に学ぶ。<br>③ 骨とともに関節を可動させ、身体を動かす運動器としての筋の機能を総論的に学ぶ。 | 「筋肉の生理学(総論)」<br>到達目標<br>① 具体的な各部位の筋の構造や機能について学び、各種筋の生理学的存在意義について総論的に説明できる。<br>② 筋種の違いによる筋の機能の違いを総論的に説明できる。<br>③ 骨とともに関節を可動させ、身体を動かす運動器としての筋の機能について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 成績評価方法 | | 科目試験（100%）<br>学期の中間期に中間試験を行い、その点数に応じて本試験素点に加点する事がある。 | | |
| 準備学習など | | 初講時に「本科目受講上の諸注意」として説明するので必ず出席してほしい。 | | |
| 留意事項 | | 初講時に「本科目受講上の諸注意」として説明するので必ず出席してほしい。 | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 生理学Ⅱ |
| 担当者 | 坪井　秀夫 |
| 単位数（時間数） | 4単位（60時間） |
| 学習方法 | 講義・ディスカッション |
| 教科書・参考書 | 生理学テキスト　第7版　大地陸男（著）文光堂　2015年 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 歯科医師として臨床経験10年以上、研究者としての経験10年以上の教員が生理学を担当する。生理学は、人体の構造を深く学ぶ科目である解剖学と深くリンクし、人体の正常な機能を根本から深く学ぶ科目である。特に理学療法士にとっては最も重要な科目の一つとなる。　講義では基本的な人体各部の正常な生理学的機能をマスターするのは勿論、それらの各機能に深く関連する多くの疾患や症例またそれに対する治療等についても解説し、臨床的にも役立つような生理学的知識の習得を目的とする。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「筋肉の生理学(各論)」<br>一般目標<br>① 筋肉の収縮メカニズムを分子レベルで理解する。<br>② 脳から運動神経終末を経由し骨格筋興奮に至る興奮伝達のプロセスを分子レベルで理解する。 | 「筋肉の生理学(各論)」<br>到達目標<br>① 筋肉の収縮メカニズムが分子レベルで説明できる。<br>② 脳から運動神経終末を経由し骨格筋興奮に至る興奮伝達のプロセスを分子レベルで説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 2 | 後期 | 「筋肉の生理学(各論)」<br>一般目標<br>① 筋収縮する為に、カルシウムイオンの存在がいかに重要かを分子レベルで理解する。<br>② 筋収縮の際､筋細胞内でアクチン、ミオシン、トロポニン、トロポミオシン､ATPの各分子がどう作用し合うのかを分子レベルで理解する。 | 「筋肉の生理学(各論)」<br>到達目標<br>① 筋収縮する為に、カルシウムイオンの存在がいかに重要かを分子レベルで説明できる。<br>② 筋収縮の際、筋細胞内でアクチン、ミオシン、トロポニン、トロポミオシン､ATPの各分子がどう作用し合うのかを分子レベルで説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 3 | 後期 | 「神経系の生理学(総論)」<br>一般目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に総論的に学ぶ。（ニューロンの基本、有髄神経と無髄神経、興奮伝導・伝達とシナプス等） | 「神経系の生理学(総論)」<br>到達目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容が総論的に説明できる。（ニューロンの基本、有髄神経と無髄神経、興奮伝導・伝達とシナプス等） | 坪井　秀夫 |
| 4 | 後期 | 「神経系の生理学(各論)」<br>一般目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中 | 「神経系の生理学(各論)」<br>到達目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容 | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 心に各論的に学ぶ。(神経伝達物質、脳内神経伝達物質と精神疾患、中枢神経内のグリア細胞群等) | を中心に各論的に説明できる。(神経伝達物質、脳内神経伝達物質と精神疾患、中枢神経内のグリア細胞群等) | |
| 5 | 後期 | 「神経系の生理学(各論)」<br>一般目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に総論的に学ぶ。(各神経による具体的な臓器､筋等のコントロールの実際、自律神経系の生理学的働き等) | 「神経系の生理学(各論)」<br>到達目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を各論的に説明できる。(各神経による具体的な臓器、筋等のコントロールの実際、自律神経系の生理学的働き等) | 坪井　秀夫 |
| 6 | 後期 | 「神経系の生理学(各論)」<br>一般目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に学ぶ。(大脳：前頭葉、側頭葉等) | 「神経系の生理学(各論)」<br>到達目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に説明できる。(大脳：前頭葉、側頭葉等) | 坪井　秀夫 |
| 7 | 後期 | 「神経系の生理学(各論)」<br>一般目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に学ぶ。(大脳：頭頂葉、後頭葉・小脳等) | 「神経系の生理学(各論)」<br>到達目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に説明できる。(大脳：頭頂葉、後頭葉・小脳等) | 坪井　秀夫 |
| 8 | 後期 | 「神経系の生理学(各論)」<br>一般目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に学ぶ。(間脳・脳幹・脊髄等) | 「神経系の生理学(各論)」<br>到達目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に説明できる。(間脳・脳幹・脊髄等) | 坪井　秀夫 |
| 9 | 後期 | 「神経系の生理学(各論)」<br>一般目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に学ぶ。(脳室、脳脊髄液の生理学的働き等) | 「神経系の生理学(各論)」<br>到達目標<br>我々が生命活動を維持する上で非常に重要な神経系について下記の内容を中心に各論的に説明できる。(脳室、脳脊髄液の生理学的働き等) | 坪井　秀夫 |
| 10 | 後期 | 「血液の生理学（総論・各論)」<br>一般目標<br>体液の中でもガス交換、免疫、物質交換等、生命を維持する上で非常に重要な役割を果たしている血液について、血液自体の働きや各血液成分の働きを詳細に学ぶ。 | 「血液の生理学（総論・各論)」<br>到達目標<br>体液の中でもガス交換、免疫、物質交換等、生命を維持する上で非常に重要な役割を果たしている血液について、血液自体の働きや各血液成分の働きが詳細に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 11 | 後期 | 「生体防御システム（免疫系）(総論)」<br>一般目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原等から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容を総論的に学ぶ。(自 | 「生体防御システム（免疫系）(総論)」<br>到達目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原等から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容を総論的に説 | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 然免疫系） | 明できる。(自然免疫系) | |
| 12 | 後期 | 「生体防御システム（免疫系）(総論)」<br>一般目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容を総論的に学ぶ。(獲得免疫系、抗原と抗体、免疫記憶等) | 「生体防御システム（免疫系）(総論)」<br>到達目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容が総論的に説明できる。(獲得免疫系、抗原と抗体、免疫記憶等) | 坪井　秀夫 |
| 13 | 後期 | 「生体防御システム（免疫系）(各論)」<br>一般目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原等から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容を各論的に学ぶ。<br>(免疫寛容、アレルギー反応、自己免疫疾患等) | 「生体防御システム（免疫系）(各論)」<br>到達目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原等から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容が各論的に説明できる。(免疫寛容、アレルギー反応、自己免疫疾患等) | 坪井　秀夫 |
| 14 | 後期 | 「生体防御システム（免疫系）(各論)」<br>一般目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原等から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容を各論的に学ぶ。(ワクチン接種と血清療法の違い、サイトカインネットワーク等) | 「生体防御システム（免疫系）(各論)」<br>到達目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原等から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容が各論的に説明できる。(ワクチン接種と血清療法の違い、サイトカインネットワーク等) | 坪井　秀夫 |
| 15 | 後期 | 「前半まとめ」<br>一般目標<br>学期の中間期に際して前半に学んだ内容の復習を行う。<br>前半に学んだ内容全体から中間小テストを行う。 | 「前半まとめ」<br>到達目標<br>学期の中間期に際して前半に学んだ内容全体がおおよそ説明できる。<br>前半に学んだ内容全体から出題される中間小テストで 60%以上得点できる。 | 坪井　秀夫 |
| 16 | 後期 | 「生体防御システム（免疫系）(各論)」<br>一般目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原等から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容を各論的に学ぶ。(胸腺と脾臓の働き、感染症と免疫等) | 「生体防御システム（免疫系）(各論)」<br>到達目標<br>我々の体を感染症や全ての病原抗原等から守ってくれている免疫系の働きについて下記の内容が各論的に説明できる。(胸腺と脾臓の働き、感染症と免疫等) | 坪井　秀夫 |
| 17 | 後期 | 「血液凝固システム・各種血液型」<br>一般目標<br>① 出血を止めてくれる止血系（血液凝固システム）はどのようなものでどのようにコントロールされているのか詳細に学ぶ。<br>② ABO 型や Rh 型等の血液型の概要 | 「血液凝固システム・各種血液型」<br>到達目標<br>① 出血を止めてくれる止血系（血液凝固システム）はどのようなものでどのようにコントロールされているのかが説明できる。<br>② ABO 型や Rh 型等の血液型の概 | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | とこれに関連して輸血時や妊娠時によく問題になるケースを学習しながら血液・免疫系の必須知識を学ぶ。 | 要とこれらに関連して輸血時や妊娠時によく問題になるケースや血液・免疫系の必須知識が説明できる。 | |
| 18 | 後期 | 「心臓・血液循環系（総論）」<br>一般目標<br>ガス交換や免疫、物質交換等我々の生命維持に非常に重要な役割を果たしている血液を全身に循環させている心臓と血管からなる循環器系について総論的に学ぶ。 | 「心臓・血液循環系（総論）」<br>到達目標<br>ガス交換や免疫、物質交換等我々の生命維持に非常に重要な役割を果たしている血液を全身に循環させている心臓と血管からなる循環器系について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 19 | 後期 | 「心臓・血液循環系（各論）」<br>一般目標<br>ガス交換や免疫、物質交換等我々の生命維持に非常に重要な役割を果たしている血液を全身に循環させている心臓と血管からなる循環器系について下記の内容を各論的に学ぶ。（心電図の基本、動脈硬化と虚血性心疾患、心房細動・心室細動等の各種心疾患とそれらの発症時の心電図） | 「心臓・血液循環系（各論）」<br>到達目標<br>ガス交換や免疫、物質交換等我々の生命維持に非常に重要な役割を果たしている血液を全身に循環させている心臓と血管からなる循環器系について下記の内容が各論的に説明できる。（心電図の基本、動脈硬化と虚血性心疾患、心房細動・心室細動等の各種心疾患とそれらの発症時の心電図） | 坪井　秀夫 |
| 20 | 後期 | 「嗅覚の生理学（総論・各論）」<br>一般目標<br>身体に及ぶ危険の事前察知や生殖、味覚等にも深く関連する感覚である嗅覚の生理学的機能について深く理解する。 | 「嗅覚の生理学（総論・各論）」<br>到達目標<br>身体に及ぶ危険の事前察知や生殖、味覚等にも深く関連する感覚である嗅覚の生理学的機能について説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 21 | 後期 | 「味覚の生理学（総論・各論）」<br>一般目標<br>飲食物を咀嚼する際に嚥下、消化、吸収しても危険がないか判断したり、食べる喜びとして心身共にプラスの刺激を与えてくれる感覚である味覚の生理学的機能について深く理解する。 | 「味覚の生理学（総論・各論）」<br>到達目標<br>飲食物を咀嚼する際に嚥下、消化、吸収しても危険がないか判断したり、食べる喜びとして心身共にプラスの刺激を与えてくれる感覚である味覚の生理学的機能について説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 22 | 後期 | 「皮膚感覚の生理学（総論・各論）」<br>一般目標<br>痛覚、温冷覚、触覚等を通して、身体に及ぶ危険の事前察知や防御、日常生活や生殖等にも深く関連する感覚である皮膚感覚の生理学的機能について深く理解する。 | 「皮膚感覚の生理学（総論・各論）」<br>到達目標<br>痛覚、温冷覚、触覚等を通して、身体に及ぶ危険の事前察知や防御、日常生活や生殖等にも深く関連する感覚である皮膚感覚の生理学的機能について説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 23 | 後期 | 「聴覚の生理学（総論）」<br>一般目標<br>日常生活における言葉による社会的コミュニケーションや我々の身体に及ぶ危険の事前察知や防御にも深く関連する感覚である聴覚の生理学的機能につ | 「聴覚の生理学（総論）」<br>到達目標<br>日常生活における言葉による社会的コミュニケーションや我々の身体に及ぶ危険の事前察知や防御にも深く関連する感覚である聴覚の生理学的 | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | いて総論的に深く理解する。(空気の波として外耳道に侵入してきた音がどのようなプロセスを経て最終的に電気信号として大脳の聴覚野に認識されるのか等) | 機能について総論的に説明できる。(空気の波として外耳道に侵入してきた音がどのようなプロセスを経て最終的に電気信号として大脳の聴覚野に認識されるのか等) | |
| 24 | 後期 | 「聴覚の生理学（各論)」<br>一般目標<br>日常生活における言葉による社会的コミュニケーションや我々の身体に及ぶ危険の事前察知や防御にも深く関連する感覚である聴覚の生理学的機能について下記の内容を中心に各論的に深く理解する。(音刺激、加速度、平衡・バランス・回転刺激が各々どのようなプロセスで大脳に認識されるのか) | 「聴覚の生理学（各論)」<br>到達目標<br>日常生活における言葉による社会的コミュニケーションや我々の身体に及ぶ危険の事前察知や防御にも深く関連する感覚である聴覚の生理学的機能について特に下記の内容が各論的に説明できる。(音刺激、加速度、平衡・バランス・回転刺激が各々どのようなプロセスで大脳に認識されるのか) | 坪井　秀夫 |
| 25 | 後期 | 「視覚の生理学（総論)」<br>一般目標<br>我々は外界からの刺激や情報の約80%を視覚から得ている。正に感覚器の中でも最も重要な感覚と言える視覚の生理学的機能について総論的に深く理解する。 | 「視覚の生理学（総論)」<br>到達目標<br>我々は外界からの刺激や情報の約80%を視覚から得ている。正に感覚器の中でも最も重要な感覚と言える視覚の生理学的機能について総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 26 | 後期 | 「視覚の生理学（各論)」<br>一般目標<br>我々は外界からの刺激や情報の約80%を視覚から得ている。正に感覚器の中でも最も重要な感覚と言える視覚の生理学的機能について各論的に深く理解する。(虹彩による光量調節、毛様体によるレンズのピント調節、各種視細胞の働き、各種副眼器の働き等) | 「視覚の生理学（各論)」<br>到達目標<br>我々は外界からの刺激や情報の約80%を視覚から得ている。正に感覚器の中でも最も重要な感覚と言える視覚の生理学的機能について以下の内容が各論的に説明できる。(虹彩による光量調節、毛様体によるレンズのピント調節、各種視細胞の働き、各種副眼器の働き等) | 坪井　秀夫 |
| 27 | 後期 | 「発声系の生理学（総論)」<br>一般目標<br>我々は日常生活において言葉をやり取りし互いに社会的コミュニケーションを取り合っている。言葉をやり取りするメカニズムは喉頭の声帯を中心とする発声器、声帯で発せられた声を加工する歯・口腔、その声を共鳴させる鼻腔・副鼻腔、相手の言葉を聞く聴覚器、その相手の言葉の内容を理解し、それに対する自分の考えを言葉にする大脳の言語野等が生理学的にも問題なく各々正常に働かないといけない非常に高度で複雑なメカニズムである。この機能について総論的に深く理解する。 | 「発声系の生理学（総論)」<br>到達目標<br>我々は日常生活において言葉をやり取りし互いに社会的コミュニケーションを取り合っている。言葉をやり取りするメカニズムは喉頭の声帯を中心とする発声器、声帯で発せられた声を加工する歯・口腔、その声を共鳴させる鼻腔・副鼻腔、相手の言葉を聞く聴覚器、その相手の言葉の内容を理解し、それに対する自分の考えを言葉にする大脳の言語野等が生理学的にも問題なく各々正常に働かないといけない非常に高度で複雑なメカニズムである。この機能について総論的に説 | 坪井　秀夫 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 明できる。 | |
| 28 | 後期 | 「発声系の生理学（各論）」<br>一般目標<br>我々は日常生活において言葉をやり取りし互いに社会的コミュニケーションを取り合っている。言葉をやり取りするメカニズムは喉頭の声帯を中心とする発声器、声帯で発せられた声を加工する歯・口腔、その声を共鳴させる鼻腔・副鼻腔、相手の言葉を聞く聴覚器、その相手の言葉の内容を理解し、それに対する自分の考えを言葉にする大脳の言語野等が生理学的にも問題なく各々正常に働かないといけない非常に高度で複雑なメカニズムである。この機能について下記の内容を各論的に深く理解する。(声帯の発声メカニズム、声帯を開閉する為の軟骨、筋肉、大脳の言語中枢等) | 「発声系の生理学（各論）」<br>到達目標<br>我々は日常生活において言葉をやり取りし互いに社会的コミュニケーションを取り合っている。言葉をやり取りするメカニズムは喉頭の声帯を中心とする発声器、声帯で発せられた声を加工する歯・口腔、その声を共鳴させる鼻腔・副鼻腔、相手の言葉を聞く聴覚器、その相手の言葉の内容を理解し、それに対する自分の考えを言葉にする大脳の言語野等が生理学的にも問題なく各々正常に働かないといけない非常に高度で複雑なメカニズムである。この機能について下記の内容が各論的に説明できる。(声帯の発声メカニズム、声帯を開閉する為の軟骨・筋肉、大脳の言語中枢等) | 坪井　秀夫 |
| 29 | 後期 | 「生殖器系の生理学(総論)」<br>一般目標<br>男性生殖器、女性生殖器各々について生殖器の生理学的機能を総論的に理解する。 | 「生殖器系の生理学(総論)」<br>到達目標<br>男性生殖器、女性生殖器各々について生殖器の生理学的機能を総論的に説明できる。 | 坪井　秀夫 |
| 30 | 後期 | 「生殖器系の生理学(各論)」<br>一般目標<br>男性生殖器、女性生殖器各々について生殖器の生理学的機能を下記の内容を中心に各論的に深く理解する。(配偶子（精子、卵子）の発生、妊娠・出産（受精卵→胎児→新生児)、胎盤の機能、各種ホルモンと生殖器系、胎児循環等) | 「生殖器系の生理学(各論)」<br>到達目標<br>男性生殖器、女性生殖器各々について生殖器の生理学的機能が下記の内容を中心に各論的に説明できる。(配偶子（精子、卵子）の発生、妊娠・出産（受精卵→胎児→新生児)、胎盤の機能、各種ホルモンと生殖器系、胎児循環等) | 坪井　秀夫 |
| 成績評価方法 | | 科目試験（100%）<br>学期の中間期に中間試験を行い、その点数に応じて本試験素点に加点する事がある。 | | |
| 準備学習など | | 初講時に「本科目受講上の諸注意」として説明するので必ず出席してほしい。 | | |
| 留意事項 | | 初講時に「本科目受講上の諸注意」として説明するので必ず出席してほしい。 | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　１学年 |
| 科目名 | 運動学演習Ⅰ |
| 担当者 | 櫻井泰弘 |
| 単位数（時間数） | ２単位（60 時間） |
| 学習方法 | 教科書とプリントを用いての講義，グループワーク |
| 教科書・参考書 | 基礎運動学　第６版　補訂　医歯薬出版株式会社<br>筋骨格系のキネシオロジー　原著第２版　医歯薬出版株式会社<br>プロメテウス解剖学アトラス　第２版　医学書院<br>標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学　医学書院 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 人間の身体運動に関する基礎的な知識を理解する．主に，運動学に必要な力学，運動器の構造と機能，上肢帯と上肢の運動，下肢帯と下肢の運動，脊柱・体幹の運動，姿勢，動作分析，歩行・走行，運動学習に関して学習する．<br>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う． |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「生体力学の基礎①」<br>力学についての基本的な知識を理解する． | 「力学の基礎」<br>①　運動学と運動力学の違いについて説明できるようになる。<br>②　身体運動の面と軸について説明できるようになる．<br>③　力をベクトルとして説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 2 | 後期 | 「生体力学の基礎②」<br>身体運動を力学的視点で理解する． | 「テコの原理，モーメント」<br>①　テコの原理を理解し，身体運動にどのような影響があるかを説明できるようになる．<br>②　モーメントを用いて力を求める方法を理解し，実際に解答できるようになる．<br>③　力学に関する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 3 | 後期 | 「運動器の構造と機能①」<br>骨，関節，および靭帯の基本構造と機能を理解する． | 「骨，関節，腱・靭帯の基本構造と機能」<br>①　骨の基本構造と機能を理解し，説明できるようになる．<br>②　関節の基本構造と機能を理解し，説明できるようになる．<br>③　各関節の名前，種類について理解し，説明できるようになる．<br>④　腱・靭帯の基本構造と機能を理解し，説明できるようになる．<br>⑤　骨，関節，腱・靭帯に関する国家試験が解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 後期 | 「運動器の構造と機能②」<br>骨格筋の基本構造と機能を理解する. | 「骨格筋の基本構造と機能」<br>① 骨格筋の基本構造と機能について理解し，説明できるようになる.<br>② 骨格筋の神経構造について理解し，説明できるようになる.<br>③ 筋紡錘の構造と機能を理解し，説明できるになる.<br>④ 筋線維の種類と機能について理解し，説明できるようになる.<br>⑤ 骨格筋系に関する国家試験が解くことができるようになる. | 櫻井　泰弘 |
| 5 | 後期 | 「運動器の構造と機能③」<br>運動単位，筋収縮の様態について理解する. | 「運動単位，筋の収縮様態」<br>① 運動単位について理解し，説明できるようになる.<br>② 神経支配比について理解し，説明できるようになる.<br>③ 筋収縮の基本的性質について理解し，説明できるようになる.<br>④ 筋収縮の様態を理解し，説明できるようになる．また，動作場面における筋収縮の様態をイメージできるようになる.<br>⑤ 運動単位，筋収縮の様態に関する国家試験が解くことができるようになる. | 櫻井　泰弘 |
| 6 | 後期 | 「上肢の解剖学」<br>上肢の骨，筋肉，神経について理解する. | 「上肢の骨，筋肉，神経」<br>① 上肢（肩甲骨，上腕骨，橈骨，尺骨，手根骨，手指骨）の名称を教科書がなくても言えるようになる.<br>② 上肢に関する筋肉の図をみて名前が言えるようにする.<br>③ 上肢の神経支配について理解し，教科書がなくても言えるようにする.<br>④ 上肢の骨，筋肉，神経に関する国家試験が解くことができるようになる. | 櫻井　泰弘 |
| 7 | 後期 | 「上肢帯，肩関節の運動学①」<br>上肢帯，肩関節の運動学的な特徴を理解する. | 「上肢帯，肩関節の運動学的特徴」<br>① 上肢帯，肩関節の構造を理解し，説明できるようになる.<br>② 肩甲骨の運動方向を理解し，説明できるようになる.<br>③ 肩甲上腕関節の運動方向を理解し，説明できるようになる. | 櫻井　泰弘 |
| 8 | 後期 | 「上肢帯，肩関節の運動学②」<br>上肢帯，肩関節に関係する筋肉について理解する. | 「上肢帯，肩関節の筋肉」<br>① 上肢帯，肩関節に関係する筋肉の図をみて名前を言えるようになる.<br>② 上肢帯，肩関節に関係する筋肉の起始・停止を理解し，説明できるようになる.<br>③ 上肢帯，肩関節に関係する筋肉の作用 | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | について理解し，説明できるようになる．<br>④　上肢帯，肩関節に関係する筋肉の神経支配について理解し，説明できるようになる．<br>⑤　上肢帯，肩関節に関係する国家試験を解くことができるようになる． | |
| 9 | 後期 | 「肘関節，前腕の運動学」<br>①　肘関節，前腕の運動学的な特徴を理解する．<br>②　肘関節，前腕に関係する筋肉について理解する． | 「肘関節，前腕の運動学的特徴，筋肉」<br>①　肘関節の構造を理解し，説明できるようになる．<br>②　肘関節の運動方向を理解し，説明できるようになる．<br>③　肘関節に関係する筋肉の図をみて名前を言えるようになる．<br>④　肘関節に関係する筋肉の起始・停止を理解し，説明できるようになる．<br>⑤　肘関節に関係する筋肉の作用について理解し，説明できるようになる．<br>⑥　肘関節に関係する筋肉の神経支配について理解し，説明できるようになる．<br>⑦　肘関節に関係する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 10 | 後期 | 「手の運動学①」<br>手の運動学的な特徴を理解する． | 「手の運動学的特徴」<br>①　手関節，手指の構造を理解し，説明できるようになる．<br>②　手関節，手指の運動方向を理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 11 | 後期 | 「手の運動学②」<br>手に関係する筋肉について理解する． | 「手に関係する筋肉」<br>①　手関節，手指に関係する筋肉の図をみて名前を言えるようになる．<br>②　手関節，手指に関係する筋肉の起始・停止を理解し，説明できるようになる．<br>③　手関節，手指に関係する筋肉の作用について理解し，説明できるようになる．<br>④　手関節，手指に関係する筋肉の神経支配について理解し，説明できるようになる．<br>⑤　手関節，手指に関係する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 12 | 後期 | 「手の運動学③」<br>手の解剖・運動学的特徴，変形について理解する． | 「手の解剖・運動学的特徴，変形」<br>①　手のアーチについて理解し，説明できるようになる．<br>②　手の把持動作パターンについて理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | ③　手が変形する要因を理解し，説明できるようになる．<br>④　手の変形の名前を言えるようになる． | |
| 13 | 後期 | 「下肢の解剖学」<br>　下肢の骨，筋肉，神経について理解する． | 「下肢の骨，筋肉，神経」<br>①　下肢（骨盤，大腿骨，膝蓋骨，脛骨，腓骨，足根骨、趾骨）の名称を教科書がなくても言えるようになる．<br>②　下肢に関する筋肉の図をみて名前が言えるようにする．<br>③　下肢の神経支配について理解し，教科書がなくても言えるようにする．<br>④　下肢の骨，筋肉，神経に関する国家試験が解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 14 | 後期 | 「股関節の運動学①」<br>　股関節の運動学的な特徴を理解する． | 「股関節の運動学的特徴」<br>①　股関節の構造を理解し，説明できるようになる．<br>②　股関節の運動方向を理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 15 | 後期 | 「股関節の運動学②」<br>　股関節に関係する筋肉について理解する． | 「股関節に関係する筋肉」<br>①　股関節に関係する筋肉の図をみて名前を言えるようになる．<br>②　股関節に関係する筋肉の起始・停止を理解し，説明できるようになる．<br>③　股関節に関係する筋肉の作用について理解し，説明できるようになる．<br>④　股関節に関係する筋肉の神経支配について理解し，説明できるようになる．<br>⑤　股関節に関係する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 16 | 後期 | 「膝関節の運動学①」<br>　膝関節の運動学的な特徴を理解する． | 「膝関節の運動学的特徴」<br>①　膝関節の構造を理解し，説明できるようになる．<br>②　膝関節の運動方向を理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 17 | 後期 | 「膝関節の運動学②」<br>　膝関節に関係する筋肉について理解する． | 「膝関節に関係する筋肉」<br>①　膝関節に関係する筋肉の図をみて名前を言えるようになる．<br>②　膝関節に関係する筋肉の起始・停止を理解し，説明できるようになる．<br>③　膝関節に関係する筋肉の作用について理解し，説明できるようになる．<br>④　膝関節に関係する筋肉の神経支配について理解し，説明できるようになる．<br>⑤　膝関節に関係する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 18 | 後期 | 「足関節・足部の運動学①」<br>足関節，足部の運動学的な特徴を理解する． | 「足関節・足部の運動学的特徴」<br>① 足関節・足部の構造を理解し，説明できるようになる．<br>② 足関節・足部の運動方向を理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 19 | 後期 | 「足関節・足部の運動学②」<br>足関節・足部の解剖・運動学的特徴，変形について理解する． | 「足関節・足部の解剖・運動学的特徴，変形」<br>① 足関節・足部のアーチについて理解し，説明できるようになる．<br>② 足関節・足部の変形する要因を理解し，説明できるようになる．<br>③ 足関節・足部の変形の名前を言えるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 20 | 後期 | 「足関節・足部の運動学③」<br>足関節・足部に関係する筋肉について理解する． | 「足関節・足部に関係する筋肉」<br>① 足関節，足部に関係する筋肉の図をみて名前を言えるようになる．<br>② 足関節，足部に関係する筋肉の起始・停止を理解し，説明できるようになる．<br>③ 足関節，足部に関係する筋肉の作用について理解し，説明できるようになる．<br>④ 足関節，足部に関係する筋肉の神経支配について理解し，説明できるようになる．<br>⑤ 足関節，足部に関係する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 21 | 後期 | 「体幹の解剖学」<br>体幹の骨，筋肉，神経について理解する．<br>「頸椎、胸椎，胸郭の運動学」<br>① 頸椎、胸椎，胸郭の運動学的な特徴を理解する．<br>② 頸椎、胸椎，胸郭に関係する筋肉について理解する． | 「体幹の骨，筋肉，神経」<br>① 体幹の骨の名称を教科書がなくても言えるようになる．<br>② 体幹に関する筋肉の図をみて名前が言えるようにする．<br>③ 体幹の神経支配について理解し，教科書がなくても言えるようにする．<br>④ 体幹の骨，筋肉，神経に関する国家試験が解くことができるようになる．<br>「頸椎，胸椎，胸郭の運動学的特徴」<br>① 頸椎，胸椎，胸郭の構造を理解し，説明できるようになる．<br>② 頸椎，胸椎，胸郭の運動方向を理解し，説明できるようになる．<br>「頸椎，胸椎，胸郭に関係する筋肉」<br>① 頸椎，胸椎，胸郭に関係する筋肉の図をみて名前を言えるようになる．<br>② 頸椎，胸椎，胸郭に関係する筋肉の起始・停止を理解し，説明できるようになる．<br>③ 頸椎，胸椎，胸郭に関係する筋肉の作 | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 用について理解し，説明できるようになる．<br>④　頸椎，胸椎，胸郭に関係する筋肉の神経支配について理解し，説明できるようになる．<br>⑤　頸椎，胸椎，胸郭に関係する国家試験を解くことができるようになる． | |
| 22 | 後期 | 「腰椎，骨盤，顔面，頭部の運動学」<br>①　腰椎，骨盤，顔面，頭部の運動学的な特徴を理解する．<br>②　腰椎，骨盤，顔面，頭部に関係する筋肉について理解する． | 「腰椎，骨盤，顔面，頭部の運動学的特徴」<br>①　腰椎，骨盤，顔面，頭部の構造を理解し，説明できるようになる．<br>②　腰椎，骨盤，顔面，頭部の運動方向を理解し，説明できるようになる．<br>「腰椎，骨盤，顔面，頭部に関係する筋肉」<br>①　腰椎，骨盤，顔面，頭部に関係する筋肉の図をみて名前を言えるようになる．<br>②　腰椎，骨盤，顔面，頭部に関係する筋肉の起始・停止を理解し，説明できるようになる．<br>③　腰椎，骨盤，顔面，頭部に関係する筋肉の作用について理解し，説明できるようになる．<br>④　腰椎，骨盤，顔面，頭部に関係する筋肉の神経支配について理解し，説明できるようになる．<br>⑤　腰椎，骨盤，顔面，頭部に関係する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 23 | 後期 | 「姿勢①」<br>姿勢の特徴について理解する． | 「人の姿勢の特徴」<br>①　重心について理解し，説明できるようになる．<br>②　左右方向，前後方向の重心線を理解し，説明できるようになる．<br>③　安定した姿勢，不安定な姿勢の要因について理解し，説明できるようになる．<br>④　姿勢に関係する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 24 | 後期 | 「姿勢②」<br>①　姿勢戦略について理解する．<br>②　疾患における姿勢の特徴について理解する．<br>③　姿勢観察の方法を理解する． | 「姿勢戦略，各疾患の特徴，姿勢観察の方法の理解」<br>①　各関節の姿勢戦略について理解し，説明できるようになる．<br>②　各疾患の姿勢の特徴を理解し，なぜそのような姿勢になるのか説明できるようになる．<br>③　各姿勢の観察方法について理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 25 | 後期 | 「動作分析①」<br>寝返り動作，起き上がり動作の分析方法について理解する． | ① 寝返り動作について理解し，説明できるようになる．<br>② 起き上がり動作について理解し，説明できるようになる．<br>③ 寝返り動作を各相に分けて理解し，説明できるようになる．<br>④ 起き上がり動作を各相に分けて理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 26 | 後期 | 「動作分析②」<br>立ち上がり動作，着座動作の分析方法について理解する． | ① 立ち上がり動作について理解し，説明できるようになる．<br>② 着座動作について理解し，説明できるようになる．<br>③ 立ち上がり動作を各相に分けて理解し，説明できるようになる．<br>④ 着座動作を各相に分けて理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 27 | 後期 | 「歩行と走行①」<br>歩行の運動学的特徴を理解する． | 「歩行の運動学的な特徴」<br>① 歩行周期について理解し，説明できるようになる．<br>② 歩行時の重心移動について理解し，説明できるようになる．<br>③ 歩行時の下肢関節運動を理解し，説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 28 | 後期 | 「歩行と走行②」<br>① 歩行時の力学的分析，筋活動について理解する．<br>② 小児，高齢者の歩行の特徴を理解する．<br>③ 一般的な異常歩行の種類や特徴を理解する． | 「歩行の運動力学，筋活動の理解」<br>「小児，高齢者の歩行の特徴」<br>「一般的な異常歩行の理解」<br>① 歩行時の下肢関節モーメントを理解し，説明できるようになる．<br>② 歩行時の下肢筋群の活動について理解し，説明できるようになる．<br>③ 小児や高齢者の歩行の特徴を理解し，成人と比較してどのような違いがあるのか説明できるようになる．<br>④ 一般的な異常歩行の種類について理解し，説明できるようになる．<br>⑤ 歩行に関係する国家試験を解くことができるようになる． | 櫻井　泰弘 |
| 29 | 後期 | 「歩行と走行③」<br>① 走行の特徴について理解する．<br>② 正常歩行，異常歩行について再度理解する． | 「走行の特徴について理解」<br>「歩行の再理解」<br>① 走行の特徴について理解し，説明できるようになる．<br>② 正常歩行について，実際に体を動かし理解を深め，各関節の状態，重心の位置を説明できるようになる．<br>③ 動画より異常歩行について，理解を深め，各関節の状態，重心の位置を説明できるようになる． | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 30 | 後期 | 「運動学習」<br>運動学習の概念について理解する. | 「運動学習の理解」<br>① 学習する過程について理解し，説明できるようになる.<br>② 学習の種類について理解し，説明できるようになる.<br>③ フィードバック機構について理解し，説明できるようになる.<br>④ 運動技能の特徴を理解し，説明できるようになる.<br>⑤ 運動学習に関する国家試験が解くことができるようになる. | 櫻井　泰弘 |
| 成績評価方法 | | 小テスト<br>科目テスト（100%） | | |
| 準備学習など | | 内容が多いことから，一回では理解出来ないことがあるため，毎授業事の復習を必ず実施してください．また，毎授業前に前回の内容の小テスト実施するため，しっかり準備して臨んでください. | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　１学年 |
| 科目名 | 人間発達学 |
| 担当者 | 林　尚宜 |
| 単位数（時間数） | ２単位（30 時間） |
| 学習方法 | 教科書を使用した講義、グループワーク |
| 教科書・参考書 | イラストでわかる　人間発達学<br>監修　上杉雅之　医歯薬出版株式会社　第１版 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| リハビリテーションの対象者は新生児から高齢者まで多岐にわたるため、各期における発達学的な特徴や課題、主な疾患とリハビリテーションについて学習する。ヒト（人）が生涯を通してどのように発達するのか、身体的な構造の変化だけでなく、神経系や認知面など様々な発達領域も含めて理解することを目的とする。なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う. |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「発達概念と発達理論」<br>一般目標<br>①ヒト（人）にとって「発達」とは何か、定義を理解する<br>②人間発達期の区分について理解する<br>③発達の原則を理解する<br>④発達の概念について理解する<br>⑤異速性の原則、臓器別の発育について理解する<br>⑥代表的な発達理論について理解する | 「発達に関する定義と原則」<br>「発達理論とは」<br>到達目標<br>①ヒトにとって発達とは、どのような過程か説明できる<br>②人間発達期の区分と当てはまる年齢について説明できる<br>③成熟、成長、発達、学習、発育の違いを説明できる<br>④発達の連続性、順序性、方向性、異速性、個人差について説明できる<br>⑤スキャモンの臓器別発育曲線について説明できる<br>⑥反射階層性理論について説明できる | 林　尚宜 |
| 2 | 前期 | 「発達検査」<br>一般目標<br>①エリクソンによる発達期と発達課題について理解する<br>②各発達検査について理解する | 「エリクソンによる発達期と発達課題」<br>「発達検査とは」<br>到達目標<br>①エリクソンによる各発達期の名称を説明できる<br>②発達課題の主題と相反する心理状態について説明できる<br>③発達検査の目的、方法、意義について説明できる<br>④Dubowitz 新生児神経学的評価法について説明できる<br>⑤デンバー式発達スクリーニング検査（DDST)、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法の違いについて説明できる<br>⑥粗大運動能力尺度（GMFM）と粗大運動 | 林　尚宜 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 能力分類システム（GMFCS）の違いについて説明できる | |
| 3 | 前期 | 「原始反射、姿勢反射/反応」<br>一般目標<br>①原始反射とは何か理解する<br>②原始反射の出現と消失・統合の意味について理解する<br>③各原始反射の出現と消失・統合の時期について理解する<br>④原始反射検査の意義について理解する | 「原始反射とは」<br>到達目標<br>①反射の経路について深部腱反射を例にして説明できる<br>②原始反射の意義について説明できる<br>③静止画や動画をみて、各反射の正式名称と特徴を説明できる<br>④各反射の出現時期を説明できる<br>⑤各反射の消失時期を説明できる<br>⑥各反射の中枢を説明できる | 林　尚宜 |
| 4 | 前期 | 「原始反射、姿勢反射/反応」<br>一般目標<br>①発達過程においてみられる各姿勢反射/反応について理解する<br>②姿勢反射/反応の出現と消失･統合の時期について理解する<br>③姿勢反射/反応検査の意義について理解する | 「姿勢反射/反応とは」<br>到達目標<br>①姿勢反射/反応の意義について説明できる<br>②静止画や動画をみて、各反射の正式名称と特徴を説明できる<br>③各反射の出現時期を説明できる<br>④各反射の消失時期を説明できる<br>⑤各反射の中枢を説明できる | 林　尚宜 |
| 5 | 前期 | 「胎児・新生児期の発達」<br>一般目標<br>①神経ネットワークの再編成の過程について理解する<br>②神経支配比について理解する<br>③感覚運動を養う援助方法とその特徴について理解する<br>④早産・低出生体重児について理解する | 「胎児・新生児の発達支援」<br>「早産・低出生体重児」<br>到達目標<br>①発達期における神経回路の再編成の過程について説明できる<br>②神経支配比について説明できる<br>③胎児および新生児の味覚、臭覚、聴覚、触覚、前庭感覚、視覚の特徴について説明できる<br>④ダブルタッチとはなにか説明できる<br>⑤身体表象について説明できる<br>⑥デベロップメンタルケア、タッチケア、カンガルーケア、ポジショニングのそれぞれ意味と目的について説明できる<br>⑦早産・低出生体重児の感覚発達や運動発達における特徴を説明できる<br>⑧環境調整とポジショニングについて説明できる | 林　尚宜 |
| 6 | 前期 | 「運動発達（０～９カ月)」<br>一般目標<br>①０～９カ月の背臥位における運動発達の特徴について理解する<br>②０～９カ月の腹臥位における | 「運動発達と反射の影響」<br>到達目標<br>①手根骨、足根骨の発達について説明できる<br>②背臥位での姿勢の変化について、時期とその特徴を説明できる | 林　尚宜 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 運動発達の特徴について理解する<br>③０～９カ月の座位における運動発達の特徴について理解する<br>④０～９カ月の立位における運動発達の特徴について理解する | ③腹臥位での姿勢の変化について、時期とその特徴を説明できる<br>④座位での姿勢の変化について、時期とその特徴を説明できる<br>⑤立位での姿勢の変化について、時期とその特徴を説明できる<br>⑥寝返り動作獲得までの発達過程について説明できる<br>⑦四つ這い動作獲得までの発達過程について説明できる<br>⑧立ち上がり動作獲得までの発達過程について説明できる<br>⑨動機付けの重要性について説明できる | |
| 7 | 前期 | 「運動発達（10～18 カ月)」<br>一般目標<br>①10～18 カ月の立位における運動発達の特徴について理解する<br>②歩行動作の発達について理解する<br>③５歳までの運動発達について理解する | 「運動発達と姿勢制御」<br>到達目標<br>①10～18 ヵ月の立位歩行の発達過程について説明できる<br>②始歩について説明できる<br>③初期歩行について説明できる<br>④フィードバック制御、フィードフォワード制御について説明できる<br>⑤CPG について説明できる<br>⑥２～５歳の粗大運動発達について説明できる | |
| 8 | 前期 | 「言語および上肢機能の発達」<br>一般目標<br>①言語の発達について理解する<br>②上肢機能の発達について理解する<br>③巧緻動作の発達について理解する | 「言語能力の発達」<br>「上肢機能の発達」<br>到達目標<br>①一語文、二語文の違いについて説明できる<br>②物の把握・保持機能の発達について、どの時期に何ができるか説明できる<br>③手伸ばし（リーチ）の発達について説明できる<br>④握りとつまみ動作について説明できる<br>⑤プレシェイピングについて説明できる | 林　尚宜 |
| 9 | 前期 | 「ADL の発達」<br>一般目標<br>①しつけという側面での ADL の発達を理解する<br>②遊びの発達を理解する<br>③食事の発達を理解する<br>④排泄の発達を理解する<br>⑤更衣の発達を理解する | 「遊び・食事・排泄・更衣の発達」<br>到達目標<br>①児にとっての ADL の発達意義について説明できる<br>②各期における遊びの意義と重要性を説明できる<br>③各期における食事の方法とその意義を説明できる<br>④各期における排泄コントロールの過程について説明できる<br>⑤各期における更衣の発達過程について説明できる | 林　尚宜 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 前期 | 「感覚・知覚・認知・社会性の発達」<br>一般目標<br>①聴覚の発達について理解する<br>②視覚の発達について理解する<br>③発達過程における眼球運動コントロールと上肢コントロールについて理解する<br>④臨界期について理解する<br>⑤構成課題の発達について理解する<br>⑥共同注意や三項関係について理解する<br>⑦保存の概念について理解する<br>⑧心の理論について理解する | 「感覚機能と社会性の発達」<br>到達目標<br>①聴覚の発達について説明できる<br>②視力、追視、眼球コントロールの発達について説明できる<br>③追従性眼球運動と予測性眼球運動についてそれぞれの時期と特徴について説明できる<br>④臨界期とは何か説明できる<br>⑤各種構成課題と発達時期について説明できる<br>⑥共同注意、三項関係とはなにか説明できる<br>⑦自己中心性、保存の概念について説明できる<br>⑧サリー・アン課題について説明できる | 林　尚宜 |
| 11 | 前期 | 「学童期・青年期（思春期）・成人期の発達」<br>一般目標<br>①学童期における発達学的特徴と課題について理解する<br>②学童期の身体的な特徴とその課題について理解する<br>③青年期（思春期）における発達学的特徴と課題について理解する<br>④青年期（思春期）の身体的な特徴とその課題について理解する<br>⑤成人期の発達学的特徴と課題について理解する<br>⑥障害受容の段階について理解する<br>⑦欲求階層理論について理解する | 「学童期における発達」<br>「青年期（思春期）の心理的な発達」<br>「成人期の心理、社会的な発達」<br>到達目標<br>①学童期における身体的な変化と運動発達の変化について説明できる<br>②学童期の発達学的な特徴である「ギャングエイジ」「肥満」について説明できる<br>③青年期に起こりうるボディイメージの問題について説明できる<br>④青年期の発達学的な特徴について､「モラトリアム」「アイデンティティ」について説明できる<br>⑤成人期の心理学的な発達特徴について説明できる<br>⑥上田の障害の受容５段階をそれぞれ説明できる<br>⑦マズローの欲求階層理論を５段階それぞれ説明できる | 林　尚宜 |
| 12 | 前期 | 「老年期の発達」<br>一般目標<br>①老年期における発達学的特徴と課題について理解する<br>②老化による身体構造の変化について理解する<br>③老化による歩行の特徴の変化について理解する<br>④高齢者に多い骨折とはなにか理解する<br>⑤加齢に伴い身体機能が低下した状態や廃用症候群について理解する | 「老化による心身機能の変化」<br>「老年期の発達学的特徴」<br>到達目標<br>①老年期の発達学的な特徴について説明できる<br>②老化による筋や骨など身体構造の変化を説明できる<br>③老化による循環機能の変化を説明できる<br>④老化による呼吸機能の変化を説明できる<br>⑤若年者と高齢者の歩行の違いを説明できる<br>⑥高齢者に多い四大骨折を説明できる<br>⑦フレイル、サルコペニア、ロコモティブ | 林　尚宜 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ⑥日本人の死因について理解する | シンドロームについてそれぞれ説明できる<br>⑧死因は何が多いのか、年代別に説明することができる | |
| 13 | 前期 | 「胎児・新生児期の発達」<br>一般目標<br>①胎児期・新生児期の神経系の発達について理解する<br>②出生による循環動態の変化について理解する<br>③先天性心疾患とはなにか理解する<br>④分娩時の異常により起こる状態とその評価指標について理解する | 「胎児・新生児の身体および循環動態の変化」<br>到達目標<br>①胎児・新生児期の脳の発達における特徴について説明できる<br>②ボタロー管、アランチウス静脈管、卵円孔の役割と閉鎖時期について説明できる<br>③心室中隔欠損症、ファロー四徴症、心房中隔欠損症、動脈管開存症について特徴を説明できる<br>④新生児仮死とはなにか、アプガースコアとその項目、時間、点数について説明できる | 林　尚宜 |
| 14 | 前期 | 「発達に関する疾患別各論」<br>一般目標<br>①発達過程に起こりうるそれぞれの疾患について理解する<br>②発達障害とはなにか理解する<br>③感覚運動経験を促すアプローチの意義について理解する<br>④リハビリテーションの評価や介入方法について理解する<br>⑤発達に関する疾患について理解する | 「発達障害とは」<br>「発達に関する疾患」<br>到達目標<br>①発達障害（広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害）の違いと特徴について説明できる<br>②広汎性発達障害、自閉症スペクトラムについてそれぞれの特徴を説明できる<br>③知的障害（精神遅滞）について特徴を説明できる<br>④脳性麻痺の特徴について説明できる<br>⑤ダウン症の特徴について説明できる<br>⑥小児整形疾患の特徴について説明できる<br>⑦小児がんの特徴について説明できる | 林　尚宜 |
| 15 | 前期 | 「まとめ」<br>一般目標<br>①当授業にて学んだ、各発達段階の特徴と課題ついて復習する<br>②各疾病の特徴について復習する | 「講義１～14 のまとめ」<br>「国家試験に出題されやすいポイント」<br>到達目標<br>①原始反射､姿勢反射/反応についてそれぞれ具体的に説明できる<br>②各発達段階のエリクソンによる発達段階ついて、それぞれ具体的に説明できる<br>③ヒトは生後、どのような過程を経て安定した歩行移動が可能になるのか、具体的に説明できる<br>④ヒトは生後、どのような過程を経て高い上肢スキル・巧緻動作を獲得するのか、具体的に説明できる<br>⑤ヒトは生後、どのような経過で言語の発達、高いコミュニケーション能力や社会性を獲得するのか、具体的に説明できる | 林　尚宜 |

| | |
|---|---|
| 成績評価方法 | 科目試験（90%）<br>グループワーク課題（10%）<br>授業態度が悪い学生は、減点対象とします |
| 準備学習など | 教科書に事前に目を通し、次の授業内容を予習しておくこと<br>授業の最後に行う「アウトプットタイム」に、積極的に発言して学習すること |
| 留意事項 | 特になし |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・1 学年 |
| 科目名 | 解剖演習 |
| 担当者 | 奥地伸城 |
| 単位数（時間数） | 1 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義形式、演習 |
| 教科書・参考書 | 解剖学　第 4 版　医学書院　監修　奈良勲 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 医療を目指す者にとっては、人体の構造と機能に関して高度かつ正確な知識が必要とされる。理学療法士の業務の多くは「運動」・「動作」を扱う。したがって、動きに直接関与する筋骨格系については十分に熟知する必要がある。また筋電図についても学習し実際に測定することで、各運動での骨格筋の収縮様式の違いを理解する。臨床経験のある理学療法士の視点により運動療法や理学療法評価、臨床実習に必要な解剖生理の基本的知識を習得することを目的とする。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「骨格総論・各論」<br>一般目標<br>①骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を正確に理解する<br>②骨の形、各部の名称を正確に理解する | 「全身骨格・肩甲骨について」<br>到達目標<br>①骨格全体の名称を説明できる<br>②骨格の配列について説明できる<br>③肩甲骨の形、各部の名称を説明できる<br>④肩甲骨の運動について説明できる<br>⑤骨が構成する関節の名称と特徴、運動方向などを説明できる | 奥地伸城 |
| 2 | 前期 | 「骨格各論」<br>一般目標<br>①骨の形、各部の名称を正確に理解する | 「上肢骨について」<br>到達目標<br>①上腕骨の形、各部の名称を説明できる<br>②肩関節・肘関節の特徴と運動について説明できる<br>③肩甲上腕リズムについて説明できる<br>④橈骨・尺骨の形、各部の名称を説明できる<br>⑤肘関節・前腕・手関節の特徴と運動について説明できる | 奥地伸城 |
| 3 | 前期 | 「骨格各論」<br>一般目標<br>①骨の形、各部の名称を正確に理解する | 「手根骨・手指骨について」<br>到達目標<br>①手根骨・手指骨の配列、名称を説明できる<br>②手関節、手指の特徴と運動について説明できる | 奥地伸城 |
| 4 | 前期 | 「骨格各論」<br>一般目標<br>①骨の形、各部の名称を正確に理解する | 「骨盤について」<br>到達目標<br>①骨盤を構成する骨の配列、各部の名称を説明できる<br>②骨盤の動きと運動方向について説明でき | 奥地伸城 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | る | |
| 5 | 前期 | 「骨格各論」<br>一般目標<br>①骨の形、各部の名称を正確に理解する | 「下肢骨について」<br>到達目標<br>①大腿骨の形、各部の名称を説明できる<br>②股関節・膝関節の特徴と運動について説明できる<br>③脛骨・腓骨の形、各部の名称を説明できる<br>④膝関節・足関節の特徴と運動について説明できる<br>⑤足根骨・足趾骨の名称を説明できる<br>⑥足関節、足趾の特徴と運動について説明できる | 奥地伸城 |
| 6 | 前期 | 「骨格各論」<br>一般目標<br>①骨の形、各部の名称を正確に理解する | 「頭蓋骨・胸郭・脊柱について」<br>到達目標<br>①脊椎の形、各部の名称を説明できる<br>②胸郭を構成する骨の配列、各部の名称を説明できる<br>③頭蓋骨を構成する骨の配列、各部の名称を説明できる<br>④内頭蓋底からみた大脳などの中枢神経系の位置について説明できる<br>⑤運動時・呼吸時の胸郭の動きについて説明できる | 奥地伸城 |
| 7 | 前期 | 「筋学総論」<br>一般目標<br>①骨格筋の一般的な構造と機能を理解する<br>②筋電図測定の実際を体験・見学し、方法論や結果に対する考察を理解する | 「筋学総論」<br>到達目標<br>①骨格筋の特徴・生理作用について説明できる<br>②筋電図とは何か、筋電図測定の意味について説明できる<br>①筋電図測定の方法を説明できる<br>②等尺性収縮、等張性収縮での筋電図上の違いを説明できる<br>③求心性収縮、遠心性収縮での筋電図上の違いを説明できる<br>④OKC、CKC での筋電図上の違いを説明できる | 奥地伸城 |
| 8 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>①主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する | 「上肢の筋について」<br>到達目標<br>①上肢帯の筋の名称・起始・停止・作用を説明できる<br>②rotator cuff を構成する筋とその機能を説明できる<br>③上腕の屈・伸筋群の名称・起始・停止・作用を説明できる<br>④単関節筋・二関節筋について、それぞれの特徴を説明できる | 奥地伸城 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>①主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する | 「前腕筋群について」<br>到達目標<br>①前腕筋群の名称・起始・停止・作用を説明できる<br>②前腕の運動方向について説明できる<br>③tenodesis action について説明できる<br>④手内筋群の名称と作用を説明できる<br>⑤手の運動方向について説明できる | 奥地伸城 |
| 10 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>①主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する | 「下肢帯の筋について」<br>到達目標<br>①下肢帯の筋の名称・起始・停止・作用を説明できる<br>②殿筋の筋力障害と姿勢・歩行との関係を説明できる | 奥地伸城 |
| 11 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>①主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する | 「大腿筋群について」<br>到達目標<br>①大腿筋群の名称・起始・停止・作用を説明できる<br>②単関節筋・二関節筋について、それぞれの特徴を説明できる | 奥地伸城 |
| 12 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>①主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する | 「下腿・足部の筋群について」<br>到達目標<br>①下腿・足部の筋群の名称・起始・停止・作用を説明できる | 奥地伸城 |
| 13 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>①主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する | 「頸部・胸部の筋群について」<br>到達目標<br>①胸部・腹部の筋群の名称・起始・停止・作用を説明できる<br>②呼吸筋について説明できる | 奥地伸城 |
| 14 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>①主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する | 「背部の筋について」<br>到達目標<br>①背部筋群の名称・起始・停止・作用を説明できる<br>②push up に関与する筋群とその必要性について説明できる | 奥地伸城 |
| 15 | 前期 | 「筋学各論」<br>一般目標<br>①主要な骨格筋について、その構造を知り、その作用を理解する | 「咀嚼・嚥下に関与する筋群について」<br>到達目標<br>①頭部・頸部にある咀嚼・嚥下に関与する筋群について名称・作用を説明できる<br>②食物取り込みから食塊の食堂通貨までのプロセスが説明できる | 奥地伸城 |
| 成績評価方法 | | 期末試験 | | |
| 準備学習など | | 授業中に次の授業範囲を通達するので、予習をしておくこと | | |
| 留意事項 | | なし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・1 学年 |
| 科目名 | 公衆衛生学 |
| 担当者 | 恩田　祐行 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 教科書：わかりやすい公衆衛生学（第 4 版）ヌーベェルヒロカワ<br>参考書：厚生の指標「国民衛生の動向 2019/2020」（財　厚生統計協会） |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 理学療法士国家試験の出題基準に準拠した内容により医学系における基礎、臨床的専門についての門についての総合的な講義、および過去の国家試験の解説などにより、将来医療人としての臨床工学、理学療法士の業務に必要な臨床医学的知識の習得を目的とする。また理学療法士として総合的な知識を習得して、理学療法士国家試験に合格することを目的とする。医師として臨床経験のある者がその経験を活かし授業を行う。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 理学療法士が必要とする医学的基礎を理解する。 | 公衆衛生の概念を述べることができる。また疫学的方法による健康解析について述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 2 | 後期 | 理学療法士が必要とする人口問題や少子高齢化について理解する。 | わが国が直面している人口減少や少子高齢化がもたらす社会問題について述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 3 | 後期 | 理学療法士が必要とする感染症について理解する。 | 感染症の病原体の種類や感染症の発生の現状を理解し、述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 4 | 後期 | 理学療法士が必要とする感染症の現状と対策について理解する。 | 感染症の予防対策（予防接種、検疫など）について述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 5 | 後期 | 理学療法士が必要とする食品保健について理解する。 | 食品の安全性に関する根幹的法律および食中毒、食品添加物、残留農薬などの規制などについて述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 6 | 後期 | 理学療法士が必要とする食品保健対策について理解する。 | 食と取り巻く現状（遺伝子組換へ食品、輸入食品、健康食品等）について現状を理解し、対策を述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 7 | 後期 | 理学療法士が必要とする環境問題（地球温暖化、大気汚染、酸性雨、オゾン層の破壊等）について理解する。 | 環境問題（地球温暖化、大気汚染、オゾン層の破壊等）について現状を理解し、対策を述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 8 | 後期 | 理学療法士が必要とする水の安全や水源汚染、住環境の安全、土壌汚染、原発事故、ごみ・廃棄物処理について理解する。 | 水源汚染対策、老朽化した水道管の新たな敷設や下水道の整備、原子力発電所事故やごみ・廃棄物処理について述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 9 | 後期 | 理学療法士が必要とする医療・介護の保障制度や医療保険、高齢者医療制度、国民医療費及び介護保険制度を理解する。 | 医療・介護の保障制度を理解し、また公費負担医療制度について述べることができる。また脳卒中や虚血性心疾患等の病態生理や後遺症に対する機能回復訓練について述べることができる。 | 恩田　祐行 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 後期 | 理学療法士が必要とする地域保健法の理念、医療サービスの供給体制や救急医療について理学療法士の役割を理解する。 | 病院、診療所、介護老人保健施設の役割や保健・医療従事者（医師、薬剤師、看護師、理学療法士等）の資格と養成機関や救急医療･災害医療について述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 11 | 後期 | 理学療法士が必要とする母子保健について母子保健事業（妊産婦健康診査や乳幼児健康診査等）について理解する。 | 母子の保健をまもり増進するための仕組みや取り組みについて述べることができる。また少子化対策（子育て支援施策や若い年齢での結婚・出産の希望が実現できる環境整備、男女の働き方改革の促進等）について述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 12 | 後期 | 理学療法士が必要とする学校保健管理や学校環境衛生について理解する。またヘルスプロモーションについて理解する。 | 学校という「場」が地域の健康に与える影響と役割について述べることができる。また禁煙などヘルスプロモーションに基づく対策について具体的に述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 13 | 後期 | 理学療法士が必要とする生活習慣病（がん、メタボリックシンドローム、心疾患、糖尿病等）についての概念と現状について理解する。またわが国の健康づくり日本 21 の施策について理解する。 | 生活習慣病の概念と現状および健康づくり対策について述べることができる。また、疾病予防の一次予防（健康増進等）や二次予防（早期発見・早期治療）及び三次予防（リハビリテーション）について具体的に述べることができる。高齢者が介護の必要となった原因の予防についても述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 14 | 後期 | 理学療法士が必要とする精神障害者の障害の概念や実態および精神医療の現状について理解する。 | 2012 年に制定された『障害者総合支援法』により精神障害者も福祉サービスを受けられるようになったが、その福祉サービスや精神障害者に対する雇用支援・就労支援について述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 15 | 後期 | 理学療法士が必要とする産業保健に関係する法律（労働基準法、労働安全衛生法等）および労働災害や職業性疾患について理解する。 | 健康に影響を与える労働環境（労働条件、作業環境、作業管理等）や労働災害、疾病の補償、職業病以外の作業関連疾患、メンタルヘルス、トータルヘルスプロモーション、快適職場の構築について述べることができる。 | 恩田　祐行 |
| 成績評価表 | | 国家試験出題範囲に準じた定期試験を実施し評価する。 | | |
| 準備学習など | | これまでの授業内容を復習し、国家試験出題基準にそっての学習を事前に行っておくこと。 | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・1 学年 |
| 科目名 | 病理学 |
| 担当者 | 佐藤恵美子 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 系統看護学講座 病理学（医学書院） |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 病気は細胞・組織・臓器の変化（異常）から発生する。病理学の講義では、人体構造機能学、生化学、微生物学、免疫学、遺伝学などの基礎知識を元にして、病気の原因、経過、結果などを学び、病気の本態を理解することを目的とする。病理学は組織・臓器に普遍的に生じる基本病変を論じる総論と臓器別の病変を論じる各論に分けられるが、本講義では病理学総論を学習する。医師として臨床経験のある者がその経験を活かし授業を行う。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 病理学を学ぶ意義を理解する。 | 病理検査と病理解剖のビデオを鑑賞して病理学を学ぶ意義を理解し、その重要性を述べることができる。 | 佐藤恵美子 |
| 2 | 後期 | 病因について理解する。<br>細胞の損傷と適応について理解する。 | 内因と外因を説明できる。<br>変性、萎縮、肥大と過形成、化生について説明し、それらによる疾患を列挙できる。<br>壊死とアポトーシスの違いを説明できる。 | 佐藤恵美子 |
| 3 | 後期 | 組織の修復と創傷治癒について理解する。 | 組織の再生について述べることができる。<br>創傷治癒の一次治癒と二次治癒について説明し、その治癒過程を述べることができる。 | 佐藤恵美子 |
| 4 | 後期 | 循環障害について理解する。① | 浮腫、充血、うっ血、出血の病態を理解し、それぞれの疾患の特徴を述べることができる。 | 佐藤恵美子 |
| 5 | 後期 | 循環障害について理解する。② | 血栓症、塞栓症、虚血、梗塞、側副循環、ショック、高血圧の病態を理解し、それぞれの疾患の特徴を述べることができる。 | 佐藤恵美子 |
| 6 | 後期 | 炎症について理解する。 | 炎症の 5 徴候、急性炎症と慢性炎症の違いを述べることができる。<br>滲出性炎、増殖性炎、肉芽腫性炎について説明し、それぞれの疾患を列挙できる。 | 佐藤恵美子 |
| 7 | 後期 | 免疫について理解する。 | 免疫の基礎を理解し、免疫に関連する疾患（アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症）の病態を述べることができる。 | 佐藤恵美子 |
| 8 | 後期 | 移植と再生医療について理解する。 | 移植の種類を述べることができる。臓器移植における拒絶反応と骨髄移植における GVHD について説明できる。<br>再生医療の現状を述べることができる。 | 佐藤恵美子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 後期 | 感染症について理解する。 | 感染防御機構について説明できる。<br>感染経路を説明し、それぞれの経路による感染症を列挙できる。<br>病原体の分類と疾患を列挙できる。 | 佐藤恵美子 |
| 10 | 後期 | 代謝障害について理解する。 | 脂質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖代謝障害、ビリルビン代謝障害の病態を理解し、それぞれの疾患の特徴を述べることができる。 | 佐藤恵美子 |
| 11 | 後期 | 老化とホメオスタシスついて理解する。 | ホメオスタシスの重要性を理解し、加齢に伴う諸臓器の変化を述べることができる。 | 佐藤恵美子 |
| 12 | 後期 | 先天異常と遺伝子異常について理解する。 | 奇形について説明できる。<br>染色体異常の疾患を列挙し、その特徴を述べることができる。<br>遺伝子異常の分類と疾患を列挙できる。 | 佐藤恵美子 |
| 13 | 後期 | 腫瘍について理解する。① | 腫瘍の定義、腫瘍の分類を述べることができる。良性腫瘍と悪性腫瘍の相違点、悪性腫瘍の特徴を説明できる。 | 佐藤恵美子 |
| 14 | 後期 | 腫瘍について理解する。② | 転移の種類、TNM 分類について説明できる。腫瘍の発生機序について述べることができる。 | 佐藤恵美子 |
| 15 | 後期 | まとめ | | 佐藤恵美子 |
| 成績評価方法 | | テスト　100% | | |
| 準備学習など | | 人体の正常な構造、機能についての基礎知識を復習し、理解しておくこと | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・1学年 |
| 科目名 | 内科学 |
| 担当者 | 斎藤　研 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 標準理学療法学・作業療法学　内科学　第3版（医学書院） |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 内科学は、臨床を行う上で、重要な科目です．理学療法士の国家試験では、出題数は少ないものの、狭く深い内容が問われています。教員が経験した内容と、リハビリテーション分野にもリンクした授業を展開し、理解を深めます。医師として臨床経験のある講師がその経験をもとに授業を行う。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | オリエンテーション、呼吸器疾患を理解する① | 内科学の重要性を理解し、積極的に理解するよう努めることができる。さらに、気管支喘息や慢性閉塞姓肺疾患などの最重要疾患ついて理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 2 | 後期 | 呼吸器疾患を理解する② | 間質性肺炎や気胸などの疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 3 | 後期 | 循環器疾患を理解する① | 虚血性心疾患やうっ血性心不全などの疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 4 | 後期 | 循環器疾患を理解する② | 弁膜症や動脈疾患や静脈疾患などについて理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 5 | 後期 | 肝胆膵疾患を理解する① | ウイルス性肝炎や肝硬変などの肝臓疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 6 | 後期 | 肝胆膵疾患を理解する② | アルコール性肝障害や脂肪肝などの肝疾患および各種胆嚢､膵臓疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 7 | 後期 | 血液、代謝、内分泌、腎臓、膠原病、消化管疾患について知る① | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 斎藤　研 |
| 8 | 後期 | 血液、代謝、内分泌、腎臓、膠原病、消化管疾患について知る② | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 斎藤　研 |
| 9 | 後期 | 血液疾患を理解する | 貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患などについて理解し、その | 斎藤　研 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 特徴を述べることができる。 | |
| 10 | 後期 | 代謝疾患を理解する | 糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、痛風などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 11 | 後期 | 内分泌疾患を理解する | 下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 12 | 後期 | 腎臓疾患および泌尿器疾患を理解する | 腎不全、ネフローゼ症候群なえおの腎臓疾患および泌尿器疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 13 | 後期 | 膠原病疾患を理解する | 慢性関節リウマチ、SLE、皮膚筋炎などの膠原病疾患およびベーチェット病などの膠原病類縁疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 14 | 後期 | 消化管疾患を理解する | 食道疾患、消化性潰瘍などの胃疾患、炎症性腸疾患や腸閉塞などの腸疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 15 | 後期 | 内科疾患を総合的に理解する | 現在までの講義内容を理解し、総合的に内科疾患を述べることができる。 | 斎藤　研 |
| 成績評価方法 | | 科目修了試験 | | |
| 準備学習など | | 理学療法士国家試験を意識した類似問題について、適宜、解法や解説などを加えながら進めるので、講義内容に遅れないよう心がけていくこと。 | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・1学年 |
| 科目名 | 栄養学 |
| 担当者 | 津金芙蓉子 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義形式、演習 |
| 教科書・参考書 | 必要な資料は随時配布　参考書：医学書院　栄養学（人体の構造と機能） |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 施設の管理栄養士として現場での経験をいかして、栄養学を担当します。<br>食に関する情報が氾濫している現在、正しい知識をもち、「何が健康のために本当に良いのか？」を判断する能力が必要です。授業項目は、「栄養素の種類と働き」、「食事と食品」、「人生各期と食生活」について修得します。<br>身近な生活におけるテーマを加え座学・実践で、栄養学の基礎を理解・説明可能とします。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「栄養学の概論」<br>一般目標<br>①　栄養学とは<br>②　理学療法士にとっての栄養学とは | 「食品・栄養素・栄養とは」<br>「栄養補給法・免疫力について」<br>到達目標<br>①　栄養学等用語の習得<br>②　食事を食べることの意義 | 津金芙蓉子 |
| 2 | 前期 | 「栄養素の種類と働き」<br>一般目標<br>①　5大栄養素の種類<br>②　5大栄養素の生理作用 | 「糖質・脂質・たんぱく質の栄養素の種類・働き」<br>到達目標<br>①　5大栄養素を理解し説明可能になる<br>② | 津金芙蓉子 |
| 3 | 前期 | 「栄養素の種類と働き」<br>一般目標<br>②　5大栄養素の種類<br>③　5大栄養素の生理作用 | 「ビタミン・ミネラル・その他の種類・働き」<br>到達目標<br>①　5大栄養素を理解し説明可能になる<br>② | 津金芙蓉子 |
| 4 | 前期 | 「食事と食品」<br>一般目標<br>①　食品群とその分類法<br>②　バランス献立の基本を理解 | 「食品群」<br>到達目標<br>①　栄養素による分類で食品の種類を知る<br>②　　三色食品群を使って、「栄養バランスの良い献立」を理解し、献立の基本型を作成する | 津金芙蓉子 |
| 5 | 前期 | 「食事と食品」<br>一般目標<br>①　市販食品（弁当・惣菜等）で栄養バランス献立作成－1<br>② | 「テーマ：バランス献立作成と評価」<br>到達目標<br>①　外食・中食（名古屋めし）で<br>栄養バランス献立作成―1　（朝食）<br>②　作成献立を「三色食品群」でチェック | 津金芙蓉子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | する | |
| 6 | 前期 | 「人生各期と食生活」<br>一般目標<br>① 人生各期における食生活 | 「人生各期における食生活」<br>到達目標<br>① 乳幼児期・学童期・思春期・若年成人期・壮年期の食生活<br>② 高齢期における健康生活の条件を修得する<br>③ 食欲・排泄を理解 | 津金芙蓉子 |
| 7 | 前期 | 「食物摂取の課題」<br>一般目標<br>① 食生活指針<br>② | 「食習慣の改善目標」<br>到達目標<br>① 健康づくりと望ましい食生活を修得<br>② | 津金芙蓉子 |
| 8 | 前期 | 「食物摂取の課題」<br>一般目標<br>① 栄養バランスガイド<br>② | 「食習慣」<br>到達目標<br>① 栄養バランスガイドの理解し、具体的に食品で考える<br>② | 津金芙蓉子 |
| 9 | 前期 | 「栄養摂取の課題」<br>一般目標<br>① 栄養摂取の過剰と不足<br>② | 「生活習慣病」<br>到達目標<br>① 食生活習慣の具体例を修得する<br>・過剰（エネルギー・Ｎａ）<br>・不足（Ｃａ・Ｆｅ）<br>・生活リズム<br><br>② 高齢者の健康生活を理解する | 津金芙蓉子 |
| 10 | 前期 | 「栄養摂取の課題」」<br>一般目標<br>① 高齢者の健康－１<br>② | 「高齢者の健康生活」<br>到達目標<br>① フレイル予防・改善<br>② オーラルフレイル予防・改善 | 津金芙蓉子 |
| 11 | 前期 | 「栄養摂取の課題」」<br>一般目標<br>① 高齢者の健康－２<br>② | 「テーマ：最後まで口から食べる」<br>到達目標<br>① 実践：口腔体操（音読など)、<br>② 実践： 嚥下調整食（増粘剤・嚥下食） | 津金芙蓉子 |
| 12 | 前期 | 「カードゲームで学ぶ」<br>一般目標<br>① 実践「食のカルテット」<br><br>② | 「振り返り（用語の解説)」<br>到達目標<br>③ 食関連用語を理解し、説明可能となる<br>健康長寿・栄養素・生活習慣<br>機能性成分など | 津金芙蓉子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 前期 | 「カードゲームで学ぶ」<br>一般目標<br>①　実践「食のカルテット」<br>② | 「振り返り（用語の解説)」<br>到達目標<br>①　食関連用語を理解し、説明可能となる健康づくり・代謝・リスクの考え方、食中毒など<br>② | 津金芙蓉子 |
| 14 | 前期 | 「健康長寿に向けて」<br>一般目標<br>①　市販食品（外食・惣菜等）で栄養バランス献立作成－２<br>② | 「栄養バランス献立作成と評価」<br>到達目標<br>①　　外食・中食（名古屋めし）で栄養バランス献立作成―２（昼食）<br>③　作成献立を「食事バランスガイド」でチェックする | 津金芙蓉子 |
| 15 | 前期 | 「まとめ・試験」<br>一般目標<br>①<br>② | 「振り返り」<br>到達目標<br>①　【再考】: 食事を食べることの意義<br>② | 津金芙蓉子 |
| 成績評価方法 | | 期末試験<br>レポート提出 | | |
| 準備学習など | | 授業中に次の授業範囲を通達するので、予習をしておくこと | | |
| 留意事項 | | なし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　１学年 |
| 科目名 | 救急救命学 |
| 担当者 | 米山　猛　青木　浩代 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義・実技・事例研究 |
| 教科書・参考書 | 1　救急蘇生法の指針 2015　厚生労働省<br>2　救急救命士標準テキスト　第９版　へるす出版　2015 年 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 突然の急病や事故により呼吸障害・循環障害・意識障害など生命に危機を及ぼしうる状態に陥った傷病者では、秒単位でその状態が悪化する。長年にわたり現場で救急救命士として活動した経験を生かして、心肺蘇生を主に講義・実技で展開する。また、理学療法士という医療従事者に対する講義なのでプラスアルファとして、バイタルチェック（特に呼吸・脈拍・意識）と救急蘇生に関する医学的根拠については、上級救命講習（市民に対する救急救命講習で消防署等が実施しているハイランクもの）に比べ深く理解させることが目的である。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「救急蘇生と救命の連鎖」<br>一般目標<br>①救急蘇生とは何かを理解する。<br>②救命の連鎖の要素と関連を理解する。 | 「救急蘇生とは」<br>到達目標<br>①救急蘇生の一次救命処置（ＢＬＳ）について説明できる。<br>②救急蘇生のファーストエイドについて説明できる。<br>③心肺蘇生（ＣＰＲ）について説明できる。<br>④二次救命処置（ＡＬＳ）について説明できる。<br>⑤ＢＬＳ、ＣＰＲ、ＣＰＡ、ＡＬＳ、ＡＥＤ等の用語を説明できる。<br><br>「救命の連鎖」<br>到達目標<br>①救命の連鎖の概念を説明し、連鎖を構成する要素を列挙できる。<br>②市民による一次救命処置の内容について説明できる。<br>③心肺蘇生、除細動、生存率の関係を大まかに説明できる。 | 米山　猛 |
| 2 | 後期 | 「突然の心停止を防ぐために」<br>一般目標<br>①救命の連鎖の１つめの輪の具体的な内容を理解する。<br>②予防救急について認識する。 | 「心停止の予防～成人・小児・乳幼児」<br>到達目標<br>①急性冠症候群、脳卒中について大まかに説明できる。<br>②窒息・溺水・交通事故などの不慮の事故の防止策及び緊急措置について大まかに説明できる。 | 米山　猛 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| 3 | 後期 | 「一次救命処置（ＢＬＳ）」<br>一般目標<br>①ＢＬＳを理解する。<br>②他の救助者の要請と適切な119番通報を理解する。<br><br>「心肺蘇生の手順」<br>一般目標<br>①一次救命処置の手順（アルゴリズム）を理解する。<br>②各手順の重要事項について理解する。 | 「心停止の早期認識と通報」<br>到達目標<br>①心停止の確認と判断について説明できる。<br>②他の救助者の要請要領と119番通報のポイントを説明できる。<br><br>「主に市民が行う一次救命処置の手順」<br>到達目標<br>①安全確認、通報、傷病者観察、ＣＰＲ、ＡＥＤ使用の流れについて説明できる。<br>②特に胸骨圧迫の部位、リズム、深さとテンポ、解除について説明できる。<br>③胸骨圧迫と人工呼吸の組合せについて説明できる。 | 米山　猛 |
| 4 | 後期 | 「傷病者観察～バイタルサイン(呼吸)」<br>一般目標<br>①バイタルサインとは何かを理解する。<br>②異常呼吸を理解する。<br><br>「傷病者観察～バイタルサイン(脈拍)」<br>一般目標<br>①脈拍の触知を理解する。(頸動脈・橈骨動脈・上腕動脈)<br>②致死的不整脈を理解する。～(心室細動・心室頻拍) | 「バイタルサイン」<br>到達目標<br>バイタルサインサインについて説明できる。<br><br>「呼吸について」<br>到達目標<br>①呼吸の正常値について説明できる。<br>②呼吸の有無について観察できる。<br>③チェーンストークス呼吸や他の異常呼吸について大まかに説明できる。<br><br>「脈拍について」<br>到達目標<br>①脈拍の正常値について説明できる。<br>②脈拍の測定ができる。(頸動脈､橈骨動脈､上腕動脈)<br><br>「心電図について」<br>①正常な心電図について説明できる。<br>②致死的不整脈について大まかに説明できる。<br>③除細動が必要な心電図波形について説明できる。 | 米山　猛 |
| 5 | 後期 | 「意識の観察」<br>一般目標 | 「意識の観察要領」<br>到達目標 | 米山　猛 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ①意識障害の確認の方法を理解する。<br>②JCS（ジャパンコーマスケール）を理解する。 | ①呼びかけ・痛み刺激の与え方が実技でできる。<br>②意識・呼吸・脈拍の観察要領の一連行動が実技でできる。<br><br>「ジャパンコーマスケール（JCS)」<br>到達目標<br>①覚醒・見当識について説明できる。<br>②ジャパンコーマスケール（JCS）の３－３－９度方式が説明できる。 | |
| 6 | 後期 | 「心肺蘇生法とＡＥＤ～Ⅰ」<br>一般目標<br>①心肺蘇生法の手順について理解する。<br>②胸骨圧迫の部位・強さ・リズムについて理解する。<br>③AED について理解する。 | 「心肺蘇生法とＡＥＤ」<br>到達目標<br>①心肺蘇生法の手順について説明できる。<br>ア　安全確認<br>イ　反応確認<br>ウ　通報と AED<br>エ　呼吸確認<br>オ　胸骨圧迫<br>カ　胸骨圧迫と人工呼吸の比率<br>キ　AED の準備・使用<br>ク　心肺蘇生の続行<br>②胸骨圧迫の部位・強さ・リズムについて説明できる。<br>③AED の機能が説明できる。(装着・解析・指示メッセージ及びショックボタン押下時の注意点) | 米山　猛 |
| 7 | 後期 | 「心肺蘇生法とＡＥＤ～Ⅱ」<br>一般目標<br>**実技で確認する。**<br>①心肺蘇生法の手順について理解する。<br>②胸骨圧迫の部位・強さ・リズムについて理解する。<br>③AED について理解する。 | 「心肺蘇生法とＡＥＤ」<br>到達目標<br>**実技で確認する。**<br>①心肺蘇生法の手順について説明できる。<br>ア　安全確認<br>イ　反応確認<br>ウ　通報と AED<br>エ　呼吸確認<br>オ　胸骨圧迫<br>カ　胸骨圧迫と人工呼吸の比率<br>キ　AED の準備<br>ク　AED の使用<br>ケ　心肺蘇生の続行<br>②胸骨圧迫の部位・強さ・リズムについて説明できる。<br>③AED の機能が説明できる。(装着・解析・指示メッセージ及びショックボタン押下時の注意点) | 米山　猛 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 後期 | 「小児・乳児に対する一次救命処置」<br>一般目標<br>①人工呼吸の重要性について理解する。<br>②人工呼吸・胸骨圧迫の方法及びＡＥＤの使い方について理解する。 | 「小児・乳児に対する心肺蘇生法」<br>到達目標<br>①成人に対する心肺蘇生法と比較して、推奨されている点について説明できる。<br>②小児・乳児に対する人工呼吸について説明できる。<br>③小児・乳児に対する胸骨圧迫について説明できる。<br>④小児・乳児に対するＡＥＤの使用方法について説明できる。 | 米山　猛 |
| 9 | 後期 | 「異物除去」<br>一般目標<br>①気道異物による窒息について理解する。<br>②成人・小児・乳児に対する気道異物除去について理解する。 | 「気道異物による窒息の発見と異物除去」<br>到達目標<br>①窒息のサイン（チョークサイン）について説明できる。<br>②成人・小児・乳幼児に対する気道異物除去について説明できる。<br>ア　背部叩打法<br>イ　ハイムリック法<br>③気道異物による窒息について、反応している場合と反応が無くなった場合についての対処が説明できる。 | 米山　猛 |
| 10 | 後期 | 「止血と体位管理」<br>一般目標<br>①直接圧迫止血法について理解する。<br>②傷病状態による体位管理について理解する。 | 「止血」<br>到達目標<br>①人の血液量と出血量による影響について大まかに説明できる。<br>②直接圧迫止血について説明できる。<br>③感染防止について説明できる。<br><br>「体位管理」<br>到達目標<br>①傷病状態と特有の体位管理について説明できる。<br>ア　仰臥位<br>イ　側臥位（特に回復体位）<br>ウ　ショック体位（足側高位）<br>エ　その他<br>②体位管理の評価と注意点について説明できる。 | 米山　猛 |
| 11 | 後期 | 「救急蘇生法と倫理・法律」<br>一般目標<br>①救急蘇生法の倫理について理解する。<br>②救急蘇生法と法律（民法・刑法）について理解する。 | 「救急蘇生法と倫理・法律」<br>到達目標<br>①救急蘇生法の倫理観について説明できる。<br>②民法の緊急事務管理、刑法の緊急避難について大まかに説明できる。 | 米山　猛 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 「ファーストエイド」<br>一般目標<br>①応急手当の体位と移動について理解する。<br>②代表的な疾患に対する基本的応急手当を理解する。 | 「ファーストエイド」<br>到達目標<br>①回復体位について説明できる。<br>②次の各疾患の病態と応急手当について大まかに説明できる。<br>ア　気管支喘息発作<br>イ　アナフィラキシー<br>ウ　低血糖<br>エ　けいれん<br>オ　熱中症<br>カ　低体温症<br>キ　熱傷、凍傷<br>ク　外傷、骨折等<br>ケ　その他<br>③交通事故等の外傷による頸椎保護について説明できる。 | |
| 12 | 後期 | 「総復習」<br>一般目標<br>①今までの講義内容の知識理解度をチェックする。～科目試験又は質疑応答方式<br>②今までの一次救命処置の実技内容の理解度をチェックする。～実技（心肺蘇生とＡＥＤ） | 「総復習」<br>到達目標<br>①次の項目についてテストを行なう。<br>（科目試験又は質疑応答方式）<br>ア　救命の連鎖<br>イ　予防救急<br>ウ　心肺蘇生法の手順<br>エ　バイタルサイン（呼吸・脈拍・意識）<br>オ　胸骨圧迫<br>カ　人工呼吸の手順<br>キ　気道異物<br>ク　ＡＥＤ<br>ケ　体位管理<br>コ　ファーストエイド<br>②心肺蘇生とＡＥＤの手順について実技で行うことができる。 | 米山　猛 |
| 13 | | 「予防医学」<br>一般目標<br>①　予防理学慮法に関わる制度を知る。<br>②　予防の必要性を理解する。 | 「予防理学療法学に関わる制度」<br>到達目標<br>①　国民の健康を図る施策や社会保障制度について理解できる。<br>②　日本の高齢化という現状により引き起こされている課題を理解しその課題に対する予防理学療法の必要性を理解できる。 | |
| 14 | | 「ロコモティブシンドロームとは」<br>一般目標<br>①　ロコモティブシンドロームの定義を学ぶ。<br>②　ロコモティブシンドローム | 「ロコモティブシンドローム」<br>到達目標<br>①　ロコモティブシンドロームの定義を説明することができる。」<br>②　ロコモティブシンドロームによって引き起こされる様々な問題を理解するこ | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | によって引き起こされる身体的影響を知る。<br>③ ロコモティブシンドロームの評価法・運動療法を学ぶ。 | とができる。<br>③ ロコモティブシンドロームの評価、治療を知り実施できるようになる。 | |
| 15 | | 「運動器の機能低下」<br>一般目標<br>① 運動器を理解する。<br>② 運動器の機能低下により引き起こされる問題について知る。<br>「転倒と転倒予防理学療法」<br>一般目標<br>① 転倒による骨折の実態を学ぶ<br>② 転倒予防に効果のある運動療法を学ぶ | 「サルコペニア・フレイルの理解」<br>到達目標<br>① ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイルの違いを説明することができる<br>② ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイルがそれぞれどのように影響し介護が必要な状態となる病態を作り出しているのかを説明することができる。<br>「転倒による骨折の実態・転倒予防理学療法」<br>一般目標<br>① 転倒により生じる骨折を覚える。<br>② 転倒予防に効果のある運動療法を実施できるようになる。 | |
| 成績評価方法 | | 科目試験（100%） | | |
| 準備学習など | | 講義、実技、事例研究のグループ討議を実施する予定です。実技は、３コマ目以降からは全てあるので動きやすい服装で受講してください。　なかでも、６，７、８コマは最重要事項で講義・実技を総合的に実施する一連のものです。　区切りごと（３コマ、６コマ、９コマ）の授業開始時に小テストを実施する予定です。　12 コマでは、総復習として知識・実技の確認テストを行う予定（80%）予防分野（20%） | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・1 学年 |
| 科目名 | リハビリテーション学 |
| 担当者 | 熱尾　有加 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 配布資料 |
| 教科書・参考書 | |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 臨床経験のある理学療法士が、その経験を活かし授業を行う。リハビリテーションの概念を理解し,疾患の障害像の理解,理学療法士の役割や専門職固有の知識・治療・技術,接遇方法・医療用語など理学療法士に必要な基本的知識を身につけることを目的とする. |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「リハビリテーションの歴史」<br>一般目標<br>障害者を取り巻く環境の歴史を知る. | 「リハビリテーションの歴史的事項」<br>到達目標<br>① リハビリテーションの必要性を説明することができる. | 熱尾　有加 |
| 2 | 前期 | 「医療・社会福祉と法律」<br>一般目標<br>医療の規則等について理解する. | 「医療者に関する規則」<br>到達目標<br>① 医療現場における法律を理解する. | 熱尾　有加 |
| 3 | 前期 | 「地域リハビリテーション」<br>一般目標<br>地域ぐるみのリハビリシステムを理解する. | 「地域リハビリテーションについて」<br>到達目標<br>① 地域リハビリテーションについて説明できる. | 熱尾　有加 |
| 4 | 前期 | 「廃用症候群」<br>一般目標<br>廃用症候群について理解する | 「廃用症候群の定義・具体的内容」<br>到達目標<br>① 廃用症候群について説明できる.<br>② 廃用症候群の種類について理解する. | 熱尾　有加 |
| 5 | 前期 | 「ICIDH と ICF」<br>一般目標<br>ICIDH と ICF について理解する. | 「ICIDH と ICF の定義と違い」<br>到達目標<br>① ICIDH について説明できる.<br>② ICF について説明できる.<br>③ 両者の違いについて説明できる.<br>④ 例題に対して項目の振り分けができるようになる. | 熱尾　有加 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6 | 前期 | 「リスク管理」<br>一般目標<br>リスク管理について理解する. | 「リスク管理の定義・規則」<br>到達目標<br>① リスク管理におけるバイタルサインを知る.<br>② リスク管理において必要な規則を説明できる. | 熱尾　有加 |
| 7 | 前期 | 「評価総論」<br>一般目標<br>診断と評価の原則を知る. | 「機能評価の重要性」<br>到達目標<br>① 評価の必要性について説明できる.<br>② 診断･評価の進め方について理解する. | 熱尾　有加 |
| 8 | 前期 | 「心身機能評価」<br>一般目標<br>問診や身体機能評価の代表的な心身機能を評価する方法を知る. | 「評価項目ごとの評価の目的を説明する」<br>到達目標<br>① 問診方法について理解する.<br>② 疾患に沿った評価方法を理解する. | 熱尾　有加 |
| 9 | 前期 | 「ＡＤＬ評価」<br>一般目標<br>ＡＤＬの意義、ＡＤＬ評価法の種類を知る. | 「ＡＤＬの意義・評価法」<br>到達目標<br>① ADL の意義を説明できる.<br>② ADL の簡単な評価ができるようになる. | 熱尾　有加 |
| 10 | 前期 | 「脳血管障害（総論)」<br>一般目標<br>脳の機能解剖を知る. | 「脳の機能解剖・脳血管障害のメカニズムについて」<br>到達目標<br>① 脳の機能解剖が理解できる.<br>② 脳血管障害が生じるメカニズムと種類 | 熱尾　有加 |
| 11 | 前期 | 「脳血管障害（各論)」<br>一般目標<br>代表的な脳血管障害の障害像を理解する. | 「代表的な脳血管障害の障害像」<br>到達目標<br>① 脳梗塞について知る.<br>② 脳出血について知る.<br>③ 半側空間無視について知る.<br>④ 高次脳機能障害について理解する. | 熱尾　有加 |
| 12 | 前期 | 「変性疾患（各論)」<br>一般目標<br>代表的な変性疾患の障害像を覚える. | 「パーキンソン病・多発性硬化症の病態生理・症状を理解する」<br>到達目標<br>① パーキンソン病・多発性硬化症について理解する.<br>② パーキンソン病・多発性硬化症の症状について説明できる.<br>③ パーキンソン病・多発性硬化症のリハビリテーションについて理解する. | 熱尾　有加 |
| 13 | 前期 | 「変性疾患（各論)」<br>一般目標<br>代表的な変性疾患の障害像を覚える. | 「ギランバレー症候群・ALS の病態生理・症状について」<br>① ギランバレー症候群･ALS について理解する.<br>② ギランバレー症候群･ALS の症状について説明できる. | 熱尾　有加 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 前期 | 「整形疾患（各論）」<br>一般目標<br>代表的な整形外科疾患の障害像を覚える. | 「代表的な整形外科疾患の病態」<br>到達目標<br>① 骨・筋の解剖学を理解する.<br>② 整形疾患の代表例を挙げ，病態・症状について説明できる. | 熱尾　有加 |
| 15 | 前期 | 「まとめ」<br>一般目標<br>これまでの講義のまとめ. | 「授業を通して疾患の理解・リハビリテーションの必要性」<br>到達目標<br>① 講義内で学んだ疾患の説明が出来る.<br>② 評価の内容が説明できる. | 熱尾　有加 |
| 成績評価方法 | | 科目試験（100%）<br>出席率 | | |
| 準備学習など | | 次回の授業の予習と授業後の復習 | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・1 学年 |
| 科目名 | 総合医療学 |
| 担当者 | 藤川小夜子　田中敏彦　小林 二成　大内田潤子　池田　利章　森河　孝夫　鈴木雄太、檜垣道隆、岸田紀子 |
| 単位数（時間数） | 2 単位(30 時間) |
| 学習方法 | 講義・演習 |
| 教科書・参考書 | 特に指定しない（配布資料で授業する） |

授業概要と目的

本講義は多職種連携教育に必要な、各医療、福祉職の職域への理解を深めることを目的とする．各分野の講義は臨床経験・教育経験のある看護師、社会福祉士、言語聴覚士、作業療養士、精神保健福祉士が担当する．

**看護分野**

医療の対象者は同じ疾患でも個々の状態に応じて目標が異なります。年齢や環境、生活習慣によっても健康目標は人それぞれです。多様なニーズに対応するためには医療従事者や他機関の専門職とも提供するサービスを含めて確認、評価、調整する必要があります。対象者の権利の尊重、安全管理、チーム医療を実践するために総合的に理解する．医療従事者として他職種との連携を図り対象者のよりよい生活への援助をはかるために、医療専門職としての基礎的な知識を、看護学を通じて理解し、説明できるようになる。

**作業療法分野**

リハビリテーション専門職として、理学療法と表裏一体としてとらえられている「作業療法」について理解する。
同じリハビリテーション専門職として、目的や効果・職域の違いを知ることで、チーム医療に役立つ知識を習得する。
なお、講義は臨床経験・教育経験のある作業療法士が担当する。

**言語聴覚分野**

言語聴覚士の仕事について、主要業務を中心に解説する。言語聴覚士に対する職域への理解を深める。なお、講義は臨床経験・教育経験のある言語聴覚士が担当する。

**社会福祉分野**

高齢者特性、理学療法士に求められる役割、他職種との連携について知り、理学療法士が高齢者福祉を学ぶ意義について理解する。・障害福祉分野の支援を必要とする人びとについて、障害の捉え方や置かれている状況、また障害特性について理解する。障害福祉に関する制度、機関、専門職の役割について理解する。障害福祉の実践例をもとに、障害福祉分野での支援のあり方および他職種連携について自分なりの意見を持つことができる。精神保健福祉分野の支援を必要とする人びとについて、疾患や障害特性からくる生活課題やその背景について理解する。精神保健福祉に関する制度、機関、専門職の役割について理解する。精神科医療や福祉現場の実践例をもとに、精神保健福祉分野での支援のあり方について自分なりの意見を持つことができる。

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 通年 | 「看護師の理解」<br>①看護の定義を理解する<br>②看護業務を理解する<br>③看護過程を理解する | 1）看護師の法的位置づけを理解する<br>2）看護師の人数、主な勤務先を理解する<br>3）看護倫理を理解する<br>4）フィジカルアセスメントのポイントを理解する。系統別アセスントを知る。<br>5）看護学理論を知る。 | 藤川小夜子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 6）日常生活援助の内容を理解する<br>7) スタンダードプリコーションを理解する | |
| 2 | 通年 | 病院各所で働く看護師の仕事を理解する | 1）各科の看護業務の特徴を理解する。<br>外来、小児科、整形外科、呼吸器科、救急外来、産科婦人科、ICU、手術室、精神科、循環器、消化器、回復期リハビリテーション病棟の特徴と看護を理解する<br>2）看護師の業務内容を理解する。<br>日勤、準夜勤、深夜勤の業務の流れを理解する<br>3）病院内における多職との協働の形を理解する<br>4）看護業務の多岐にわたる形を理解する<br>5）認定看護師の専門性を理解する | 藤川小夜子 |
| 3 | 通年 | 病院以外の看護の現場を理解する<br>①訪問看護ステーションの理解<br>②施設看護を知る<br>③その他の機関での看護業務を知る | 1）在宅・地域看護における対象を理解する<br>2) 訪問看護師の業務内容を理解する<br>3) 介護保険施設の看護業務内容を理解する<br>4) 社会福祉施設の看護業務内容を理解する<br>5) その他機関での看護業を理解する | 藤川小夜子 |
| 4 | 通年 | リハビリテーション部との連携の在り方を理解する<br>①看護職とリハビリ職の情報共有の重要性を知る | 1）看護職とリハビリ職のとの包括的なアセスメントの重要性を理解する<br>2）看護職とリハビリ職の連携の効果<br>3）ケア計画実践における連携のポイントを理解する<br>4）対象を中心としたケア提供の在り方を理解する | 藤川小夜子 |
| 5 | 通年 | 「作業療法を知る」<br>・リハビリテーション職種としての作業療法（士）の目的・業務を理解する。 | 「オキュペーションの理解」<br>・「occupational therapy」の語源から作業療法の目的を説明できる。 | 田中敏彦 |
| 6 | 通年 | 「作業療法の職域」<br>・理学療法との大きな違いとしての「精神科分野」の作業療法を理解する。 | 「精神科作業療法のプログラム」<br>・精神科作業療法の目的・効果を説明でき、さらに自分ならどのように対応するか、を考えることができる。 | 田中敏彦 |
| 7<br>8 | 通年 | 「基礎作業の体験」<br>・作業療法の技法のひとつである「基礎作業（創作活動）」を実際に行い、体験する。<br>（デコパージュ作成） | 「作業の持つ意味の理解」<br>・作業の体験を通して、<br>①「作業」とはどのようなことを指すのか。<br>②なぜ人には作業が必要なのか。<br>を理解し、説明することができる。 | 田中敏彦 |
| 9 | 通年 | 「コミュニケーション障害」<br>言語聴覚士が対応するコミュニケ | 「コミュニケーション障害」<br>言語聴覚士が対応するコミュニケーション | 小林二成 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ーション障害について理解する | 障害について、その障害や訓練についいて簡単に説明することができる | |
| 10 | 通年 | 「コミュニケーション障害･嚥下障害」<br>言語聴覚士が対応するコミュニケーション障害･嚥下障害について理解する | 「コミュニケーション障害・嚥下障害」<br>言語聴覚士が対応するコミュニケーション障害・嚥下障害について、その障害や訓練についいて簡単に説明することができる | 大内田潤子 |
| 11 | 通年 | 「言語発達障害」<br>言語聴覚士が対応する言語発達障害について理解する | 「言語発達障害」<br>言語聴覚士が対応する言語発達障害について、その障害や訓練方法について簡単に説明ができる | 池田　利章 |
| 12 | 通年 | 「聴覚障害」<br>言語聴覚士が対応する聴覚障害について理解する | 「聴覚障害」<br>言語聴覚士が対応する聴覚障害について、その障害や訓練について簡単に説明できる | 森河　孝夫 |
| 13 | 通年 | 高齢者特性及び高齢者福祉領域における理学療法士の役割を理解する。 | • 介護が必要になる主な原因について理解する。<br>• 社会福祉士との連携を中心に、高齢者福祉領域における理学療法士の役割を理解する。<br>• 理学療法士が高齢者福祉を学ぶ意義について考察する。 | 鈴木雄太 |
| 14 | 通年 | 障害福祉分野の現状と課題について理解する | • 障害の捉え方(ICF)、障害特性について理解する。<br>• 障害福祉分野における他職種連携について理解する。<br>• 理学療法士として障害福祉分野を学ぶ意義について<br>• ⇒上記 3 項目について、理解したことを記述することができる。(SBOs) | 檜垣道隆 |
| 15 | 通年 | 精神保健福祉分野の現状と課題について理解する | • 主な精神疾患について理解し、疾患と障害による当事者の生きづらさと必要な支援について理解する。<br>• 人に寄り添う専門職の役割と他職種連携の意義について理解する。<br>• 理学療法士として精神保健福祉を学ぶ意義について考察する | 岸田紀子 |
| 成績評価方法 | | 各分野の講義ごとに学習レポートを作成<br>レポート提出　A４　1 枚 1200 字程度<br>各分野 25%　×　4　=100%で評価　60%を合格とする | | |
| 準備学習など | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 理学療法概論 |
| 担当者 | 近藤達也 |
| 単位数（時間数） | ２単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | （教科書）<br>奈良勲編著　理学療法概論　　第 7 版　医歯薬出版<br>（参考書）<br>なし |

授業概要と目的

理学療法概論を理学療養士として臨床経験のある教員が担当する。

（GIO 一般目標）

資格を取得するにあたり、歴史、法令制度、社会性、理学療法士を知る。

（SBOs 行動目標）

1. 理学療法（士）の業務を説明することができる。
2. 理学療法士・作業療法士法を理解したうえで説明することができる。
3. 国際分類の種類、理学療法の根拠を説明できる。
4. 対象と運動療法を記述することができる。
5. 職能団体の活動を説明もしくは記述することができる。
6. 理学療法部門管理を説明することができる。
7. 理学療法士の活動を説明することができる。
8. 患者、家族の心理を理解して対応することができる。
9. 理学療法の職域開拓を考案することができる。

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 「理学療法と倫理、哲学」<br>一般目標<br>1．倫理と哲学を知る<br>2．日本理学療法士協会の倫理綱領を理解する<br>3．欠格事由を理解する | 「理学療法における倫理、哲学を学ぶ」<br>到達目標<br>1．日本理学療法士協会の倫理綱領を記述することができる<br>2．欠格事由を記述することができる | 近藤達也 |
| 2 | 前期 | 「理学療法学教育」<br>1．卒前教育制度を知る<br>2．卒後教育制度を知る<br>3．職能、学術団体による生涯学習教育を知る<br>4．これからの半世紀を見据えた理学療法学教育の展望を知る | 「理学療法の成り立ちと今後の理学療法教育を学ぶ」<br>1．国家試験出題基準を記述することができる<br>2．理学療法学教育の将来を創造することができる | 近藤達也 |
| 3 | 前期 | 「理学療法の歴史」<br>1．理学療法とリハビリテーションを知る<br>2．近代医療における理学療法 | 「リハビリテーションの歴史、治療法を学ぶ」<br>1．日本、米国、英国における理学療法の歴史を説明すること | 近藤達也 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | を知る<br>3．理学療法の定義と範疇を理解する<br>4．理学療法とリハビリテーションの歴史（日本、米国、英国）を知る<br>5．理学療法およびリハビリテーションに関する組織の歴史を知る<br>6．物理療法、運動療法、徒手療法、徒手理学療法を知る | ができる<br>2． 物理療法、運動療法、徒手療法の歴史を説明することができる<br>3． 疾患別理学療法を記述することができる | |
| 4 | 前期 | 「理学療法士を取り巻く法律制度」<br>1．理学療法士及び作業療法士法を知る<br>2．理学療法の定義と理学療法士活動領域の拡大を知る<br>3．理学療法士及び作業療法士法施行令、施行規則、養成施設指定規則を知る<br>4．理学療法士に関わる医療関連の法律を理解する<br>5．理学療法士及び作業療法士の課題と理学療法業務の拡大を知る<br>6． | 「理学療法士の業務における法律を学ぶ」<br>1． 理学療法士法及び作業療法士法の制定を説明することができる<br>2． 理学療法士法及び作業療法士法（目的、免許、欠格事由、国家試験、業務、秘密を守る義務、名称の使用制限）を記述することができる<br>3． 健康増進法、健康保険法、介護保険法、個人情報保護に関する法律を説明することができる<br>4． 理学療法士等の喀痰等の吸引について説明することができる | 近藤達也 |
| 5 | 前期 | 「理学療法の基盤」<br>1．国際分類を理解する<br>2．理学療法の根拠を理解する | 「国際分類を学ぶ」<br>1． 国際生活機能分類（International Classification of Functioning,Disability and Health : ICF）理解して記述することができる<br>2． 理学療法が science であることを理解して根拠を記述することができる | 近藤達也 |
| 6 | 前期 | 「理学療法の学問体系化と研究法」<br>1．学問体系化を知る<br>2．理学療法における研究方法を理解する | 「カリキュラムの成り立ちを知り、研究の必要性、方法を学ぶ」<br>1．研究方法を記述することができる | 近藤達也 |
| 7 | 前期 | 「理学療法の対象と治療手段」<br>1．大腿骨頚部骨折を理解する<br>2．下肢切断を理解する<br>3．変形性膝関節症を理解する<br>4．慢性関節リウマチを理解する | 「運動療法を学ぶ」<br>1．各疾患の特徴、原因、評価方法、治療方法を記述することができる | 近藤達也 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 前期 | 「理学療法の対象と治療手段」<br>1．脳梗塞を理解する<br>2．気管支喘息を理解する<br>3．心筋梗塞を理解する | 「運動療法を学ぶ」<br>1．各疾患の特徴、原因、評価方法、治療方法を記述することができる | 近藤達也 |
| 9 | 前期 | 「理学療法（士）の役割とその職域」<br>1．理学療法士の業務を知る<br>2．理学療法士の主な職場を知る<br>3．理学療法士の現状を知る<br>4．ヘルスプロモーションと理学療法士を知る<br>5．今後期待される領域を知る | 「理学療法士の業務を学ぶ」<br>1．理学療法の定義（英国、米国、日本）を記述することができる<br>2．理学療法士の国家試験、需給推移、就労状況、年齢分布、男女比、都道府県別人数を記述することができる。<br>3．ヘルスプロモーションにおける予防を記述することができる | 近藤達也 |
| 10 | 前期 | 「理学療法部門における管理」<br>1．組織を知る<br>2．病院組織とリスクマネジメントを知る<br>3．理学療法部門の管理を知る<br>4．質の管理を知る<br>5．自己管理を理解する | 「人、物の管理を学ぶ」<br>1．人、物、経済性、情報、質、自己管理を記述することができる | 近藤達也 |
| 11 | 前期 | 「理学療法士の組織と活動」<br>1．日本理学療法士協会の目的と事業を知る<br>2．日本理学療法士協会の組織と活動を知る<br>3．世界理学療法連盟を知る<br><br>「理学療法士としての適性と資質」<br>1．出会い、選択、動機を知る<br>2．適正と資質の基本概念を知る<br>3．理学療法士としての適性をを理解する<br>4．理学療法士の遂行能力を知る<br>5．適性の重視と育成 | 「日本理学療法士協会、愛知県理学療法士会、愛知県理学療法学会、愛知県理学療法士連盟について学ぶ」<br>1．日本理学療法士協会の目的と事業、組織と活動を記述することができる<br><br>「理学療法士の適性を学ぶ」<br>1．人間に対する関心、人格、正確と行動形態、知性、共感、健康の必要性を説明することができる | 近藤達也 |
| 12 | 前期 | 「理学療法と心理・メンタルヘルスへの対応」<br>1．理学療法と心理的対応を理解する<br>2．対象者の心理を理解する<br>3．家族の心理を理解する<br>4．理学療法士の心理的側面とマネジメントを理解する<br>5．心理・メンタルヘルスへの対応を知る | 「患者、家族の心理を学ぶ」<br>1．対象者、家族の心理状態を記述することができる。<br>2．理学療法士の心理的側面とマネジメントを説明することができる | 近藤達也 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 前期 | 「地域理学療法学―地域包括ケアの展開に向けと―」<br>１．背景と目的を知る<br>２．高齢者福祉政策の変遷を知る<br>３．介護保険制度と地域包括ケアを知る<br>４．地域理学療法における連携を知る<br>５．地域包括ケアシステムの持続性と発展を理解する | 「地域理学療法を学ぶ」<br>１．地域包括ケアシステムを説明することができる | 近藤達也 |
| 14 | 前期 | 「理学療法の職域開拓」<br>１．精神領域の理学療法を知る<br>２．産業理学療法を知る<br>３．被災地の理学療法支援を知る<br>４．女性保健の理学療法を知る<br>５．動物の理学療法を知る<br>６．犬の歩行分析を知る | 「生徒自身の目標を明確にする」<br>１．漠然とした理学療法士像から自身の目指す理学療法士を説明するとができる | 近藤達也 |
| 15 | 前期 | 「関係法規」<br>１．関係法規を理解する | 「法律を再考する」<br>１．理学療法士名簿の登録を記述することができる<br>２．理学療法士国家試験を記述することができる。<br>３．名称の使用制限を説明することができる。 | 近藤達也 |
| 16 | | 科目試験 | | |
| 成績評価方法 | | １．科目試験（８０％）<br>２．小テストの平均点（２０％） | | |
| 準備学習（授業時間外に必要な学修内容） | | 次回実施予定の内容をシラバスにて確認してテキストを熟読しておく | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1学年 |
| 科目名 | 理学療法評価学 |
| 担当者 | 辻　智之 |
| 単位数（時間数） | 4 単位　(60 時間) |
| 学習方法 | 教科書を使っての講義・実技 |
| 教科書・参考書 | 理学療法評価法　(SHINRYOBUNKO) |

| 授業概要と目的 |
|---|
| ・理学療法士に必要な評価・検査法を学び、臨床に向けて理解を深める。<br>・障害というものをしっかりと把握し、身体機能評価だけでなく、社会的な面からもその障害がどのように生活面と関わっていくのかを理解する。<br>・なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う. |

| 回<br>(コマ) | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「総論」<br>評価の位置づけ・構成要素を理解する。 | 「評価の位置づけ・構成要素を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 2 | 後期 | 「評価の進め方」<br>評価の進め方を理解する。 | 「統合と解釈の方法について説明できる」<br>「検証の必要性と方法を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 3 | 後期 | 「日常生活活動評価①」<br>ADL 評価の目的と項目を理解する。 | 「ADL 評価の目的を述べることができる」<br>「ADL 評価の項目を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 4 | 後期 | 「日常生活活動評価②」<br>ADL 評価の特徴を理解する。<br>ADL 評価を実践する。 | 「代表的な ADL 評価の特徴を述べることができる」<br>「実際に ADL 評価を行うことができる」 | 辻　智之 |
| 5 | 後期 | 「形態測定①」<br>形態測定を実践する。 | 「測定をする上で、必要な測定点を触診することができる」<br>「測定方法を把握し、実施することができる」 | 辻　智之 |
| 6 | 後期 | 「形態測定②」<br>形態測定の臨床的意義を理解し、実践を積む。 | 「健常人に対し信頼性・再現性のある測定が実施できる」<br>「測定結果が示す臨床的意義を説明できる」 | 辻　智之 |
| 7 | 後期 | 「関節可動域測定①」<br>関節可動域測定の基礎を理解する。 | 「基本軸と移動軸、および参考可動域角度を述べることができる」<br>「健常人の関節可動域を測定することができる」 | 辻　智之 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 後期 | 「関節可動域測定②」<br>関節可動域測定の制限因子を理解する。 | 「適切な記録、および学術的資料として活用することができる」<br>「関節の機能状態を客観的に把握し、その制限因子を考察できる」 | 辻　智之 |
| 9 | 後期 | 「筋力検査①」<br>筋力検査の基礎を理解する。 | 「筋力・筋持久力・筋パワーの違いを説明できる」<br>「筋力検査、特に徒手筋力検査の目的を列挙できる」 | 辻　智之 |
| 10 | 後期 | 「筋力検査②」<br>筋力検査を実践する。 | 「粗大筋力検査・徒手筋力検査・筋持久力検査を実施できる」<br>「筋力と活動との関係を考察できる」 | 辻　智之 |
| 11 | 後期 | 「感覚検査」<br>感覚検査の基礎を理解する。 | 「感覚検査の意義・目的が説明できる」<br>「感覚検査の留意点が説明できる」<br>「感覚の種類に応じた検査法が行える」<br>「感覚検査の結果を記録できる」 | 辻　智之 |
| 12 | 後期 | 「反射・反応検査①」<br>反射・反応検査の基礎を理解する。 | 「反射・反応の生理学的機序を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 13 | 後期 | 「反射・反応検査②」<br>反射・反応検査を実践する。 | 「反射・反応検査を具体的に実施することができる」<br>「反射・反応検査の結果を解釈することができる」 | 辻　智之 |
| 14 | 後期 | 「筋緊張検査①」<br>筋緊張検査の基礎を理解する。 | 「筋緊張の概念について説明できる」 | 辻　智之 |
| 15 | 後期 | 「筋緊張検査②」<br>筋緊張検査を実践する。 | 「筋緊張の異常について説明できる」<br>「筋緊張の検査を実施できる」 | 辻　智之 |
| 16 | 後期 | 「協調性検査①」<br>協調性検査の基礎を理解する。 | 「協調運動についてその概略を説明できる」<br>「運動失調の定義を述べ、その分類ができる」 | 辻　智之 |
| 17 | 後期 | 「協調性検査②」<br>協調性検査を実践する。 | 「協調性検査を実施することができる」<br>「協調性障害が運動遂行にどのように影響しているか考察できる」 | 辻　智之 |
| 18 | 後期 | 「運動発達検査①」<br>運動発達検査の基礎を理解する。 | 「運動発達検査の目的について理解する」<br>「種々の運動発達検査について理解する」 | 辻　智之 |
| 19 | 後期 | 「運動発達検査②」<br>運動発達検査を実践する。 | 「運動発達検査を実施する際の注意事項について理解する」 | 辻　智之 |
| 20 | 後期 | 「高次脳機能・精神・知能検査①」<br>高次脳機能検査の基礎を理解する。 | 「高次脳機能の概略を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 21 | 後期 | 「高次脳機能・精神・知能検査②」<br>高次脳機能検査の評価を理解する。<br>精神機能の概略を理解する。 | 「失認・失行・失語、基盤的認知機能(覚醒状態・注意・記憶)、知的機能の評価法について述べることができる」<br>「関連する精神機能の概略を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 22 | 後期 | 「意識障害」<br>意識障害の基礎と評価実践をする。 | 「意識障害の程度を分類できる」<br>「意識障害の検査ができる」 | 辻　智之 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 23 | 後期 | 「片麻痺機能検査①」<br>片麻痺の運動障害について理解する。 | 「片麻痺の運動障害の特徴を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 24 | 後期 | 「片麻痺機能検査②」<br>片麻痺の運動機能に対する評価を理解する。 | 「片麻痺の運動機能に対する評価について述べることができる」 | 辻　智之 |
| 25 | 後期 | 「片麻痺機能検査③」<br>片麻痺機能検査を実践する。 | 「片麻痺機能検査を実施することができる」 | 辻　智之 |
| 26 | 後期 | 「整形外科的検査①」<br>整形外科的検査の臨床的意義を理解する。 | 「整形外科的検査の臨床的意義を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 27 | 後期 | 「整形外科的検査②」<br>整形外科的検査の目的を理解し、陽性徴候について理解を深める。 | 「整形外科的検査の理学療法上での意義・目的について述べることができる」<br>「整形外科的検査の陽性徴候を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 28 | 後期 | 「整形外科的検査③」<br>整形外科的検査を実践する。 | 「整形外科的検査を実施できる」 | 辻　智之 |
| 29 | 後期 | 「痛み①」<br>痛みの検査の基礎を理解する。 | 「痛みを分類し、その説明ができる」<br>「痛みの検査の一般的手順を述べることができる」 | 辻　智之 |
| 30 | 後期 | 「痛み②」<br>痛みの検査を実践する。 | 「手順に従って痛みの検査が実施できる」<br>「痛みの原因について考察できる」 | 辻　智之 |
| 成績評価方法 | | ・科目試験(100 点)<br>・出席状況<br>・授業態度 | | |
| 準備学習など | | ・次回の授業に対する予習<br>・授業後の復習 | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1 学年 |
| 科目名 | 理学療法評価演習 I |
| 担当者 | 櫻井　泰弘 |
| 単位数（時間数） | 1 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 実技 |
| 教科書・参考書 | PT・OT のための評価測定　ROM 測定第 2 版　三輪書店 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 関節可動域測定（以下，ROM 測定）は，ヒトの身体運動を明確に捉えるために実施する評価の中では最も基本的かつ重要な項目である．理学療法士において，診断の補助，運動機能の判定，治療効果の判定，治療の一手段として必須となる．そのため本講義では，理学療法評価に対して，理学療養士として実務経験のある教員が担当し，ROM 測定の実際の技術までを習得することを目的とする． |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「ROM 測定　総論」<br>一般目標<br>①ROM 測定の意義について理解する．<br>②ROM 測定の目的について理解する．<br>③ROM 測定の方法について理解する． | 「ROM 測定の意義，目的，方法」<br>到達目標<br>①ROM 測定の意義，目的を説明できる．<br>②ROM 制限因子について説明できる．<br>③ROM の最終域（end feel）について説明できる．<br>④基本軸，移動軸，参考可動域の意味を説明できる．<br>⑤ゴニオメーターの使用方法を説明できる．<br>⑥ROM の表記方法を説明できる． | 櫻井　泰弘 |
| 2 | 後期 | 「上肢関節に対する ROM 測定法（肩関節①）」<br>一般目標<br>肩関節の ROM 測定を正確に実施する． | 「肩関節の ROM 測定」<br>到達目標<br>①肩関節の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる．<br>②肩関節の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる．<br>③肩関節の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる．<br>④測定における注意点を説明できる． | 櫻井　泰弘 |
| 3 | 後期 | 「上肢関節に対する ROM 測定法（肩関節，肩甲帯）」<br>一般目標<br>肩関節，肩甲帯の ROM 測定を正確に実施する． | 「肩関節，肩甲帯の ROM 測定」<br>到達目標<br>①肩関節，肩甲帯の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる．<br>②肩関節，肩甲帯の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる．<br>③肩関節，肩甲帯の ROM を実践し，end | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | feel を理解し，制限因子を特定できる．<br>④測定における注意点を説明できる． | |
| 4 | 後期 | 「上肢関節に対する ROM 測定法（肘関節、前腕）」<br>一般目標<br>肘関節、前腕の ROM 測定を正確に実施する． | 「肘関節、前腕の ROM 測定」<br>到達目標<br>①肘関節、前腕の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる．<br>②肘関節、前腕の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる．<br>③肘関節、前腕の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる．<br>④測定における注意点を説明できる． | 櫻井　泰弘 |
| 5 | 後期 | 「上肢関節に対する ROM 測定法（手関節）」<br>一般目標<br>手関節の ROM 測定を正確に実施する． | 「手関節の ROM 測定」<br>到達目標<br>①手関節の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる．<br>②手関節の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる．<br>③手関節の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる．<br>④測定における注意点を説明できる． | 櫻井　泰弘 |
| 6 | 後期 | 「上肢関節に対する ROM 測定法（手指）」<br>一般目標<br>股関節，膝関節の ROM 測定を正確に実施する． | 「手指の ROM 測定」<br>到達目標<br>①手指の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる．<br>②手指の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる．<br>③手指の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる．<br>④測定における注意点を説明できる． | 櫻井　泰弘 |
| 7 | 後期 | 「下肢関節に対する ROM 測定法（股関節）」<br>一般目標<br>股関節の ROM 測定を正確に実施する． | 「股関節の ROM 測定」<br>到達目標<br>①股関節の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる．<br>②股関節の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる．<br>③股関節の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる．<br>④測定における注意点を説明できる． | 櫻井　泰弘 |
| 8 | 後期 | 「股関節，膝関節に対する ROM 測定法」<br>一般目標<br>股関節の ROM 測定を正確に実施する． | 「股関節，膝関節の ROM 測定」<br>到達目標<br>①股関節，膝関節の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる．<br>②股関節，膝関節の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる．<br>③股関節，膝関節の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる．<br>④測定における注意点を説明できる． | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 後期 | 「足関節，足部，足趾に対する ROM 測定法」<br>一般目標<br>足関節，足部，足趾の ROM 測定を正確に実施する. | 「足関節，足部，足趾の ROM 測定」<br>到達目標<br>①足関節，足部，足趾の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる.<br>②足関節，足部，足趾の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる.<br>③足関節，足部，足趾の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる.<br>④測定における注意点を説明できる. | 櫻井　泰弘 |
| 10 | 後期 | 「頸部に対する ROM 測定法」<br>一般目標<br>頸部の ROM 測定を正確に実施する. | 「頸部の ROM 測定」<br>到達目標<br>①頸部の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる.<br>②頸部の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる.<br>③頸部の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる.<br>④測定における注意点を説明できる. | 櫻井　泰弘 |
| 11 | 後期 | 「体幹に対する ROM 測定法」<br>一般目標<br>体幹の ROM 測定を正確に実施する. | 「体幹の ROM 測定」<br>到達目標<br>①体幹の ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる.<br>②体幹の ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる.<br>③体幹の ROM を実践し，end feel を理解し，制限因子を特定できる.<br>④測定における注意点を説明できる. | 櫻井　泰弘 |
| 12 | 後期 | 「ROM 測定　応用演習①」<br>一般目標<br>上肢の可動域制限に対する ROM 測定を正確に実施する. | 「上肢の可動域制限に対する ROM 測定」<br>到達目標<br>関節可動域制限がある場合の ROM 測定を実施できる. | 櫻井　泰弘 |
| 13 | 後期 | 「ROM 測定　応用演習②」<br>一般目標<br>下肢の可動域制限に対する ROM 測定を正確に実施する. | 「下肢の可動域制限に対する ROM 測定」<br>到達目標<br>関節可動域制限がある場合の ROM 測定を実施できる. | 櫻井　泰弘 |
| 14 | 後期 | 「ROM 測定　総合演習①」<br>一般目標<br>上肢，下肢，頸部，体幹に対する ROM 測定を正確に実施し，疑問点を解消する. | 「上肢，下肢，頸部，体幹に対する ROM 測定　まとめ」<br>到達目標<br>①ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる.<br>②ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる.<br>③測定における注意点を説明, 実践できる. | 櫻井　泰弘 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15 | 後期 | 「ROM 測定　総合演習②」<br>一般目標<br>上肢，下肢，頸部，体幹に対する ROM 測定を正確に実施し，疑問点を解消する. | 「上肢，下肢，頸部，体幹に対する ROM 測定　まとめ」<br>到達目標<br>①ROM 測定における基本軸，移動軸，参考可動域を説明できる.<br>②ROM 測定において，必要なランドマークの触診を正確にできる.<br>③測定における注意点を説明, 実践できる. | 櫻井　泰弘 |
| 成績評価方法 | | 実技試験（60%）筆記試験（40%） | | |
| 準備学習など | | 本講義は実技が中心であるため，T シャツ，タンクトップ，短パンなど動きやすい服装で受講すること．さらに医療従事者として，ふさわしい容姿（髪型，髪色，爪など）で受講すること. | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1 学年 |
| 科目名 | 物理療法学 |
| 担当者 | 奥地伸城 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義、演習 |
| 教科書・参考書 | （教科書）<br>吉田英樹編　理学療法学テキスト　物理療法学　MEDICAL VIEW |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 物理療法は、運動療法とともに理学療法の両輪であり、重要な治療手段である。物理療法は様々な生体反応に好影響をもたらし、運動療法と併用・同時施行することで治療効果を相乗的に高められる。物理療法には様々な手段があり、それぞれに適応と禁忌が存在するため、物理療法を理学療法士として臨床経験のある教員が担当し、学生が理解を深める一助とする。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「物理療法学総論」<br>一般目標<br>1．物理療法の定義と今後の課題について理解する<br>2．物理療法により賦活される主な鎮痛メカニズムについて理解する | 「物理療法の概要を知る」<br>到達目標<br>1．物理療法の定義と今後の課題について列挙することができる<br>2．Gate control theory について説明することができる<br>3．内因性オピオイドシステムについて説明することができる<br>4．下行性疼痛抑制系について説明することができる<br>5．DNIC について説明することができる | 奥地伸城 |
| 2 | 後期 | 「温熱療法総論・各論」<br>1．温熱療法の分類を理解する<br>2．ホットパック・パラフィン浴について理解する | 「温熱療法の特徴を理解する」<br>1．温熱療法の分類方法を説明することができる<br>2．温熱療法の作用・効果について理解することができる<br>3．ホットパックの適応と禁忌を記述することができる<br>4．パラフィン浴の適応と禁忌を記述することができる | 奥地伸城 |
| 3 | 後期 | 「極超短波療法、超短波療法」<br>1．電磁波の特性、極超短波・超短波による熱発生機序を理解する<br>2．逆 2 乗の法則、ランバートの余弦の法則から、適用方法に関する留意点を理解する | 「極超短波療法、超短波療法」<br>1．極超短波療法の治療原理・治療機器の特性、治療方法を理解する<br>2．超短波療法の治療原理・治療機器の特性・治療方法を理解する<br>3．極超短波療法・超短波療法の適応と注意事項・禁忌について述べることができる | 奥地伸城 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 後期 | 「超音波療法」<br>1．超音波の特徴や発生原理・伝播特性・治療器の性能・治療条件・実施方法などを理解する | 「超音波療法」<br>1．超音波療法の有効照射面積、ビーム不均等率について説明できる<br>2．各症状に対する治療条件として周波数・強度・照射時間率について説明できる<br>3．超音波療法の作用・効果について説明することができる<br>4．超音波療法の実施方法と注意事項・禁忌について説明できる | 奥地伸城 |
| 5 | 後期 | 「寒冷療法」<br>1．寒冷療法の作用・効果について理解する | 「寒冷療法」<br>1．RICE 処置について説明することができる<br>2．寒冷療法の適応と禁忌について説明することができる | 奥地伸城 |
| 6 | 後期 | 「水治療法」<br>1．水の物理的作用・効果について理解する | 「水治療法」<br>1．浮力、静水圧、流体抵抗、水の比熱、熱伝導率について説明できる<br>2．渦流浴・ハバードタンク・交代浴の適応と禁忌について説明できる<br>3．水中運動療法について効果と作用、適応と禁忌について説明できる | 奥地伸城 |
| 7 | 後期 | 「光線療法」<br>3．光線療法の概要について理解する<br>4．光線療法の種類とそれぞれの特徴について理解する | 「光線療法」<br>2．光線療法の定義について説明<br>3．赤外線療法の特徴、作用、効果、実施手順、注意事項、禁忌について説明できる<br>4．レーザー療法の特徴、作用、効果、実施手順、注意事項、禁忌について説明できる<br>5．紫外線療法の特徴、作用、効果、実施手順、注意事項、禁忌について説明できる | 奥地伸城 |
| 8 | 後期 | 「電気刺激療法総論」<br>1．電気刺激療法の定義を知る。<br>2．電気刺激療法の種類について知る | 「電気刺激療法総論」<br>2．電気刺激療法に必要な基礎知識について、それぞれの用語とその意味について説明できる<br>3．運動点を示すことができる | 奥地伸城 |
| 9 | 後期 | 「電気刺激療法各論」<br>1．各電気刺激療法の特徴・目的について理解する | 「電気刺激療法各論」<br>1．TENS の効果と作用、適応と禁忌を説明できる<br>2．NMES の効果と作用、適応と禁忌を説明できる<br>3．IFCS の効果と作用、適応と禁忌 | 奥地伸城 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | を説明できる | |
| 10 | 後期 | 「電気刺激療法各論」<br>1．各電気刺激療法の特徴・目的について理解する | 「電気刺激療法各論」<br>1．FES の効果と作用、適応と禁忌を説明できる<br>2．PNS の効果と作用、適応と禁忌を説明できる<br>3．MES の効果と作用、適応と禁忌を説明できる | 奥地伸城 |
| 11 | 後期 | 「筋電図バイオフィードバック療法、牽引療法」<br>6．バイオフィードバック療法の概要を理解する<br>7．牽引療法の概要を理解する。 | 「筋電図バイオフィードバック療法、牽引療法」<br>2．バイオフィードバック療法の作用・効果と適応・禁忌を説明できる<br>3．頸椎・腰椎牽引療法の作用・効果と適応・禁忌を説明できる<br>4．牽引療法機材の使用の実施手順について説明できる | 奥地伸城 |
| 12 | 後期 | 「振動刺激療法、衝撃波療法」<br>1．振動刺激療法の概要を理解する<br>4．衝撃波療法の概要を理解する | 「振動刺激療法、衝撃波療法」<br>1．振動刺激療法の作用・効果と適応・禁忌を説明できる<br>2．衝撃波療法の作用・効果と適応・禁忌を説明できる | 奥地伸城 |
| 13 | 後期 | 「ロボットリハビリテーション」<br>6．ロボットリハビリテーションの概要を理解する<br>7．ロボットリハビリテーションの行われている現場を見学・体験する | 「ロボットリハビリテーション」<br>3．ロボットリハビリテーションの作用・効果と適応・禁忌を説明できる<br>4．実施手順を理解し、装着から施行までを実施できる | 奥地伸城 |
| 14 | 後期 | 「症例検討」<br>6．各症例の症状からどの物理療法が適応かを判別する | 「症例検討」<br>2．各種疾患と各物理療法の適応と禁忌を上げ、理学療法プログラム例を作成できる | 奥地伸城 |
| 15 | 後期 | 「症例検討」<br>1．各症例の症状からどの物理療法が適応かを判別する | 「症例検討」<br>1．各種疾患と各物理療法の適応と禁忌を上げ、理学療法プログラム例を作成できる | 奥地伸城 |
| 成績評価方法 | | 1．科目試験（100 点） | | |
| 準備学習（授業時間外に必要な学修内容） | | 次回実施予定の内容をシラバスにて確認してテキストを熟読しておく | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科　1 学年 |
| 科目名 | 日常生活活動学演習 I |
| 担当者 | 小出悠介 |
| 単位数（時間数） | 1 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義形式　グループワーク　実技 |
| 教科書・参考書 | PTOT ビジュアルテキスト　ADL　羊土社 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 本講義では，日常生活活動の定義や範囲といった理学療法士に必要な基本知識や日常生活活動に関わる，リハビリテーション支援機器の名称や使用方法について講義する．本講義の目的は，日常生活活動に関する基礎知識やリハビリテーション支援機器の使用法やそれを使った歩行パターンを修得し，自己で実際に実行でき，指導できるようになることである。病院での臨床経験のある理学療法士がその経験を生かして授業を行う。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「オリエンテーション」<br>この講義の概要について知る．前半ではグループワークを行う機会が多いため，グループワークを行う上でのお作法について知る． | 「授業概要とグループワークの実施方法」<br>① 日常生活活動学がどのような教科内容か知る．<br>② グループワークを行う上で重要なことを理解し，述べることができる．<br>③ グループワークの作法を意識しながらグループワークを実施できる． | 小出悠介 |
| 2 | 後期 | 「ADL の概念と範囲」<br>歴史的背景を理解し，日本リハビリテーション医学会の ADL の概念を述べることができる． | 「ADL の概念とその範囲」<br>① 現在の ADL の概念に行きつくまでの歴史的背景を知る．<br>② 日本リハビリテーション医学会の ADL の概念を知り，述べることができる． | 小出悠介 |
| 3 | 後期 | 「ADL の広がり」<br>基本的な ADL の自立では現在の社会生活が成立しないことを理解し，広義と狭義の ADL について具体的に述べることができる． | 「日常生活活動と日常生活関連動作」<br>① 日常生活活動をグループワークであげることができる．<br>② 広義の ADL と狭義の ADL について理解する．<br>③ 具体的な項目を ADL と APDL に自分で分けることができる． | 小出悠介 |
| 4 | 後期 | 「障害者分類」<br>ICIDH の機能形態障害・能力障害・社会的不利について理解し，説明できるようになる．また，ICF への変遷についても知る． | 「ICIDH」<br>① ICIDH の概念について知る．<br>② ICIDH の機能形態障害・能力障害・社会的不利について説明できる．<br>③ ICF への変遷について知る． | |
| 5 | 後期 | 「生活機能分類」<br>生活機能分類からみた ADL の位置づけを理解する． | 「ICF と ADL」<br>① ICF の概念について理解する．<br>② ICF の分類項目を説明できる．<br>③ グループワークで ICF の概念を用い，項目を分類できる． | 小出悠介 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | ④　ICF のコード化について知る. | |
| 6 | 後期 | 「ADL 評価指標」<br>　量的評価をする意義を理解し，各 ADL 評価指標の特徴を述べることができるようになる. | 「ADL の評価表」<br>①　量的評価と質的評価の違いと意味を知る.<br>②　評価表を使用する意義を理解する.<br>③　各評価指標の名称と特徴を述べることができる. | 小出悠介 |
| 7 | 後期 | 「自助具・日常生活用具」<br>　自助具・日常生活用具の使用目的や名称，使用方法について理解し，説明できるようになる. | 「自助具・日常生活用具の役割」<br>①　自助具･日常生活用具の役割や目的を知る.<br>②　自助具の具体的名称と用途が説明できる.<br>③　処方の際の注意点を述べることができる. | 小出悠介 |
| 8 | 後期 | 「歩行補助具（杖)」<br>　杖の種類や名称，長さの合わせ方を述べることができる．また，杖の歩行パターンを理解し，説明できるようになる. | 「杖の種類と歩行パターン」<br>杖の名称を述べることができる.<br>杖の高さの合わせ方を 3 つ理解し，説明できる.<br>杖を使用した歩行順序や名称を説明できる. | 小出悠介 |
| 9 | 後期 | 「歩行補助具（松葉杖)」<br>　松葉杖の種類や名称，長さの合わせ方を述べることができる．また，松葉杖の歩行パターンを理解し，説明できるようになる. | 「松葉杖の種類と歩行パターン」<br>①　松葉杖の名称を述べることができる.<br>②　松葉杖の高さの合わせ方を 3 つ理解し，説明できる.<br>③　松葉杖を使用した歩行順序や名称を説明できる. | 小出悠介 |
| 10 | 後期 | 「応用動作（杖)」<br>　杖を使用した，またぎ動作や階段昇降といった応用動作を理解し，説明できるようになる. | 「杖での応用動作」<br>①　応用動作を行う上での注意事項を知る.<br>②　杖を使用した各応用動作を理解し,説明できるようになる.<br>③　階段昇降動作の名称を述べることができる. | 小出悠介 |
| 11 | 後期 | 「応用動作（松葉杖)」<br>　松葉杖を使用した，またぎ動作や階段昇降といった応用動作を理解し，説明できるようになる. | 「杖での応用動作」<br>①　応用動作を行う上での注意事項を知る.<br>②　松葉杖を使用した各応用動作を理解し，説明できるようになる. | 小出悠介 |
| 12 | 後期 | 「車椅子」<br>　車椅子の部分名称や各パーツの役割について理解する. | 「車椅子の構造と各パーツの役割」<br>①　車椅子の構造について知る<br>②　車椅子の各パーツの名称が言える.<br>③　車椅子の各パーツの機能の違いによる代替品を理解し，説明できる. | 小出悠介 |
| 13 | 後期 | 「杖歩行・応用動作指導」<br>　動作名称を聞き，実際に自分がその動作を出来るようになる. | 「杖歩行と応用動作を実際に行う」<br>①　プリントを見ることなく，杖歩行･応用動作が実際に出来るようになる.<br>②　歩行名称を聞いただけでその動作が実際に出来る. | 小出悠介 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 14 | 後期 | 「松葉杖歩行・応用動作指導」<br>動作名称を聞き，実際に自分がその動作を出来るようになる. | 「杖歩行と応用動作を実際に行う」<br>① プリントを見ることなく，杖歩行・応用動作が実際に出来るようになる.<br>② 歩行名称を聞いただけでその動作が実際に出来る. | 小出悠介 |
| 15 | 後期 | 「その他の歩行補助具とまとめ」<br>これまでに講義してきた歩行補助具以外の物を知る．さらにこれまでの要点のまとめを行い，疑問を解消する. | 「その他の歩行補助具とまとめ」<br>歩行器やシルバーカーといった歩行補助具の種類や適応を知る.<br>これまでの講義の要点のまとめを行い，疑問を残さない状態にする. | 小出悠介 |
| 成績評価方法 | | 小テスト（10 点）<br>科目終了試験（90 点） | | |
| 準備学習など | | 講義では補足プリントを配布します. | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科・1学年 |
| 科目名 | 生活環境学 |
| 担当者 | 奥地伸城 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義、グループワーク |
| 教科書・参考書 | 生活環境学テキスト　監修　細田多穂　南江堂 |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 我々理学療法士は生活活動の機能に着目し、高齢者や障害者自身ができる限り自立した在宅生活が営めるよう支援することが求められている。授業では生活環境を、住居や公共交通機関などの物理環境のみならず、家族や介護者などの人的環境からも捉え、障害者・高齢者が主体的な生活が送れるための生活環境整備・改善の支援を中心に、臨床経験のある理学療法士が現在の住宅改修の方法、および福祉政策などについて授業展開する。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 後期 | 「生活環境学の考え方」<br>一般目標<br>①高齢者の生活支援の考え方を理解する<br>②生活環境整備における理学療法士の役割について理解する | 「理学療法における生活環境学の概念」<br>到達目標<br>①生活環境学の範囲について説明できる<br>②ICFの特徴を説明できる<br>③一次予防から三次予防について具体的に説明できる<br>④高齢者リハビリテーションの考え方を説明できる | 奥地伸城 |
| 2 | 後期 | 「日本における生活環境の特徴と課題」<br>一般目標<br>①高齢者・障害者を取り巻く生活状況を理解する | 「高齢者・障害者を取り巻く生活状況」<br>到達目標<br>①高齢化の特徴･介護問題と障害者の状況･住宅改修の実態について説明できる<br>②家庭内事故の発生状況や住環境整備の必要性について説明できる<br>③日本式住宅の特徴と問題点について説明できる | 奥地伸城 |
| 3 | 後期 | 「生活環境整備に関する法的制度」<br>一般目標<br>①介護保険の概要を理解する<br>②障害者福祉施策の概要を理解する | 「生活環境整備に関連する諸制度」<br>到達目標<br>①介護保険における住宅改修と福祉用具の取り扱いについて説明できる<br>②障害者総合支援法について説明できる | 奥地伸城 |
| 4 | 後期 | 「生活環境整備の進め方」<br>一般目標<br>①生活環境の整備に関する必要事項を習得する | 「生活環境整備のプロセス」<br>到達目標<br>①生活環境の問題点を抽出できるようになる<br>②障害の程度に対応した改善策を考えることができるようになる<br>③生活環境整備においてチームアプローチ | 奥地伸城 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | を行う際、専門職としての立場から意見を述べることができるようになる<br>④動作能力の違いに合わせた生活環境への対応方法を説明できる<br>⑤生活環境整備におけるチームアプローチの重要性を説明できる | |
| 5 | 後期 | 「生活環境整備の基本①」<br>一般目標<br>①段差の解消・スペース・床材の整備方法について理解する | 「段差・スペース・床材の整備」<br>到達目標<br>①段差の基本的な解消方法、スロープの勾配について説明できる<br>②車椅子の移動や回転に必要なスペースについて説明できる<br>③移動方法に応じた床材の選択ができる | 奥地伸城 |
| 6 | 後期 | 「生活環境整備の基本②」<br>一般目標<br>①生活環境整備における手すりの取り付けの考え方を理解する<br>②生活環境整備における建具の考え方を理解する | 「手すり・建具の整備」<br>到達目標<br>①手すりの種類と設置上の注意事項について説明できる<br>②建具の種類とその特徴、建具の幅員、住宅改修のポイントについて説明できる | 奥地伸城 |
| 7 | 後期 | 「玄関・アプローチの環境整備」<br>一般目標<br>①玄関・玄関周囲の整備を行う際の着眼点を理解する | 「玄関・アプローチの整備」<br>到達目標<br>①一般的な玄関整備の着眼点や道路から玄関までのアプローチについて説明できる<br>②玄関周囲のスペースごとの用語や実数地について説明できる<br>③玄関周囲の構造・スペースについて説明できる | 奥地伸城 |
| 8 | 後期 | 「廊下・階段の環境整備」<br>一般目標<br>①居住空間における廊下・階段の環境を把握する | 「廊下・階段の整備」<br>到達目標<br>①車椅子が通行するために必要な廊下の幅員について説明できる<br>②車椅子あたりの構造について説明できる<br>③階段の構造と種類について説明できる<br>④住宅改修に必要な廊下・階段の標準寸法について説明できる<br>⑤福祉用具の活用について、理論と具体的方法を述べることができる | 奥地伸城 |
| 9 | 後期 | 「トイレの環境整備」<br>一般目標<br>①トイレの環境整備の意義と目的について理解する | 「トイレの整備」<br>到達目標<br>①トイレの環境整備の意義と目的について説明できる<br>②身体機能レベルに応じたトイレの環境整備を説明できる<br>③トイレで使用する福祉用具の特徴や適応を説明できる<br>④身体機能レベルに応じたトイレの環境整備を説明できる | 奥地伸城 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 後期 | 「浴室・脱衣室の環境整備」<br>一般目標<br>①浴室・脱衣室における基本的な住環境整備留意する事項について理解することができる | 「浴室・脱衣室の整備」<br>到達目標<br>①段差解消時の留意点について説明することができる<br>②浴槽の形状と設置種類についてその特徴を述べることができる<br>③浴槽への出入り動作・立ち座り動作における手すりの役割について説明することができる<br>④脱衣室のスペースと設備機器に対する必要な配慮について述べることができる<br>⑤入浴動作を補助する福祉用具の種類とその活用方法について説明することができる | 奥地伸城 |
| 11 | 後期 | 「台所・食堂・居間・寝室の環境整備」<br>一般目標<br>①台所・食堂・居間・寝室における活動・行動と環境整備のポイントについて理解する | 「台所・食堂・居間・寝室の整備」<br>到達目標<br>①台所・食堂・居間・寝室の配置と留意点を説明できる<br>②台所・食堂・居間・寝室の環境調整方法を説明できる<br>③生活機能に合わせた台所・食堂・居間・寝室に適した設備機器や福祉用具について説明できる | 奥地伸城 |
| 12 | 後期 | 「疾患別環境整備①」<br>一般目標<br>①中枢神経障害における住環境整備の特徴と具体的方法を理解し、各対象者やほかの専門職種への助言及び指導が実施できる | 「中枢神経障害の特徴と対応」<br>到達目標<br>①脳血管障害における移動能力に応じた具体的な住環境整備について説明することができる<br>②パーキンソン病における Hoehn&Yahr 重症度分類および代表的な症状に応じた具体的な住環境整備について説明することができる | 奥地伸城 |
| 13 | 後期 | 「疾患別環境整備②」<br>一般目標<br>①脊髄損傷患者の生活環境の基本的な考え方を理解する<br>②関節リウマチ患者の生活環境の基本的な考え方を理解する<br>③変形性関節症患者の生活環境の基本的な考え方を理解する | 「運動器障害の特徴と対応」<br>到達目標<br>①脊髄損傷患者の損傷レベルに対応した日常生活活動及び家屋改修について説明できる<br>②関節リウマチ患者に対する関節保護法を考慮した自助具の選定や動作指導と家屋改修について説明できる<br>③変形性関節症患者の身体状況に応じた日常生活活動及び家屋開封について説明できる | 奥地伸城 |
| 14 | 後期 | 「フィールドワーク」<br>一般目標<br>①高齢者や障害者の目線になることで周辺環境の問題点を理解する | 「学内・学外でのグループワーク」<br>到達目標<br>①公共機関を車椅子で利用し、問題点を説明できる<br>②商業施設で車椅子を利用し、問題点を説 | 奥地伸城 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 明できる<br>③学内を車椅子で利用し、問題点を説明できる | |
| 15 | 後期 | 「今までのまとめ」<br>一般目標<br>①これまでの授業で学んだ環境整備のポイントを理解できる<br>②フィールドワークで体験した問題点を理解できる | 「フィールドワーク発表・まとめ」<br>到達目標<br>①グループワークで体験した問題点や改善案を説明できる<br>②これまでの授業内容から、環境整備のポイントを説明できる | 奥地伸城 |
| 成績評価方法 | | グループワークでの発表（３０％）<br>期末試験（７０％） | | |
| 準備学習など | | 1 年次の日常生活活動学Ⅰの授業から車椅子や杖の使用について復習し、指導なくても使用できるようにしておくこと。<br>また、1 年次の解剖学Ⅰ・Ⅱの授業から各筋の作用・支配神経・髄節について復習しておくこと。 | | |
| 留意事項 | | なし | | |

| | |
|---|---|
| 学科・年次 | 理学療法科 1 学年 |
| 科目名 | 臨床実習 I |
| 担当者 | 奥地伸城、小出悠介、辻智之、青木浩代、櫻井泰弘、小川祐太、林尚宜、大橋有加 |
| 単位数（時間数） | 1 単位（45 時間） |
| 学習方法 | 実習（医療・介護施設においての実習） |
| 教科書・参考書 | |

| 授業概要と目的 |
|---|
| 病院、施設の役割や機能、またその中で働く理学療法士の業務を知ることにより、知識習得への動機づけを行うとともに、理学療法を学ぶ学生としての基本的態度の獲得を目標とする。医療・介護分野での臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし実習を進める。 |

| 回<br>（コマ） | 授業日 | 「授業項目」<br>一般目標(GIO) | 「授業内容」<br>到達目標（SBOs） | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 臨床実習<br>I | 後期 | 「臨床実習 I （見学)」<br>一般目標<br>1．病院や施設のしくみや役割を理解する.<br>2．リハビリテーションチームとしての各スタッフの役割について知る.<br>3．対象児・者と疾患や障害について理解する.<br>4．理学療法の実際を見聞し、業務と役割を学ぶ. | 「臨床実習 I （見学)」<br>到達目標<br>1．各種提出物が期限内に提出することができる。<br>2．記述・口頭での報告が適切にできる。<br>3．施設における部門の役割について理解できる。<br>4．実習に対して意欲的・積極的に学習できる。<br>5．職場内での人間関係を円滑に保つことができる。<br>6．日常の規律を自覚し、守っていく態度をとれる。<br>7．感情・情緒面で安定した態度をとれる。<br>8．目標達成を目指して意欲的に努力することができる。<br>9．対象者の人権を尊重できる。<br>10．守秘義務を守ることができる。 | 各専攻教員 |
| 成績評価方法 | 各施設において、実習指導者によって実習目標に基づいた具体的項目の評価を受ける。その評価内容を基に、レポート内容などを総合的に鑑み、学科内の選考において学習目標が達成された場合に合格とする。実習前後のガイダンス等も成績に考慮する項目である。 | | |
| 準備学習など | 臨床実習前には 1 年次で学んだ内容全てについて復習するとともに、患者・利用者、施設の指導者など関係者すべてと円滑なコミュニケーションが取れるようにしておくこと。 | | |
| 留意事項 | 受け身的な態度ではなく、積極的に指導者等に働きかけ、疑問や問題を解決すること。 | | |